なるほど！子どもアカデミー

2018 年度活動報告書

目次

「子どもアカデミー」活動の趣旨と概要..... 1

１．土曜チャレンジ・アップ教室の概要..... 2

２．活動報告..... 4
２－１．チラシ及び企画書..... 4
２－２．活動報告..... 79

３．活動を振り返って..... 167

活動情報の公開..... 170

あとがきにかえて..... 170

「子どもアカデミー」活動の趣旨と概要

子どもアカデミー代表　高木　徹

「子どもアカデミー」は、教師をめざす現代教育学科の学生たちが、小学生に楽しく分かりやすく学習を支援する課外活動です。2013 年度から活動が始まりました。

現代教育学科では２年次秋学期に小学校で「観察実習」を行い、小学校現場の雰囲気に慣れたうえで、３年次春学期に「小学校教育実習」に臨みます。ただ「観察実習」では授業を担当することはできず、「小学校教育実習」で初めて授業を担当する学生たちにとっては、いろいろと戸惑うことも多いと思われます。そこで、「小学校教育実習」の前に、子どもたちに教える機会をつくりたい、という狙いで始められたのがこの活動です。

2018 年度は春日井市教育委員会主催の土曜チャレンジ・アップ教室を開催しました。土曜チャレンジ・アップ教室では、春日井市立小学校 9 校に出向き、小学 4 年生（一部 3 年生）から 6 年生までの子どもたちを対象に、月に 1 回土曜日にセミナーを実施しました。当日までに、学生スタッフは何週間も担当教員のもとで研修を受け、教科学習のほか、授業構成や制作物の指導などを学び、子どもたちに伝えるかにはどのような工夫が必要かを検討しました。土曜チャレンジ・アップ教室での全ての活動は活動の経緯や具体的な出来事を記録し、講座終了後には報告会を実施し、講座内容の振り返りと今後の課題を見出し、本報告書を作成しました。

この一連の活動が 2018 年度の子どもアカデミーの活動です。学生は、小学生の様々な分野の学習をきちんと支援できるよう、大学の授業以外の時間にも準備を重ねており、その準備には、現代教育学科の教科専門の教員たちが強力にバックアップしました。

最後となりましたが、2018 年度の活動は春日井市教育委員会及び春日井市立小学校の学校長をはじめとする多くの方々のご支援を得て活動できたことに感謝申し上げます。このような活動は、学生たちやそれを支える教員の地域貢献の場であると同時に、学生の教育実践力を育てる貴重な機会の場でもあります。今後も持続的に本活動を推進していきたいと考えています。

「子どもアカデミー」教員組織（2018 年度）

教授	高木　徹		
	三島　浩路	長尾　寛子	
准教授	小笠原　豊	橋本　美彦	小池　嘉志
	古市　真智子		
講師	伊藤　大幸	味岡　ゆい	

１．土曜チャレンジ・アップ教室の概要

(1) 活動の経緯・趣旨

本年度は、春日井市立北城小学校・八幡小学校・松原小学校・東野小学校・勝川小学校・鳥居松小学校・松山小学校・春日井小学校・小野小学校にて、土曜日の午前中 2 時間を用いて、活動を実施した。対象は 4～6 年生（一部 3～6 年生)。「楽しくてちょっと学べる土曜日学習」をテーマに、児童らが小学校で学習した内容を活かした企画設定を目指し、学習内容の応用を通して、児童らの発展的発想力を養うことが活動のねらいである。本活動は、春日井市教育委員会学校教育課の支援のもとに実施した。

(2) 学生組織

学生は 61 名（1 年生 35 名（PJ1-28 名、PJ2-7 名)、2 年生 15 名（PJ1-13 名、PJ2-2 名)、3 年生 6 名、4 年生 8 名）が参加した。

参加学生を 8 チームに分け、1 チーム 8～9 名とした。1 チームで 1 つの企画を練り、小学校へ出向き企画を行った。企画リーダーは毎月異なる学生が担当し、企画を進行した。土曜チャレンジ・アップ教室の当日運営は、受付から誘導、企画担当などすべてを 1 チームのみで対応した。しかし、毎企画、別のチームから取材班 2～4 名を派遣させ、企画後、子どもアカデミーHP 用の報告書と企画に対する意見書をまとめ、お互いの企画に対しての課題を検討した。

(3) 活動スケジュール

土曜チャレンジ・アップ教室は基本的に月に 1 回、土曜日の午前中に小学校へ学生が出向き行った。企画の準備は全体会にて学生間で日程を決め、実施した。企画の日程は表 1 である。

(4) 参加人数

土曜チャレンジ・アップ教室への児童参加は、1 企画定員 30 名と設定し、募集を行った。土曜チャレンジ・アップ教室当日関わった参加者を表 1 に示す。

表 1. 2018 年度土曜チャレンジ・アップ教室活動実績

		プログラム	学生リーダー	学生人数（取材者含む）	児童人数	教育関係者	教員	その他（保護者など）
北城小	6月16日	ふりふり発電実験	飯沼（4年）	6	30	1	高木	0
	7月7日	スケルトン葉っぱを作ろう	若林（3年）	8	23	1	味岡	0
	10月13日	小さな力持ち！？の秘密を解明しよう！	中野（3年）	6	15	1	長尾	0
	12月15日	回ってみえる！？体の秘密を解き明かそう！	西（3年）	6	14	1	高木	0
八幡小	6月16日	カラフル☆ぷにぷにビーズ	星野（2年）	15	12	3	古市	2
	10月13日	ペットボトルにたつまきが出現！？	北野谷（1年）	11	10	2	古市	1
	11月10日	マジックのタネを考えて作るまほうのボトル	稲垣（4年）	8	18	1	高木	0
	12月15日	ほかほか熱をつくろう！	大河内（1年）	9	13	2	橋本	0
松原小	6月9日	身近なものの隠れた力	河合（2年）	13	14	2	橋本	0
	6月30日	僕の！私の！ランプシェード	村上（2年）	12	24	2	古市	0
	11月10日	楽しく手洗い！石鹸スクイーズ	伊藤（1年）	10	22	2	高木	0
	12月15日	クリスマスコースター	森田（1年）	10	18	2	味岡	0
東野小	6月16日	オリジナル紙を作ろう	中島（2年）	13	11	2	高木	1
	7月7日	音の宅急便	志野（2年）	8	12	2	味岡	2
	10月13日	色が変わる！？マジックペーパー	高橋（1年）	12	7	2	古市	1
	12月15日	静電気マジック	川瀬（1年）	11	8	1	高木	0
勝川小	6月9日	音の宅急便	志野（2年）	10	19	1	長尾	2
	6月30日	オリジナル紙を作ろう	堀田（2年）	10	16	1	古市	2
	10月6日	どこまで見える！？手作り望遠鏡	石田（1年）	17	21	2	伊藤	8
	11月17日	ビリビリ10万ボルト！	高橋（1年）	11	25	1	橋本	0
鳥居松小	6月16日	僕の！私の！ランプシェード	加藤（2年）	12	23	2	長尾	1
	7月7日	見えない何かを映し出せ！	峪田（2年）	11	19	2	三島	0
	10月6日	1円と10円を分けるおもちゃを作ろう	松下（1年）	9	21	4	伊藤	1
	11月17日	世界の見え方を変えてみよう！	荻野（1年）	11	10	2	橋本	0
松山小	6月9日	My顕微鏡を作ろう	鈴木（2年）	13	29	2	味岡	2
	6月30日	カラフル☆ぷにぷにビーズ	井上（2年）	17	40	2	伊藤	3
	10月6日	色が変化するのはへんか？	松原（1年）	12	14	1	三島	1
	11月17日	昔を知ろう！作ってみよう！	杉浦（1年）	9	17	2	伊藤	0
春日井小	6月9日	ふりふり発電実験	飯沼（4年）	6	19	1	味岡	0
	6月30日	音を見てみよう	飯沼（4年）	6	19	1	伊藤	0
	10月6日	さわったらこおる水実験	中野（3年）	6	21	1	三島	0
小野小	7月7日	My顕微鏡を作ろう	竹内(2年)	9	17	3	三島	4
	11月17日	スーパーボールを作ろう	鈴木（3年）	8	27	1	伊藤	0

学生人数	335
児童人数	608
教職員ほか	120
合計	1063

２．活動報告

土曜チャレンジ・アップ教室 2018 で提案した企画は 26 種類である。全体目標として、「教科横断的な学習づくりを目指して」を立て、2 教科にわたる学習内容を考慮した企画の立案を目指した。

２－１．ちらし及び企画書

（１）身近なモノの隠れた力！？

タイムスケジュール

学生の目標	・楽しんで学んでもらう。 ・適切に説明を行う。
児童の	・時間の意識をする。

目標	・普段とは異なるモノの力について学ぶ。

時間	学生の役割 【担当】	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ 【河合】	・起立、礼、着席	学生に聞いてほしい内容 ・名前
9:30 ～ 9:33 ＜3＞	注意事項連絡 【河合】	・今日の活動をするうえで、守ってもらうべきことを連絡する。 →子どもがしっかり聞く体制を取れるようにし、理解したかを確認	
9:33～ 9:40 ＜7＞	社会・導入 【三島】	・3R があることの説明 ・リサイクルについての簡単な説明 ・リサイクルについてクイズ ＜問題1＞ リサイクルできるものはどれ？ A．2　パソコン ＜問題2＞ リサイクルされたものは何でしょう A．3　卵パック	・児童の注目を集めさせてから授業を始める
9:40～ 9:50 ＜10＞	社会・追究 【森田】	・リデュース、リユースの説明 ・3R の意味 ・皆にできることは？ →班ごとに2分くらい考えさせて、発表してもらう ・例を出す	・タイマーの準備
9:50～ 10:21 ＜31＞	製作 【内山】	・PBC カレンダーのつくり方の説明	画びょうの針が危険なため注意喚起を行う
10:21～ 10:24 ＜3＞	社会・まとめ 【峪田】	・3R とはどのようなものか ・3R がなぜ大切か	河合、大澤で休憩時のお茶を配布する準備を行う。
10:24～ 10:34 ＜10＞	休憩 【濱島】	・休憩時の注意事項を伝える。 ・休憩終了の時間をしっかり伝える ・春日井市からお茶が配布され	・時間の前後で、終了時間が変わるため、指示をする。（河合） ・休憩時の役割

		るため、班ごとに配る。 ・休憩時に問題が起きないよう注意する。	バットの準備（河合・大澤） 廊下やトイレ（峪田） 室内見守り（1年生）
10:34～ 10:42 ＜8＞	理科・導入 【大澤】	・電子オルゴールについて説明 →鳴らすためにはどうつないだらいいか ・どんな曲が流れたか ・回路の途中で鍵をつないだら、電子オルゴールは鳴るのかな	・バットの準備をしておき、各班の担当生徒に渡す
10:42～ 10:57 ＜15＞	理科・追究① 【西村】	・電池の実験をする 電子オルゴールが鳴るのは、何を間に入れた時か調べてもらう。	
10:57～ 11:02 ＜5＞	理科・追究② 【萩野】	・なぜ追究①の実験の結果となるのか説明 →電気が流れるものと流れないものがある	簡単にオルゴールの音が流れる仕組みを説明する。
11:02～ 11:05 ＜3＞	全体まとめ 【河合】	今回の活動で学んだことのまとめ 主に電気のこと	認定証の仕分け （大澤）
11:05～ 11:15 ＜10＞	感想記入 【日下部】	名札を回収し、認定証を配布する。	認定証 →時間の都合上長い時間はとれない。
11:15～ 11:16 ＜1＞	あいさつ【河合】	次回の企画の説明を行い、挨拶をする。	次回予告
12:00	完全撤収	・片付けがきちんと行われたか、忘れ物が無いかを再度確認し、担当の先生・なかよし教室の方にご挨拶をする。	→小学校を出るまで油断しない。 →時間厳守。

活動 1

○活動目標　　[アカデミー全体目標] 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 社会)	(教科 理科)
3R(リユース、リデュース、リサイクル)について クイズを通しながら学ぶ。	身近にあるものが電気が通る、通らないを調べ、どんなものが電気を通すのかを知る。

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
理科の導入と追究の実験のところ。私たちが出したもの以外にも、自ら気になったものにも電気が通るのか調べてもらう。	画びょうの針が危険なので、指や目をさしたりしないようにする。

活動 2

○活動目標　　[アカデミー全体目標] 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 社会)	(教科 理科)
リユース、リデュース、リサイクルをする事によって、地球環境に、どのような良い事があるのかを知ってもらい、分別をしようとする気持ちを持って欲しい。	電子オルゴールが、どのようにして鳴るのか、その仕組みや原理について、しっかりと学んで欲しいと思う。

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
「電子オルゴールが鳴るのは、何を入れた時か」といった活動がある。その活動は、児童が、電子が通る物と通らない物を判別する活動であり、児童に楽しんでほしい場面である。	今回の活動では、画鋲を使用するため、学生は、児童をしっかり観察し、児童が危険な事をしないように注意する事。

（２）音の宅急便

タイムスケジュール

学生の目標	楽しく明るく無事に終える
児童の目標	音に興味をもつ

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30 （5分）	あいさつ[志野] 導入[志野]	・起立、礼、着席 注意事項	

9:35 （10 分）	クイズ[渡辺・石田]	電話・音につながるクイズ	ホワイトボード ホワイトボードマーカー 水の入ったグラス
9:45 （15 分）	説明１[渡辺・石田]	音の正体がなんなのかの説明。 音叉と水を使って振動を目に見える形で行う。	椅子をしまうよう指示。 パソコンの周りは近づけない。 おんさ・水の入った桶
10:00 （5分）	材料確認[川瀬]	過不足なく用意があるか児童とともに確認する。	パットに用意したものを配布する。[各班の担当学生] ハサミは各班の先生が所持
10;05 （5分）	説明2[川瀬]	糸電話の作り方の説明	演示を行う 椅子をしまうよう指示
10:10 （10 分）	作業1	児童へ声掛けを行う。	ハサミ・針金を使用することがあるため注意
10:20 （15 分）	休憩[南部]	注意事項の伝達 時間を伝える	椅子をしまうよう指示
10:35 （25 分）	鑑賞[木村]	糸によって変わる音や、糸電話をたくさんつなげてもできることを説明。	交差の糸電話（志野） 鑑賞は班ごとで行う。 糸電話（二人一組） 鑑賞シート配布[南部]
11:00 （10 分）	副実験 まとめ[安井]	エコーマイクを使って音の伝わり方をさらに深く学ばせる。	班に1つエコーマイク配布 [石田]
11:10 （10 分）	感想記入・認定書配付 [安井]	児童に名札の裏に感想を書いてもらい、認定証と交換する。	認定証配布 [渡辺]
11:20	次回予告 あいさつ[志野] 見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	
12:00	完全撤収		

活動 1

○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 理科　)	(教科 図工　)
活動を通して、音について興味をもち、音とは何なのかについて学んでほしい。	ものをつくることの楽しさ、また、感覚を通して自分の作品の良さや友達の作品のおもしろさに気づくこと。

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
糸を交差しても周こえることや、糸によって周こえ方等が変わるという所を楽しんでほしい。	はりがねやはさみを使用する場面があるので、注視しておく。

活動 2

○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 理科　)	(教科 図工　)
活動を通して、音について興味をもち、音とはなんなのかについて学んでほしい。	制作にあたって、ものづくりのおもしろさ、また感覚を通してあたらしい発見をしてほしい。

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
感覚を楽しんでほしい。糸を交差してもすべてに聞こえることや、糸によって音が変わるという所を楽しんでほしい。	安全面には最も注意して進めていきたい。児童はりがねを触わる場面があるので、注視しておく。

（３）オリジナル紙を作ろう

タイムスケジュール

学生の目標	・積極的に児童とコミュニケーションをとること。 ・人前に立って話すことに慣れること。
児童の目標	・身近なリサイクルできるものを知り、生活で実践すること。

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ[中島]	・起立、礼、着席	
9:35	導入[中島]	・企画説明、注意事項	
9:40	材料確認[高橋]	・過不足がないかの確認を児童とともに行う。	

9:43	実験[石田][高橋]	・紙をめくってちぎる。 ・どの量で紙が作られるか知ってもらい、学生が作ってきたことを言う。	
10:00	説明1[河田]	・飾りつけようの和紙を好きな形に切ってもらう。	・児童に何色の紙を作るか聞き、紙の準備をする。(二年)
10:05	作業1	・児童へ声掛けを行う。 〔大きくなりすぎないように指示も〕	・班で一人ハサミを取りに来る。 ・ハサミを使用することがあるため注意
10:15	説明2[中村未][山次]	・やり方を伝える。	・児童に紙の色を聞いて、学生が紙一枚分用意する。
10:20	作業2	・バットの上で牛乳パックを細かくしたものを型に流し込む。 ・和紙の飾りをつける。 ・新聞と雑巾で水気を抜く。 できた人から、学生がドライヤーで紙を固める。	・水をこぼさないように気を付ける。 ドライヤー担当　[高橋][山次][中村未]
10:30	休憩[中村優]	・注意事項の伝達 ・時間を伝える。	・椅子をしまうよう指示
10:40	クイズ[堀田][才]	・ホワイトボードを使ってリサイクルについての問題	・答えだけではなく理由も聞く。
11:00	鑑賞[浅井]	・児童の作ったものを褒め、ほかのこの作品を見るよう促す。 ・自分の作品のポイントと友達の作品の良い所を書く。	・作品に触らないように声かける。
11:10	まとめ・感想記入・認定書配付 次回予告[中島]	・児童に名札の裏に感想を書いてもらい、認定証と交換する。	認定証分担 [　浅井　]
11:20	あいさつ、見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・お見送りがない学生は片付け	

		する。	
12:00	完全撤収		・班の一人が一階までお見送り→送ったらすぐに戻って片付けの手伝い。

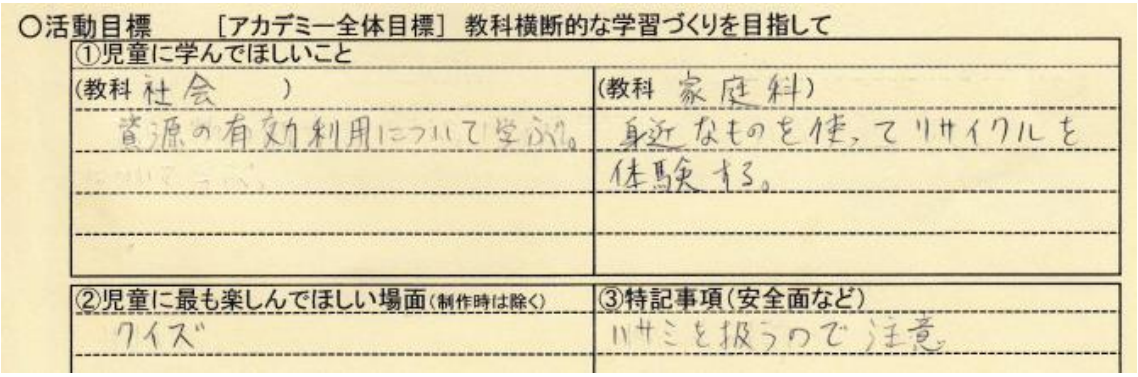
活動 1

○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 社会　)	(教科 図工　)　(家庭科)
廃棄は的な処理や資源の有効利用について	鑑賞　使えなくなったもののリサイクル

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
オリジナル紙が完成したのを見たとき。	はさみの使い方に注意する

活動 2


○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 社会　)	(教科 家庭科)
資源の有効利用について学ぶ。	身近なものを使ってリサイクルを体験する。

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
クイズ	ハサミを扱うので注意。

（４）カラフル☆ぷにぷにビーズ

タイムスケジュール

学生の目標	適切に説明を行えるようになる。 活動の雰囲気を知る。
児童の目標	時間を意識する。 薬品の取り扱いに留意する。

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30 {5}	あいさつ[]	・起立、礼、着席(児童にやらせたい)。 ・注意事項。	・来た順番にマステ×２に名前を書かせる。

		※食べられないことをしっかり伝える。	
9:35 {10}	導入[]	・人工いくらについて(いつからあるのか、作られた理由等)。	
9:45 {5}	理科・材料確認① []	・不足している材料などがないか確認する。 ・バットの中身を確認する。	・教卓の上に一人分の材料をトレーに入れて置いておく。 ・班付き学生も児童と確認し合う。
9:50 {5}	説明①[]	・工程をわかりやすく伝える。 ・一人一色ということを伝える。 ・10cm くらいの高さから落とさせる。 ・色を混ぜない。 **※食べられないことをしっかり伝えてください。**	・各班みんなで協力して作ろう。
9:55 {15}	制作①[各班]	・作り方のスライドは前で提示。 ・各薬品を混ぜた水を配る。 ・水性絵具を用意する。 **・各班、児童が色を混ぜないように指導する。** ・バイキング方式。	・水性絵具は 6 色から選ばせる。
10:10 {10}	理科・発展①[]	・ooho!(オーホー！)をプニらせる。	・強く触らせないよう留意する。 ・配布した 6 色以外の絵具を使う。
10:20 {5}	休憩[]	・休憩時の注意事項を伝える。 ・休憩終了の時間をしっかり伝える ・アルギンの回収と新しいアルギンとプラコップ配布。(全体補助) ・この時間にスポイトを新しくする。	・水分補給、立ち入り禁止場所の再確認、走り回らないなどの注意事項の徹底。 ・時間が変わるかもしれないので注意。 ・休憩終わりの時間までしっかりと伝える。
10:25 {20}	制作②[各班]	・蛍光色(3 色)を追加する。 ・仕上げ作業を行う。 ・①の繰り返し。 ・作り方の紙を各班に用意する。	・新色の説明を各班ごとに行なってください。

		・水のり、水は学生が入れる。（1～3班は水のり、4～6班は水） ・10 間作成。残り 10 分でのりと水を学生が入れる。	
10:45 {5}	家庭・導入②]	・薬品が身の回りに使われていることを知る。	・アルギン酸ナトリウム、乳酸カルシウム ・試験管以外回収（全体補助）
10:50 {25}	家庭・発展②[] アルギン酸の状態による	・食べ物ビンゴゲーム！（15 分） ・今回、学んだことを活かした内容にする。 ・身の回りに使われていることを知る。 ・ブラックライトを当てて蛍光色の人工いくらが光っているのを見る。（10 分）	・景品をある程度準備しておく。（薬品の状態による） ・食べ物の表を準備して、選べるようにする。 ・子どもたちにカードを引いてもらうようにする。 **※ブラックライトを直接見せないように注意。**
11:15 {5}	感想記入[]	・名札を回収し、認定証を配布する。	・全体補助がビンゴの時間に分けておく。
11:20 {5}	あいさつ[]	・次回の企画説明を行い、挨拶をする。	
11:25	見送り、片付け[全員]	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	・ゴミ、汚れがないようにきっちりと片付けを行う。 ・現状復帰。
12:00	完全撤収	・片付けがきちんと行われたか、忘れ物が無いかを再度確認し、担当の先生・なかよし教室の方に挨拶をする。 ・帰るぞ！！	・小学校を出るまで油断しない。 ・時間厳守。

活動 1

○活動目標　　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 理科　　)	(教科 家庭科　　)
アルギン酸ナトリウムと乳酸カルシウムについて化学反応で知ってもらう。化学(実験)の楽しさを感じさせる。	今回使用する薬品が身近にあることを知る。

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
人工いくらと同じ原理のohoo!を触らせるとき。様の硬さや反応して固まっていく様子の観察。	今回、作成する人工いくらは、絶対に食べられませんということを伝える。

活動 2

○活動目標　　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと			
(教科 理科　　)	社会科	(教科	家庭科)
アルギン酸ナトリウムと乳酸カルシウムについて化学反応で知ってもらう。	水産業について(いつから人工いくらは作られるようになったのか、熱など)歴史から知ってもらう		アルギン酸と乳酸カルシウムが使われているお菓子など食材を使ったビンゴゲームを行うことで、身の周りにつかわれていることを知ってもらう。

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
食材ビンゴゲーム(家庭科)の部分で楽しく、面白く身の周りで使われているものの中にアルギン酸と乳酸カルキウムがあることを知ることができるから。	ブラックライトを使用するため、直接見ないように指導する。失明するおそれがあるため、薬品を使うため、目などに入らないように教員役の生徒がしっかりと見守る。

（５）ぼくの！わたしの！ランプシェード

タイムスケジュール

学生の目標	企画の進行の仕方を覚える。 子供との接し方を学ぶ。
児童の目標	光が何を通して、何を通さないのか学ぶことを通して、光の性質を知る。

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ[加藤]	・起立、礼、着席 ・注意事項を伝える	
9:30	導入[高野]	・児童の注目を集める ・ランプシェードとは？の説明	試作品

		・今回作るランプシェードの紹介	
9:32	説明①[平澤]	・和紙、カラーペーパー、セロハンのちぎり方の説明 ・箱の線のとこまでちぎったものを入れることを伝える	紙セット(和紙、カラーペーパー、セロハン)、ちぎった紙を入れる容器、余った紙を入れる容器
9:35 8 分	制作①	・全体補助はこの時間に水溶きボンドを作る	紙セット、ちぎった紙を入れる容器、余った紙を入れる容器
9:45	説明②[伊藤]	・和紙、カラーペーパー、セロハンの貼り方の説明 ・ボンドを触る前に必ず手袋を着用することを伝える ・容器の内側には貼らないことを伝える	演示 ちぎった紙、透明の型、水に溶かしたボンド、手袋
9:50 10分	制作②	・ちぎった紙が散乱しないように注意させる ・ボンドはバットから出さないように注意させる。 名前を貼ったトレーに、作品を置いてもらう。	ちぎった紙、透明の型、水に溶かしたボンド、手袋、ウエットティッシュ
10:00	休憩[林]	・走り回らせないようにする ・立ち入り禁止場所には入らないように伝える。 ・水分をとってもらう ・この時間に学生は制作で使ったものを回収する。	ホワイトボード、貼る紙、候補の紙を配る。
10:10	クイズ[村上]	・班の担当の人は、時間内に意見がまとまるよう、補助する ・通す・通さないの予想を理由もつけて発表する。 ・班の中で一人、代表で発表する	ライト、黒い紙、セロハン、和紙、カラーペーパー、アルミホイル、コーラ、CCレモン、サングラス、赤い下敷き、緑の下敷き、重ねたもの、わた、黒い袋、白い袋
	候補決め 2 分		
	予想 1 分		
	予想発表		
	実験説明[夫馬]		
	実験・結果 5 分		
	結果発表[關谷]		
10:40	実験の説明[關谷] 鑑賞カード説明	・全体補助は副実験で使用した道具をトレーごと回収。	・作品を返却、鑑賞カード、鑑賞用箱配布
10:50	鑑賞説明[松下]	・鑑賞中はほかの人の作品を壊	・ライト配布

	鑑賞 感想交流	さないように触らない。 ・鑑賞中は走ったり暴れたりしない	
11:10	まとめ［加藤］ 感想用紙記入 認定証贈呈	・名前の裏に感想の記入 名札と鑑賞カードに認定証の配布	認定証整理[全体補助]
11:20	見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	
12:00	完全撤収		

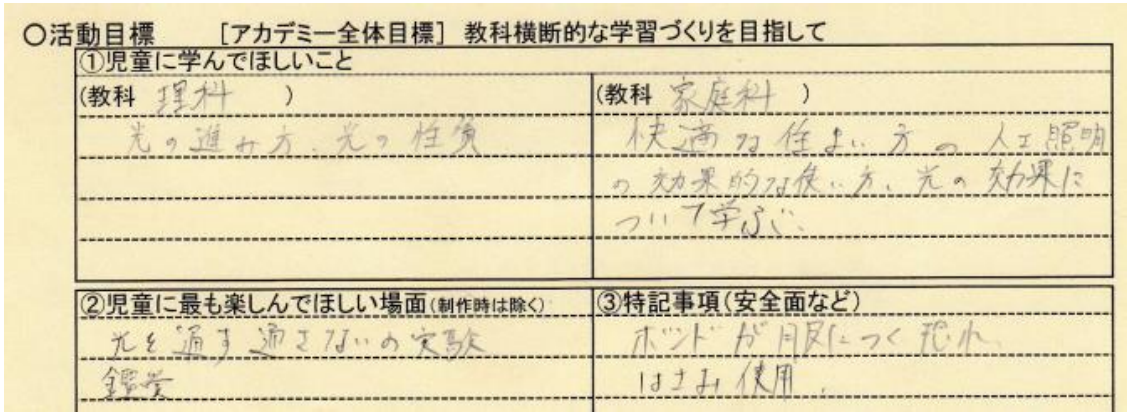
活動 1

○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 理科)	(教科 家庭科)
光の通す、通さないについて 光の進み方、光の性質	快適な住まい方の人工照明の効果的な使い方、光の効果について学ぶ。

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
光を通す、通さないの実験 鏡覚	ホットが服につく危険 はさみの使用

活動 2


○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 理科)	(教科 家庭科)
光の進み方、光の性質	快適な住まい方の人工照明の効果的な使い方、光の効果について学ぶ。

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
光を通す通さないの実験 鏡覚	ホットが服につく危険 はさみ使用

（６）My 顕微鏡で観察しよう！

土曜チャレンジ・アップ教室

My顕微鏡で観察しよう！

4～6年生
（３０名程度）

小さな世界を見てみたいと思ったことありませんか？
身近なものを使って顕微鏡を作ってみよう！

つくった作品は
持って帰れるよ♪

6月9日(土)9:30～11:30
松山小学校(家庭科室)

中部大学の学生が指導します。

※ 保護者の送り迎えをお願いします。
※ お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
※ お子様に上靴を持たせてください。

タイムスケジュー

学生の目標	・しっかりと前に出て元気よく笑顔で話せるようにしよう。 ・将来に生かせるようなスキルを身に着けよう。
児童の目標	・栄養素について理解して日常生活に生かせるようにする。 ・植物の仕組みついて理解する

時間	学生の役割 【担当】	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ 【鈴木】	・起立、礼、着席	
9:30～ 9:33 ＜3＞	注意事項連絡 【鈴木】	・どんな活動をするのかのちょっとした説明。 ・今日の活動をするうえで、守ってもらうべきことを連絡する。 →子どもがしっかり聞く体制を取れるようにし、理解したかを確認	・明るくはっきりと
9:33～ 9:43 ＜10＞	家庭科・導入 【竹内】	・五大栄養素がどんなものか思い出させる。 ・栄養素の働きを理解させる。	
9:43～ 9:53 ＜10＞	家庭科・追究 【大河内】	食品がどの栄養素を持っているか考えさせる。	食品シート
9:53～ 10:13 ＜20＞	家庭科・追究 【松原】	・ゲームで食品の栄養について深めさせる。	食品カード
10:13～ 10:23 ＜10＞	休憩 【榛地】	・休憩時の注意事項の説明 ・水分補給は必ず取るように指示 ・何時何分までか指示	タマネギの薄皮はぎ（柴田、水谷）
10:23～ 10:33 ＜10＞	理科・導入 ＜光合成＞ 【市川・亀井】	・植物の成長の復習 →水・空気・温度・日光 ・中学校で光合成と言うものがあることを紹介	画用紙イラスト
10:33～	理科・追及	・光学顕微鏡とペットボトル顕	ペットボトル顕微鏡

10:43 ＜10＞	＜顕微鏡＞ 【柴田】	微鏡の違いを説明する	を見せる
10:43～ 11:08 ＜25＞	理科･追及② ＜制作･観察＞ 【水谷】	･顕微鏡作りの説明 ･作品を作る上でのアドバイス等 ･観察のアドバイス等	観察のとき太陽の方に向けないよう注意する
11:08～ 11:15 ＜5＞	まとめ 【榛地】	･感想記入 ･認定証配布 ･あいさつ ･帰宅時の注意点	認定証と模型配布 認定証を班に配る（鈴木、柴田） 名札回収
11:15	見送り、片付け	･班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ･班の担当がない学生は片付けする。	
12:00	完全撤収	･片付けがきちんと行われたか、忘れ物が無いかを再度確認し、担当の先生･なかよし教室の方にご挨拶をする。	

活動１

○活動目標　　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 家庭科　)	(教科 理科　)
・栄養素についての基礎的な理解をしてほしい。 ・食品についての知識をたのしんで身につけてほしい。	・植物の場合は、どのように栄養をとっているのかを理解してほしい。 ・顕微鏡のつくりを理解して、顕微鏡を身近に感じてほしい。
②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
・食品カードを使って食品をなんべんかえり食品で神経衰弱をするところ。 ・クイズ形式で顕微鏡について理解していくところ。	・カッター行を使うので手などを切がないようにする

（７）スケルトン葉っぱを作ろう

タイムスケジュール

学生の目標	一人で複数人の児童を指導し、全員が理解できるように支援をする
児童の目標	葉脈は葉の隅々にまで張り巡らされていることを知り、葉脈標本を上手に作ることができる

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30 ～	あいさつ[若林]	・起立、礼、着席 ・今日のルールについて紹介	
9:30 ～ 9:35	葉脈って何だろう[若林]	・スケルトン葉っぱと葉脈について説明 ・スケルトン葉っぱをしおりにすることを紹介	・提示用のしおり
9:35 ～ 9:55	葉を煮込む実験[若林]	・スケルトン葉っぱの作り方の説明 ・演示実験で葉っぱを煮る ・演示実験は***児童に安全めがね***をつけさせ前に集める	
9:45 ～ 9:55	NaOHaq クイズ[若林]	・クイズの前に缶詰ミカンの作り方を動画で知る ・NaOHaq についてのクイズを数問出す ・各班でホワイトボードに答えを書く ・煮込んでいる葉の火に気を付ける	・
9:55 ～	途中経過確認[若林]	・児童に安全メガネをかけさせ、前に集める ・水酸化ナトリウムで煮込んだ葉っぱを塩酸で中和させる ・***児童が前に集まっている間に他の学生は水の貼ったバットを机に配置する***	・西、中野は 各班に水入りバット二つ、タオル一枚、人数分の歯ブラシを配布する
10:05 ～	葉肉の取り方について[若林]	・煮込んだ葉の中和を行い葉肉の除去方法を演示実験する ・児童に葉肉を除去させる	・演示実験は児童を前に集める
10:25 ～	休憩[若林]	・休憩の注意事項 ***・三角コーナーに水を捨てる*** ***・ラミネーター設置***	・使用済みの水は水切りネットを通して捨てる ・ラミネーターの横にフ

		・材料を配布	ィルムを設置
10:40 ～	葉肉が溶ける理由[若林]		
10:45 ～	スケルトン葉っぱの色づけ[若林]	・葉っぱの下に新聞や雑紙を二枚以上引いてから色を付けるように指示する	
10:50 ～	葉っぱのラミネート[若林]	・色づけが終わった児童からラミネートさせる ・***ラミネートは必ず学生がする*** ・ラミネート待ちの児童やラミネートし終わった児童から名札に感想の記入させる	・インクを新聞で吸ったかを確認してからフィルムに挟む
11:20 ～	まとめ[若林]	・最後の挨拶	
11:30	見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	
12:00	完全撤収		

（８）ふりふり発電実験

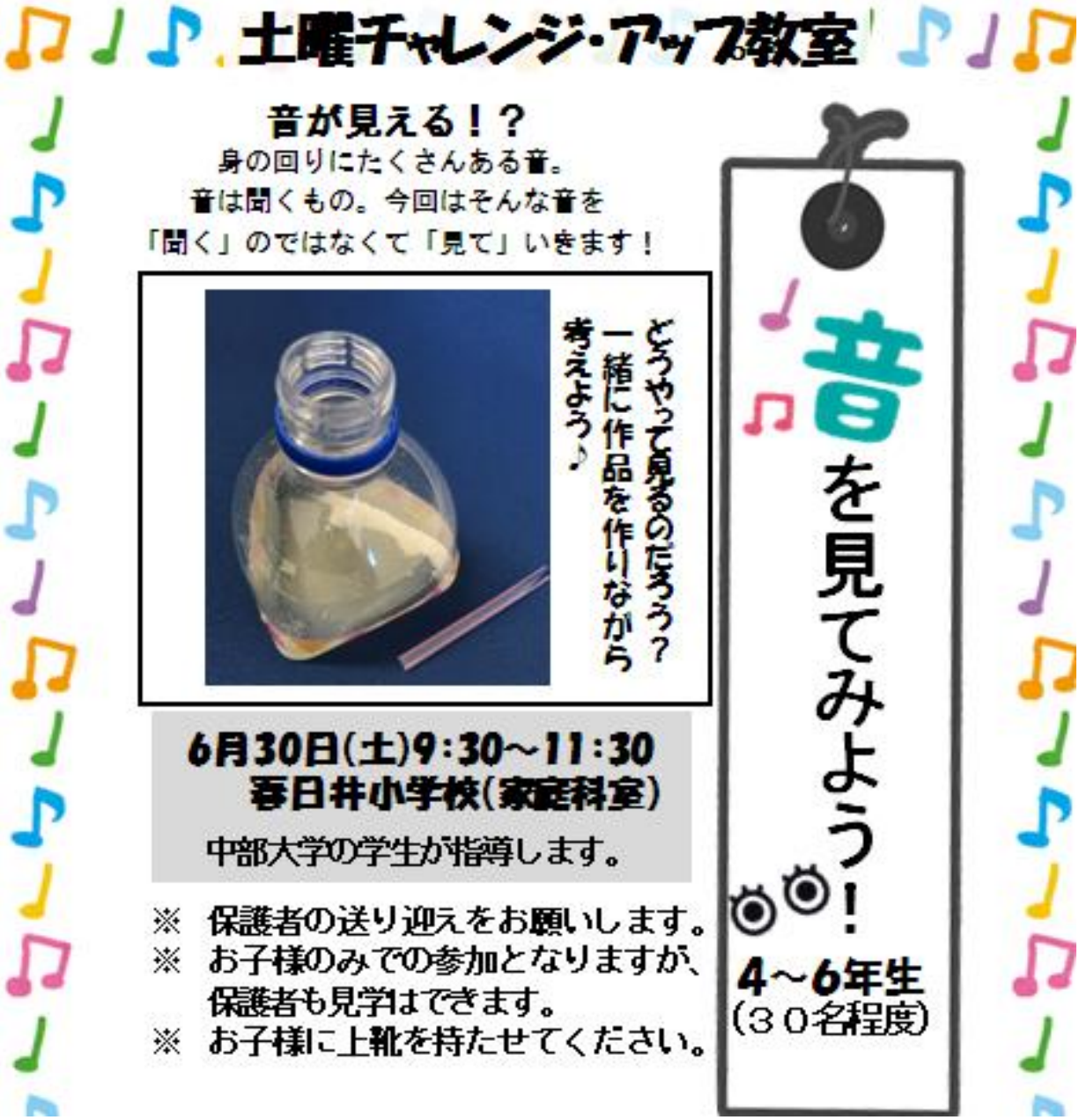
タイムスケジュール

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ 注意事項の確認	① 立ち入り禁止区域 ② 危険行為 ③ 体調不良になったら	
9:35	導入 電気についての話 ・理科単元との関連を説明		

	・明かりをつけるには何を使うか 「懐中電灯→電池」 「部屋の明かり→コンセント」 →今回はそれらを使わないことを伝える		
9:40	材料確認	班の学生は児童とともに不足している材料などがないか確認する	［バットの中身］ ・ストロー ・エナメル線 ・定規 ・はさみ 4 個 ・ビニールテープ 2 個
9:45	説明① コイルの作り方	子どもを前に集め、担当者は前に出て説明する ・コイルとは何かについても説明する（モーターなどの具体例） ・テープでとめたりする作業は一人ではやりにくいので、二人で協力してやるように指示する ・制作の時間が20分であることを伝える（タイマー） その他の学生は静かにするように指導する	
9:55	作業	子どもの安全管理	
10:15	休憩	休憩時の約束を確認する ① 立ち入り禁止区域には入らない ② あばれない ・作業が遅れている子どもには	・休憩中にバットの中に 紙やすり 4 枚 LED（赤、緑各 4 個） ネオジウム磁石 （5 個×4

		そのまま作業を続けさせて良い	人分） ぽんぽん（1 人 2 個×4 人分） を、追加する ・ネオジウム磁石は各班の学生が保管
10:25	説明② なぜ電気が流れたのか 電磁誘導について説明	子どもを前に集める	
10:35	説明③ LEDの取り付け方	・制作時間が 20分であることを 伝える（タイマー） ・班の中で早く終わってしまった子にはペンを用意しておき、作品に絵を描かせたりする	
10:45	作業	子どもの安全管理	
11:05	感想とアンケート	作業が終わってひととおりあそびおわった子供には名札の後ろに感想記入し、アンケートに回答させる。それらと引き換えに認定証を渡す	認定証
11:15	まとめとあいさつ		
11:20	見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	
12:00	完全撤収		

(9)音を見てみよう！



タイムスケジュール

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ		
9:35	導入 ① 『白黒模様が音をつくる⁉』 ② 『音で火が消える⁉』	児童を前に集め、演示実験を行う ① 初めは仕組みを見せずに、どうなっているのか予想させ	〔用意するもの〕 ・スピーカー ・LED ライト

	③ 本日の企画の説明	る。このとき根拠のない予想にならないように助言をする。だいたい予想が出尽くしたら代表者 1 名に仕組みを見せ、その後全員に見せる。 ② 数名の児童に体験させる。火に注意する。 ③ 今回の音の見方についての説明	・導線 2 本 ・単二電池 ・用紙を巻いたモーター付ペットボトル ・ロウソク ・ロウソク立て ・ライター ・筒 ・ついたて
9:50	材料確認	班の学生は不足している材料などがないか児童と共に確認する	〔バットの中身〕 ・ペットボトル 人数分 ・風船 人数分 ・はさみ 人数分 ・ストロー 人数分×2 ・ビニールテープ 3 個 食塩はバットに入れず、学生が所持
9:55	説明	必ず静かになってから説明を開始する。 パワーポイントと実演で説明し、注意点は明確にする。 ★注意点 ・はさみでストローを切るとき、破片が飛ばないように下に向けてゆっくり切る	

		・吹くときは酸欠にならないように休みながら吹く ・風船は引っ張りすぎると破けてしまうので気をつける	
10:10	休憩	休憩時の約束を確認する ① 走り回らない ② 立ち入り禁止区域に入らない 休憩時も児童から目を離さず安全管理に努める	
10:20	作業	説明の通りに作業を進めさせる。 児童の進度を見て導入で使用した2つを体験させ時間調節。 作り終わった児童には食塩をわたす	食塩
11:00	感想とアンケート記入	名札の裏に感想、アンケート用紙に記入が終わった児童に認定証をわたす	認定証
11:15	まとめとあいさつ	音は波であるということを抑える	
11:20	見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	
12:00	完全撤収		

（１０）さわったらこおる水実験

タイムスケジュール

学生の目標	明るく、楽しく、元気よく！！ 緊張しすぎない。
児童の目標	各水溶液の有用性に気づく。

時間	児童の活動･概要	学生の活動･留意点	備品、その他
9:30	あいさつ[中野]	･開始のあいさつ、諸連絡	以降すべて中野。
9:35	理科①導入	･さわったらこおる水の演示実験を行う。	☆飽和酢酸ナトリウム溶液、大きめの瓶、ビニール手袋、

			酢酸ナトリウム →巨大化したものを行う。可能であれば瓶を触らせ、反応熱を感じさせる。
9:40	理科①追及①	・各班に分かれ、さわったらこおる水実験を行う。 →触ったときに手などに異常が見られた場合はすぐにやめさせ、手を洗わせる。	☆飽和酢酸ナトリウム溶液、シャーレ、酢酸ナトリウム →酢酸ナトリウムは食品添加物で使用されているものもあり危険性は少ない。
9:45	理科①発展①	・食品添加物についてのクイズを行う。(3 問程度の予定)	☆ホワイトボード、ペン →学生は協力して行うように促す
9:55	理科①追及②	・さわったらこおる理由について説明する。 →pptでの説明を行う	☆ppt(過冷却の概要)
10:05	理科①発展②	・過冷却の利用について説明する。 →過冷却を利用したエコカイロなどについて知るとともに、過冷却の有用性に気づかせる。	☆過冷却が行われている様子の映像、エコカイロ(あるとよい。)
10:10	理科①まとめ	・過冷却についてのまとめを行う。	☆ppt(過冷却のまとめ)
10:15	休憩	・休憩時の注意事項を伝える。 ・休憩終了の時間をしっかり伝える →時間が変わるかもしれないので注意。	→水分補給、立ち入り禁止場所の再確認、走り回らないなどの注意事項の徹底。 →休憩終わりの時間までしっかりと伝える。
10:25	理科②導入	・マロ―ブルーの色水実験を児童に見せる。 →児童を前に集める。	マロ―ブルー溶液、クエン酸溶液、重曹溶液、レモン汁、ビーカー× 3
10:30	理科②追及①	・色の変化説明 →酸・アルカリで反応していることを説明する。 →どの液体で何色に変わるのか	☆ppt(色水の説明)

		紹介する。	
10:35	理科②追及②	・マロ―ブルーの色水実験の説明をする。 →追及①の説明を聞いて黒板に色水の変化表を作る。 ・色水実験を行う。	☆マロ―ブルー入りペットボトル、卵パック、ピペット、クエン酸溶液、重曹溶液、レモン汁、
10:45	理科②追及③	・マロ―ブルーの反応を利用してオリジナルしおりを作成する。 →変化表を各班に一枚ずつ配る。 →使う液体を変えるときは使う綿棒を変えることを伝える。 ・しおりができた児童から後ろの机でラミネートさせる。	☆クエン酸溶液、重曹溶液、レモン汁、綿棒、ラミネートフィルム、マロ―ブルーをしみこませたろ紙 →時間を見て作成枚数を決める。
11:00	理科②まとめ	・マロ―ブルーについてのまとめを行う。 ・(時間があれば)インジゴカーミンの交通信号反応を見せる。	☆ppt(マロ―ブルーのまとめ)、インジゴカーミンセット
11:10	感想記入	・名札を回収し、認定証を配布する。	☆認定証 →
11:15	あいさつ	次回の企画の説明を行い、挨拶をする。	
11:20	見送り、片付け[全員]	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	→ゴミ、汚れがないようにきっちりと片付けを行う。 →現状復帰
12:00	完全撤収		→小学校を出るまで油断しない。 →時間厳守。

活動１

○活動目標　　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 理科　　)酢酸ナトリウム 酢酸ナトリウムの利用法（ココカイロ、食品添加物）から酢酸ナトリウムの生活への身近さや有用性について学ぶ。	(教科 理科　　) マロープルー マロープルーの反応実験を通して水溶液が変化する科秘性と液性について学ぶ。
②児童に最も楽しんでほしい場面（制作時は除く）	③特記事項（安全面など）
酢酸ナトリウムの生活への利用から有用性について学ぶ。マロープルーの色水実験から指示薬への興味をもたせる。	酢酸ナトリウム、マロープルーともに食品、食品添加物として利用されており安全面での危険性は低い。過冷却については理解させるのは少し難しいと考えられる。

（１１）どこまで見える？手作り望遠鏡！

タイムスケジュール

学生の目標	広く視野を持ち、自ら行動し、子どもが楽しめるような企画にする
児童の目標	光の面白さを学ぶ

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30 (5分)	あいさつ[石田] 導入[石田]	・起立、礼、着席 注意事項	立ち入り禁止カードを用意する
9:35 (10分)	副実験[木村]	光の反射、望遠鏡の原理につながる実験 前に集まって説明	油の入った水おけ ビーカー ホワイトボード、ペン
9:45 (10分)	説明1〔川瀬]	目に見えているものと光の反射の説明。 各班で実験を行う	椅子をしまうよう指示。 コップ、矢印の書いてある紙 十円玉、ぞうきん
10:00 (5分)	材料確認[内山]	過不足なく用意があるか児童とともに確認する	バットに用意したものを配布する。[各班の担当学生]
10;05 (5分)	説明2[南部]	望遠鏡の作り方の説明 絵を描き、虫眼鏡をセットして望遠鏡の筒を固定する	演示を行う 椅子をしまうよう指示
10:10 (15分)	作業1	児童へ声掛けを行う 望遠鏡を作る	ホッチキスを使用するので注意する
10:20 (10分)	休憩[峪田]	注意事項の伝達 時間を伝える	椅子をしまうよう指示
10:30 (25分)	作業2[内山] 作業3[關谷]	蓋部分の作り方の説明をする 望遠鏡を完成させる	ハサミの使用に注意する
10:55 (15分)	鑑賞[安井]	虫眼鏡の位置によって見え方が違うことを発見してもらう 自分と友達の作品を見る	鑑賞は班ごとで行う 鑑賞シート配布[川瀬]
11:10 (10分)	感想記入・認定書配付 [堀田]	児童に名札の裏に感想を書いてもらい、認定証と交換する	認定証配布、ビニール袋配布 [石田]
11:20	次回予告 あいさつ[石田] 見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	
12:00	完全撤収		

活動1

○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科　理科　)	(教科　図工　)
この活動を通して、光の性質について その理解を深めてほしい	工作の楽しさを感じてもらうとともに 手作りで望遠鏡が作れるということを 知ってもらいたい。

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
望遠鏡で、周りがどう見えるかや、 遠くまで見えるという所を楽しんでほしい	レーザーポインターの使用時に目に向けない ように気をつける。

（１２）色が変化するへんか？

タイムスケジュール

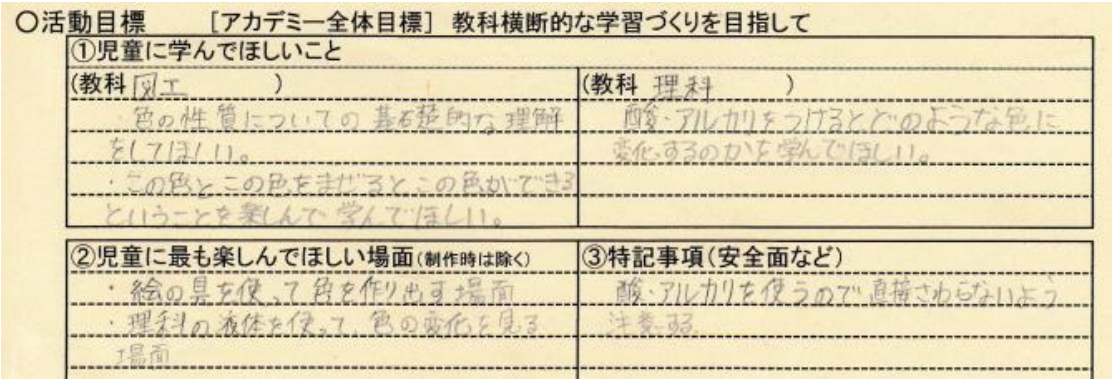
学生の目標	・大きな声で自信をもって話せるようになる。 ・周りをよく見て行動する。
児童の目標	・時間を意識する。 ・なぜ色が変わったのかを理解する。

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9：30	あいさつ［松原］	・起立、礼、着席	

9：30 {3}	注意事項連絡[松原]	・どんな活動をするのかのちょっとした説明。 ・活動をするうえで、守ってもらうべきことを連絡。	
9：33 {25}	図工・導入、発展 ［榛地、市川］	・絵の具を使って指定された色を作る。	絵の具（赤、青、黄、緑)、筆、画用紙､プラカップ(水の入った）
9：58 {15}	理科・導入［鈴木、大河内］	・ＢＴＢ液、リトマス紙、フェノールフタレインの色の変化について説明、演示	酸、塩基の薬品を使うので充分注意する。
10：13 {7}	休憩［中島］	・休憩時の注意事項の説明。 ・何時何分まで休憩なのか指示。	立ち入り禁止場所の再確認、走り回らない、暴れないなどの注意事項の徹底。
10：20 {15}	理科・発展①［亀井］	・信号反応の説明、演示。	・ペットボトルから液体がこぼれないよう注意する。 ・ペットボトルのキャップは決して開けない。
10：35 {10}	材料確認、色塗り・花制作の説明［松原］	・不足している材料などがないか確認する。 ・色塗り・花制作の説明を簡単にする。	
10：45 {25}	制作[各班]	（花制作） ・作り方があっているか注意する。	
11：10 {5}	理科・発展②［水谷］	・色が変化した説明をわかりやすくする。	
11：15 {5}	感想記入､あいさつ[松原]	・名札を回収し､認定証を配布する。 ・帰宅時の注意事項 ・あいさつ	認定証はこの時まで見せないようにする。
11：20	見送り、片付け［全員］	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。	・ごみ、汚れがないようにきっちり

		・班の担当がない学生は片づけをする。	と片づけを行う。 ・戸締り確認！ ・現状復帰。
12：00	全員撤収	・片づけがきちんと行われたか、忘れ物がないかを再度確認し、担当の先生・なかよし教室の方にあいさつをする。 ・帰るぞ！！！	・小学校を出るまで油断しない。 ・時間厳守。

活動１



○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 図工)	(教科 理科)
・色の性質についての基本的な理解をしてほしい。 ・この色とこの色をまぜるとこの色ができるということを楽しんで学んでほしい。	酸・アルカリをつけるとどのような色に変化するのかを学んでほしい。

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
・絵の具を使って色を作り出す場面 ・理科の液体を使って、色の変化を見る場面	酸・アルカリを使うので直接さわらないよう注意。

（１３）１円と 10 円を分けるおもちゃを作ろう

タイムスケジュール

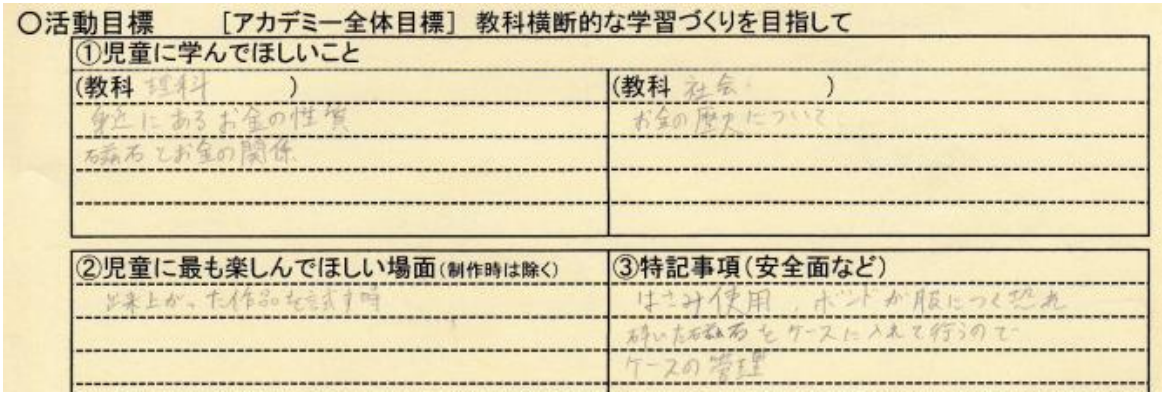
学生の目標	１年生の考えた企画なので企画を最後までしっかりやり通すこと！また、前回の反省をしっかり生かして活動する。
児童の目標	身近にあるお金についての知識を深める。 電磁誘導について少しでも学んでもらう。

時間	学生の役割 【担当】	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ 【松下】	・起立、礼、着席	

9:30～ 9:33 <3>	注意事項連絡 【加藤】	・今日の活動をするうえで、守ってもらうべきことを連絡する。 →子どもがしっかり聞く体制を取れるようにし、理解したかを確認	
9:33～ 9:40 <7>	社会・導入 【伊藤】	まず、昔のお金などの紹介 クイズなどでもいい お金の歴史 現在のお金の性質	・児童の注目を集めさせてから授業を始める 全体補助が製作の準備をしておく
9:40～ 10:10 <30>	製作① 【夫馬】	・制作物の作り方説明 （段ボールを切る→お金が滑りやすくなるようテープを張る→下敷きに段ボールを貼る→下敷きの下側の切った面にマステを張る） 段ボールの板に紙コップくっつける	ハサミを使用するのでけがなどの注意をする 製作の進行は、各班の進行状況を見て班つき学生が進めていく。
10:10～ 10:12 <2>	回収	作り終わった作品の型を回収 →乾かす	
10:12～ 10:22 <10>	休憩 【星野】	・休憩時の注意事項を伝える。 ・休憩終了の時間をしっかり伝える。 ・休憩時に問題が起きないように注意する。	休憩時の役割 副実験の準備（松下、加藤、村上） 廊下、トイレ（星野） 室内見回り（夫馬、伊藤、 平澤）
10:22～ 10:52 <30>	製作② 【平澤】	作品、紙コップにデコレーションをしてもらう （折り紙の型抜き、マジックペン）	回収した作品、紙コップを児童に渡す。
10:52～ 11:12 <20>	制作物の仕組みの説明 【松下】	1円と10円がどうしてわかれるのかをしっかりと分かりやすく説明する	
11:12～ 11:17 <5>	作品を使ってみる 【村上】	実際に作品を使ってみる	スタンド、磁石配布 完成したら1円10円配布 お金の取り扱い注意
11:17～	感想記入	名札を回収し、認定証を配布す	認定証

11:27 <10>	【星野】	る。	
11:27～ 11:28 <1>	あいさつ【松下】	次回の企画の説明を行い、挨拶をする。	次回予告
11:28～	児童の見送り	あまり時間をかけすぎない 終わり次第後片付け	
12:00	完全撤収	・片付けがきちんと行われたか、忘れ物が無いかを再度確認し、担当の先生・なかよし教室の方にご挨拶をする。	→小学校を出るまで油断しない。 →時間厳守。

活動 1



○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 理科)	(教科 社会)
身近にあるお金の性質 石鹸とお金の関係	お金の歴史について

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
完成上がった作品を見る時	はさみ使用　ボンドが服につく恐れ 汚れた石鹸をケースに入れて行うので ケースの管理

（１４）色が変わる・マジックペーパー

タイムスケジュール

学生の目標	酸とアルカリについてわかりやすく説明し、積極的に児童の橋渡しをする。
児童の目標	酸とアルカリの性質を知り、生活の中でどのような役割を果たしているのかを理解する。

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30 （ ５ ）	あいさつ 導入[高橋]	起立、礼、着席 注意事項	

9:35 (15)	説明1[高橋]	酸とアルカリの身近なこと･ものについての関係を説明する	
9:50 (10)	クイズ1[才、小関]	洗濯や掃除で酸性、アルカリ性がどのように使われているかクイズを出す	次の作業の材料配布 [高橋、浅井]
10:00 (5)	説明2 材料確認[中村]	洗剤の違いによる汚れの落ち方について理解してもらう	演示する (アルカリ性洗剤で髪の毛を溶かす) 予備は各班の先生が持っておく
10:05 (15)	作業 1[中村]	児童へ声かけを行う	水と洗剤を使用するので注意する (ゴム手袋とゴーグル着用)
10:20 (10)	休憩[小関]	注意事項の伝達 時間を伝える	椅子をしまうよう指示
10:30 (10)	クイズ2[河田、竹内]	酸性、アルカリ性による色の変化についてクイズを出す	次の作業の材料配布 [中村、浅井]
10:40 (5)	説明2[石田]	ブドウジュースをしみこませた紙に絵を描くことを説明する 作業時間を伝える	
10:45 (15)	作業 2[石田]	児童に声かけを行う	液体を使用するためこぼさないように注意する
11:00 (10)	まとめ･感想記入･認定書配付[竹内]	児童に名札の裏に感想を書いてもらい、認定証と交換する	認定証分担 [浅井]
11:15	次回予告、あいさつ[高橋]		
11:20	見送り、片付け	班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す 班の担当がない学生は片付けする	1，2班から順番に退出させる
12:00	完全撤収		

活動１

○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
（教科 理科 ）	（教科 家庭科 ）
酸性，アルカリ性の性質	酸性，アルカリ性洗剤の違い。 洗濯の原理について。

②児童に最も楽しんでほしい場面（制作時は除く）	③特記事項（安全面など）
酸性，アルカリ性による色の変化の仕方	酸性，アルカリ性の溶液を使用するので，こぼしたりしないように注意する。

（１５）ペットボトルにたつまきが出現！？

タイムスケジュール

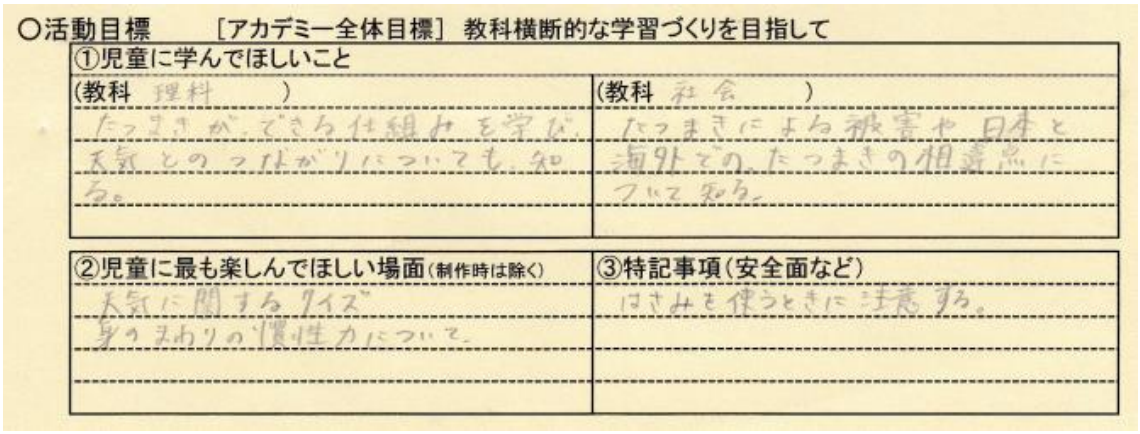
学生の目標	・児童と積極的にコミュニケーションをとり、楽しく充実した授業にする。 ・児童が理解しやすいような工夫する。
児童の目標	・班員と積極的に話し合い、協力をする。 ・身の回りで災害が起きたとき、自分達にできることを考える。

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30 {5}	あいさつ・注意事項 [北野谷]	・起立、礼、着席 ・注意事項を伝える	**・開始までにトレー①を配置。** **・開始までにペットボトルに水を入れておく。** **＜トレー①＞** **・ペットボトル　・洗剤** **・スポイト　・セロハン、折り紙** **・カラーテープ　・はさみ** **・油性色ペン** **・紙コップ（洗剤用）** ・何を作るのかの説明。
9:35 {10}	理科導入 [中村]	・たつまきができる仕組み、台風との違いを説明。 ・雲の写真をいくつか見せて、どの雲で竜巻は起こりやすいのか、というクイズを出す。 ・ホワイトボードを使用。	・ホワイトボードを机の上に準備。 ・タイマー準備。
9:45 {10}	材料確認・作り方説明① [梶川]	・不足している材料がないか確認する。 ・トレー①の中身を確認する。 ・工程をわかりやすく伝える。	・教卓の上に材料確認に必要なものをトレーで置いておく。
9:55 {15}	制作①	・作り方をスライドで前に掲示。	・作り方の紙を各班に1枚ずつ配置。
10:10 {5}	休憩 [河合]	・休憩時の注意事項・休憩時間を伝える。 ・水分補給を促す。	**・トレー②を配置。** **＜トレー②＞** **・紙コップ　・輪ゴム** **・おもり　・つまようじ** **・セロハンテープ**

			・カラーテープ **・油性色ペン　・ヘアピン** **・はさみ**
10:15 {5}	理科追求 ［野村］	・おどる紙コップで起こっている力の仕組み説明。 ・おどる紙コップとは何か？ ・ペットボトルたつまきの力の仕組みと比較しながら説明。	・見本を用意。
10:20 {10}	材料確認・作り方説明② ［余吾］	・不足している材料がないか確認する。 ・トレー②の中身を確認する。 ・工程をわかりやすく伝える。	・教卓の上に材料確認に必要なものをトレーで置いておく。
10:30 {20}	制作②	・作り方をスライドで前に掲示。	・作り方の紙を各班に1枚ずつ配置。
10:50 {10}	社会導入 ［岡本］	・たつまき・台風に関するクイズ。 ・ホワイトボードを使用。 ・クイズでポイント形式	・始める前に制作物を机の下に置いておくように指示をする。 ・ホワイトボードを机の上に準備。 ・タイマー準備。
11:00 {15}	社会追求 ［杉浦］	・どうすればいいの？ゲーム ・災害が起きる前、起きたときにどのように行動すれば身を守ることが出来るのかを知る。 ・ホワイトボードを使用。 ・クイズでポイント形式。	・ホワイトボードを机の上に準備。 タイマー準備。
11:15 {5}	感想記入 ［河合］	・名札を回収 ・認定証配布	・認定証を全体補助が各班に配布。
11:20 {5}	あいさつ ［北野谷］	・帰宅時の注意 ・終わりのあいさつ	
11:25	見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	・必ず班ごとに移動する。

12:00	完全撤収	・片付けがきちんと行われたか、忘れ物が無いかを再度確認し、担当の先生・なかよし教室の方に挨拶をする。	

活動 1



○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 理科)	(教科 社会)
たつまきができる仕組みを学ぶ。天気とのつながりについても知る。	たつまきによる被害や日本と海外でのたつまきの相違点について知る。

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
天気に関するクイズ	はさみを使うときに注意する。
身のまわりの慣性力について。	

（１６）小さな力持ち！？の秘密を解明しよう！

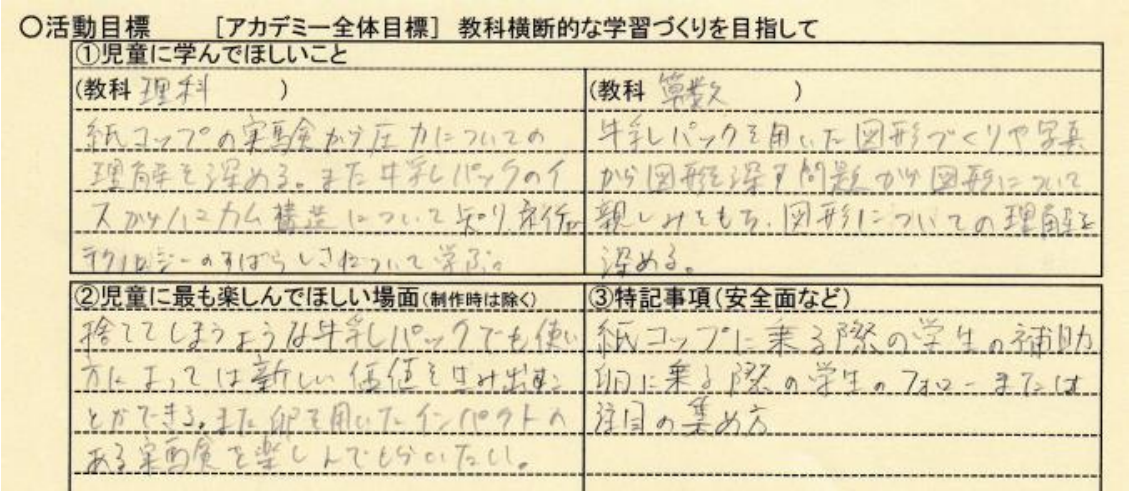
タイムスケジュール

9:35	材料確認	・バットの中身を確認する	教卓の上に一人分の材料をトレーに入れておく。 →確認時にないものがあれば中野が随時補充する。
9:40	理科・導	・何個の紙コップがあれば人間の体重を支えられるのか予想し、実践する。	紙コップ 20 個、透明なアクリル板 →乗るときは安全に注意し

			て乗る。 →潰れる個数もある
9:50	理科・追及、考察①	・紙コップ1個でどれほどの重さを支えられるのかを計算させる。	黒板、チョーク、ホワイトボード →班ごとに計算式を立てさせ発表させる。
10:05	理科・追及、考察②	・卵の上に乗る。	卵6個、透明なアクリル板、スチロールレンガ →誰かの手を取って安全に乗る。
10:10	理科・まとめ	・まとめとして圧力が生活にどのように活用されているのか確認させる。	スキー板、気泡緩衝材 →実物を見て納得させる。
10:15	休憩	・休憩時の注意事項を伝える。	→水分補給、立ち入り禁止場所の再確認、走り回らないなどの注意事項の徹底。
10:25	算数・導入	・身の回りの物にどのような図形、立体が含まれているか確認する。	→休憩以降の時間がずれるかもしれないので注意 空き缶、お菓子の空き箱、サイコロ →写真などを写してそこから図形を発見させる
10:35	算数・追及、考察①	・導入で発見した図形、立体から特に角柱についての理解を深めさせる。	
10:45	算数・追及、考察②	・牛乳パックの短冊を使って立体を作らせ、確認する。	牛乳パックを切ったもの →次の活動につなげるため牛乳パックを三角形に折って使う。
10:55	算数・まとめ	・これから椅子を作るために六角柱の作り方を確認する	牛乳パックを切ったもの →六角形の作り方を説明する。わかりやすく。
11:00	制作	椅子の作り方を説明する。	ホッチキス、牛乳パック、クラフトテープ、プラダン →工程を細かく分けて行う。
11:20	感想記入	名札を回収し、認定証を配布す	認定証

		る。	→時間の都合上長い時間はとれない。
11:25	あいさつ	次回の企画の説明を行い、挨拶をする。	大きい六角柱 →大きい六角柱を展開すると次回予告が出てくる。
11:30	見送り、片付け[全員]	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	→ゴミ、汚れがないようにきっちりと片付けを行う。 →現状復帰
12:00	完全撤収		→小学校を出るまで油断しない。 →時間厳守。

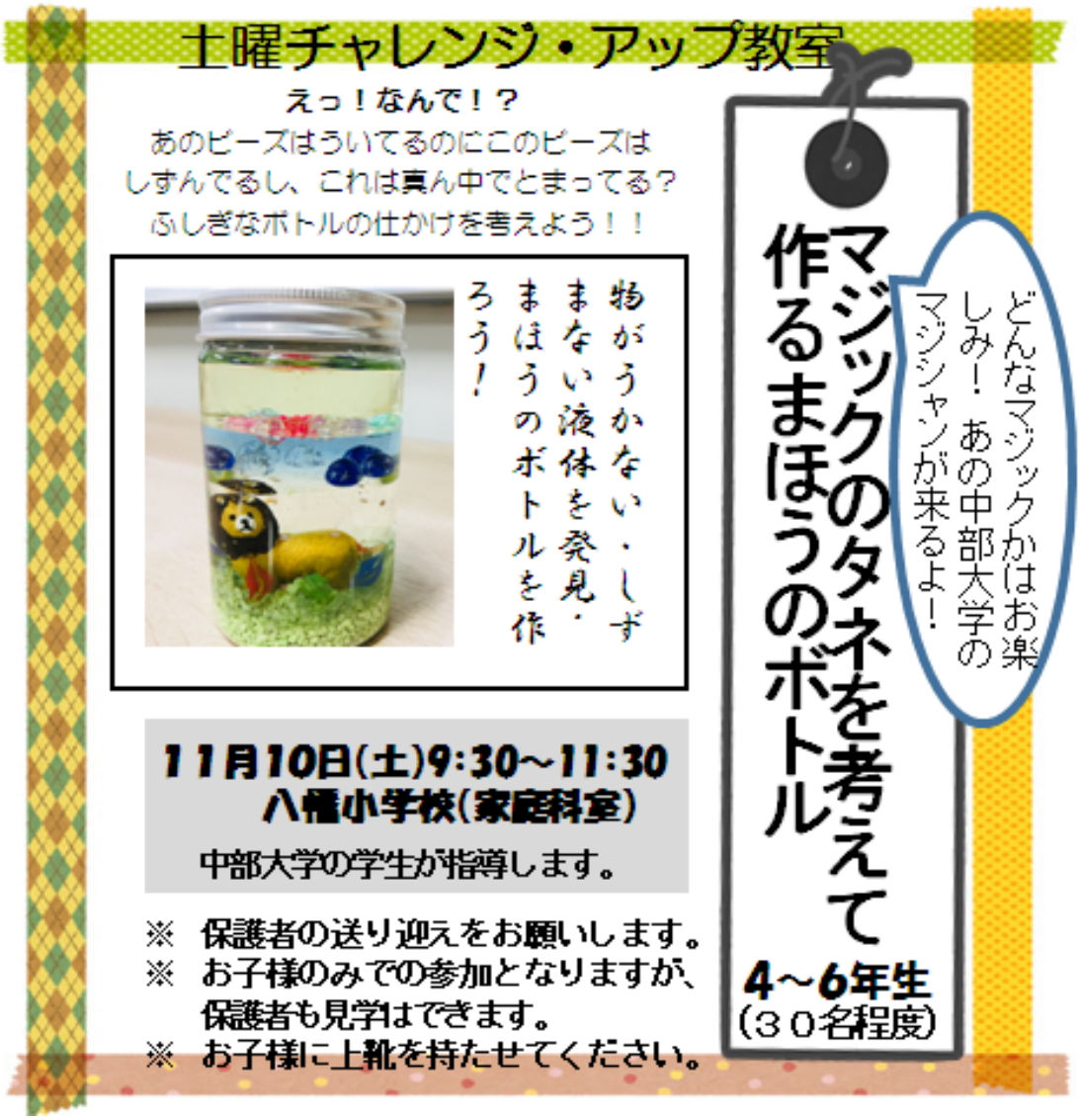
活動 1



○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 理科　)	(教科 算数　)
紙コップの実験から圧力についての理解を深める。また牛乳パックのイスからカム構造について知り体験。テクノロジーのすばらしさについて学ぶ。	牛乳パックを用いた図形づくりや写真から図形を探す問題から図形について親しみをもち、図形についての理解を深める。
②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
捨ててしまうような牛乳パックでも使い方によっては新しい価値を生み出すことができる。また卵を用いたインパクトのある実験を楽しんでもらいたい。	紙コップに来る際の学生の補助卵に来る際の学生のフォローまたは注目の集め方

（１７）マジックのタネを考えて作るまほうのボトル



タイムスケジュール

時　間	企　画　の　流　れ	留　意　点
9:30 ～ 9:37	1　密度の違いによる不思議な現象に疑問を持つ。 （1）振るだけでポップコーンが出来上がるポップコーンマジックを見る。 （2）ポップコーンマジックのタネを考える。	 ○　子どもを前に集めて演示する。 →椅子の位置を予め決めておき、全員が見えるよう配慮する。 ○　1分間でタネを考え、全体で共有させる。
9:37 ～ 9:55	2　密度という概念を知る。 （1）「密度」という言葉を理解する。 （2）実験から密度の理解を深める。	 ○　密度とは何かを説明する。 ○　密度について「スカスカ」・「ギッシリ」という表現を用いてイメージさせる。 ○　水に消しゴムやリンゴ、ボウリングの玉などを浮かべ、密度の違いに気づかせる。
9:55 ～ 10:15	3　本時の制作物を知る。 ○　材料が3種類の液体のうちどこに浮くか確認する。	○　制作する実物を見せ、作品へのイメージをもたせる。 ○　生活経験から予想をさせてから行わせる。 ○　各班に3種類の液体（サラダ油・水・水あめ）と各材料を3つずつ配布し、どの層に浮くか確認させる。
10:15 ～ 10:25	4　休憩をする。	○　けが防止から、教室・廊下で走らないこと、暴れないことを徹底する。 ○　移動禁止区域を伝える。 ○　水分補給やトイレに行くことを促す。 ○　次の開始時刻（10:25）を伝え、着席するよう指示しておく。
10:25 ～ 10:30	5　制作方法を知る。	○　実演とパワポを用いながらわかりやすく説明する。 ○　一人分の材料が決まっていることを伝える。 ○　ビンを落として割らないように注意させる。 ○　液体は食べられないことを伝える。
10:30 ～ 11:05	6　作品を制作する。	○　液体を入れる順番をしっかり指示する。 ○　早く終わった子にはビンの蓋にデコレ

活動１

○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
（教科 算数 ）	（教科 理科 ）
重さ・体積の復習。 どういうところで重さや体積の考え方を使っているのか実感させたい。	中学校の密度 「密度」という概念を「すかすか」，「ぎっしり」という言葉や水にものを浮かべる実感から大まかに持たせたい。
②児童に最も楽しんでほしい場面（制作時は除く）	③特記事項（安全面など）
企画の導入部分（ポップコーンがふるだけでできるマジック）興味関心に加え、疑問を持たせたい。	教室内で暴れないこと。 （企画自体での注意点は特になし）

（１８）スーパーボールを作ろう

タイムスケジュール

学生の目標	自分の役割周りに気を配る。 跳ねる原理について理解させる。 児童と先生の立場を考えながら接する。
児童の目標	跳ねる原理について知る。 鑑賞することで友達作品の良さに気付く。 楽しくスーパーボールを作る。

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30～ 9:35	あいさつ	・起立、礼、着席	
	導入	・実際に作ったスーパーボールを紹介し、興味を持ってもらう。	★自作のスーパーボール
9:35～ 9:40	スーパーボールが跳ねる理由	なぜ跳ねるのか説明する。 ・弾性力によることだと説明する。 ・わかりやすく、興味を持ってもらうために簡単な劇を行う。	★パワーポイント
9:40～ 9:45	材料確認	1. 児童のそばへ行き不足している材料などがないか確認する。 2. 足りない材料があれば各班の学生が取りに行く。	教卓の上に一人分の材料をトレーに入れておいてく。 ★PVA 選択のり・食塩の入ったペットボトル・わりばし・キッチンペーパー・手袋・絵具・持ち帰り用の袋・のりの入ったコップ、ホウ砂のコップスポイト、水槽、星のコップ、線の入ったコップ
9:45～ 9:50	説明①	パワーポイントを使って作り方の説明を行う。 1. PVA 洗濯のりをプラスチック製コップに青の線まで取る。	★パワーポイント(写真で説明するため。)

		2．好きな絵具を入れる 3．星のコップに食塩水を線まで入れて１と混ぜる。 4．割り箸でかるくかき混ぜる。 5．魔法の水を混ぜながら、５～６回スポイトでいれる。ゼリー状になるまで行う ６．１～５までの作業を、色を変えてもう一度行う。 ７．２つの色を合体させ固める。	
9：50～ 10:10	作成	･説明であった気を付ける点に注意させながら作業をさせる。 ＊使わないものはトレーに入れさせる。	★ラミネート
10:10～ 10:25	クイズ大会	･なぜできるかの説明をクイズを通して行う。 ･各班担当者が行う。 ･クイズの答え合わせでスライムを作る。	★クリアファイル
10:25～ 10:30	演示実験	児童を前に集め、スーパーボールの性質を利用したストローロケットの実験を演示する。 1．スーパーボールに竹串を刺す。 2．竹串にストローをかぶせる。 3．スーパーボールを手で持ち、真上から落とす。 ･学生は、班の机の上を片付ける。	★スーパーボール（大、小）･ストロー･竹串･ゴーグル
10:30～ 10:45	休憩	･休憩の注意事項を説明する。 ･WC の手洗いで児童の手を洗わせ、給水させる。	★パワーポイント
10:45～ 11:05	鑑賞 名前と理由の時間 タイマー5分	･児童に、スーパーボールの名前付けなど紹介文を作成させる。 ･できたスーパーボールを鑑賞す	★感想用紙

	鑑賞 タイマー10 分 （各2分）	る。 ・椅子をしまわせる。 ・10 分が終わったところでスーパーボールを袋にしまうよう指示する。	
11:05～ 11:20	まとめ・感想用紙の記入・認定証配布	1. 今日一日の感想を児童に聞く。 2. 名札の裏に今日の感想を書いてもらう。 3. 感想を書いた名札を学生に渡し認定証をもらうように指示する。	★認定証
11:20	見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。	
12:00	完全撤収		

（１９）ビリビリ 10 万ボルト！！

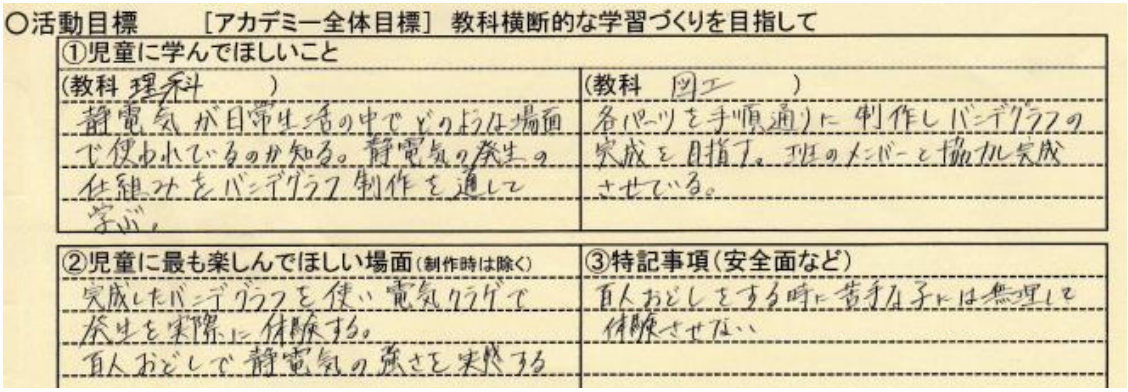
タイムスケジュール

学生の目標	広い視野を持ち、前回の反省を活かせるような活動を行うとともに、児童間の橋渡しや児童が理解しやすいような解説を行うものとする。
児童の目標	友達と協力してバンデグラフの製作を行い、活動を通して静電気について理解を深める。

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30 （5 分）	あいさつ、導入[河田]	起立、礼、着席 注意事項	
9:40 （10 分）	説明1[浅井]	静電気の性質、生活の中でどのように使用されているのか説明	プラスの電荷とマイナスの電荷について簡単に説明

		バンデグラフの仕組みの説明	
9:50 （5 分）	材料確認[峪田]	過不足がないか児童と確認	予備は各担当の先生が所持
9:55 （25 分）	作業1[才]	バンデグラフの作成の手順説明 バンデグラフの飾り付け 児童への注意喚起 バンデグラフが使えるのか確認	隣の席の児童と協力して完成させる
10:20 （10 分）	休憩[堀田]	注意事項の伝達 時間を伝える。	椅子をしまうよう指示
10:30 （5 分）	材料確認 説明2[高橋]	過不足がないか児童と確認 電気クラゲ作成の手順説明	
10:35 （10 分）	作業2[高橋]	児童への注意喚起	児童への声かけを行う
10:45 （15 分）	鑑賞[中村]	作成した電気クラゲを使い静電気の体験をする	プラスとマイナスが反発するということを理解させる
11:00 （10 分）	クイズ[石田]	静電気が生活の中でどのように関係しているのかクイズ	ホワイトボード、マーカー
11:10 （10 分）	まとめ・感想記入・認定書配付 [關谷]	児童に名札の裏に感想を書いてもらい、認定証、バンデグラフと交換する。	認定証分担[河田]
11:20	次回予告、あいさつ [河田] 見送り、片付け	班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 班の担当がない学生は片付けする。	1班から順番に退出させる
12:00	完全撤収		

活動 1



○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 理科　)	(教科 図工　)
静電気が日常生活の中でどのような場面で使われているのか知る。静電気の発生の仕組みをバンデグラフ制作を通して学ぶ。	各パーツを手順通りに制作しバンデグラフの完成を目指す。班のメンバーと協力し完成させている。
②児童に最も楽しんでほしい場面（制作時は除く）	③特記事項（安全面など）
完成したバンデグラフを使い電気クラゲで放生を実際に体験する。 百人おどしで静電気の強さを実感する	百人おどしをする時に苦手な子には無理して体験させない。

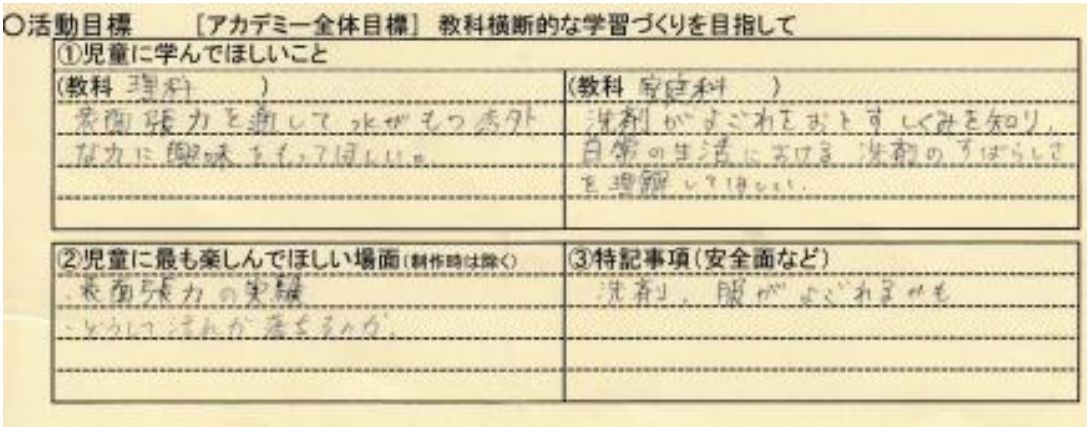
（２０）手洗いが楽しくなる石けんスクイーズ！

タイムスケジュール

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30 ~9:33	あいさつ　〔伊藤〕	・起立、礼、着席 ・注意事項	
9:33 ~9:36	導入　〔松下〕	・児童の注目を集める ・スクイーズとは？	
9:36 ~9:43	表面張力の説明〔平澤〕	・簡単に表面張力を説明 ・身近な表面張力 ・説明中に実験１の準備	水

9:43 ~10:00	実験１（コップのやつ） 〔安井〕 ・二人一組で表面張力を使ったおはじき入れゲーム	・実験の説明 ・二人一組で表面張力を見てもらう ・ゲームの補助および審判	紙コップ、おはじき バット
10:00 ~10:10-	休憩　〔渡辺〕	・休み時間の注意事項	見守り、制作の準備
10:10 ~10:15	制作の説明　〔山次〕 制作	・材料説明、作り方　注意事項（手袋、洗剤の量、混ぜ方など）	完成品 スプーン
10:15 ~10:35	制作	・各グループの担当 ・スプーンでかき出す ・補助	片栗粉、ボディーソープ、食用油、食紅、容器、手袋、割り箸
10:35 ~10:50	実験２（アメンボ） 〔夫馬〕	・アメンボを浮かせる ・洗剤付き割り箸を水に浸す ・実験の説明 ・洗剤で表面張力がなくなることを見てもらう	針金アメンボ、コショウ、紙皿、水、洗剤。
10:50 ~11:00	実験２、３の理由説明 〔夫馬〕	・なぜこうなったかの解説 ・洗剤が汚れを落とす仕組み	
11:00	まとめ　〔伊藤〕	・名前の裏に感想記入 ・認定書を渡す	
11:20	見送り、片付け	・班担当学生が昇降口まで送る ・送迎後、担当者以外は片付け	
12:00	完全撤収		

活動１



○活動目標　［アカデミー全体目標］教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと

(教科 理科)	(教科 家庭科)
表面張力を通して水がもつ赤外な力に興味をもってほしい。	洗剤がよごれをおとすしくみを知り、日常の生活における洗剤のすばらしさを理解してほしい。

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
・表面張力の実験 ・どうして汚れが落ちるのか。	洗剤、服がよごれるかも

（２１）昔を知ろう！作ってみよう！

タイムスケジュール

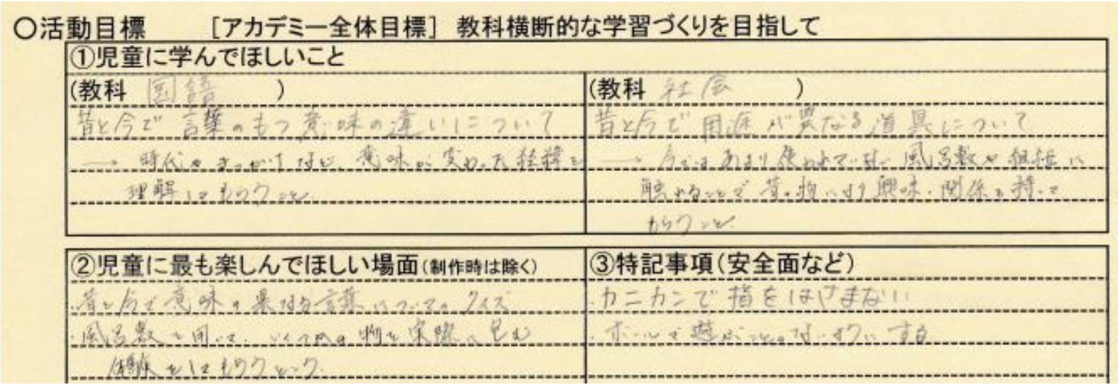
学生の目標	・しっかりと前に出て、元気よく笑顔で話せるようにしよう。 ・子どもたちとのコミュニケーションを積極的に取ろう。
児童の目標	・昔と今で異なる使われ方をしている言葉や道具について学ぶ。 ・昔の生活に関心を持つ。

時間	学生の役割【担当】	学生の活動	備品、その他

9:30～ 9:35 ＜5＞	あいさつ・ 注意事項連絡 【杉浦】	・起立、礼、着席 ・今日の活動をするうえで、守ってもらうべきことを連絡する。 →子どもがしっかりと聞く体勢を取れるようにし、理解したかを確認。	・明るくはっきりと ・どのような活動をするのか、何を作るのかについて説明。
9:35～ 9:45 ＜10＞	国語・導入 【岡本】	・昔と今で意味の違う言葉があることを説明。 →例を挙げ、意味が変わった経緯（時代やきっかけ）も説明。	
9:45～ 9:55 ＜10＞	国語・追究 【余吾】	・クイズを通して異なる意味を持つ言葉の理解を深める。	・ホワイトボードは机の下に準備しておく。
9:55～ 10:05 ＜10＞	休憩 【鈴木】	・休憩時の注意事項の説明 ・水分補給は必ず取るように指示 ・何時何分までか指示	・休憩の間に型、糸、金具をバットに人数分分けておく。
10:05～ 10:20 ＜15＞	社会・導入 【北野谷】	・今と昔で用途が異なる道具（組紐にも触れる）について紹介。 ・風呂敷を使って様々な包み方を体験して学ぶ。	・風呂敷、ボール、本、ペットボトルを準備しておく。
10:20～ 10:25 ＜5＞	社会・追求 【中島】	・不足している材料がないか確認する。	・教卓の上に一人分の材料をバットに入れて置いておく。
10:25～ 11:00 ＜35＞	社会・追求① 【野村】	・組紐の作り方をわかりやすく説明する。 ・組紐作成	・組紐の作り方の書かれた説明書を各テーブルに1枚ずつ配布。
11:00～ 11:10 ＜10＞	社会・追求② 【中島】	・風呂敷のストラップの作り方を分かりやすく説明する。 ・風呂敷のストラップの作成	・風呂敷のストラップの作り方が書かれた紙を各テーブルに1枚ずつ配布する。
11:10～ 11:15 ＜5＞	まとめ 【鈴木】	・感想記入 ・認定証配布	・認定証を各班に配る ・名札を回収する
11:15～ 11:20	あいさつ 【杉浦】	・あいさつ ・帰宅時の注意点を伝える。	
11:20	見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。	

		・班の担当がない学生は片付けする。	
12:00	完全撤収	・片付けがきちんと行われたか、忘れ物が無いかを再度確認し、担当の先生・なかよし教室の方にご挨拶をする。	

活動１



○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと

(教科 国語)	(教科 社会)
昔と今で言葉のもつ意味の違いについて	昔と今で用途が異なる道具について
→ 時代の [illegible] など意味が変わった経緯を理解してもらうこと	→ 今ではあまり使われていない風呂敷や [illegible] に触れることで昔の道具に興味・関係を持ってもらうこと

②児童に最も楽しんでほしい場面（制作時は除く）	③特記事項（安全面など）
・昔と今で意味の異なる言葉についてのクイズ	・カニカンで指をはさまない
・風呂敷を用いて、いくつかの物を実際に包む体験をしてもらうこと	・ボールで遊ぶことのないようにする

（２２）世界の見方をかえてみよう！

タイムスケジュール

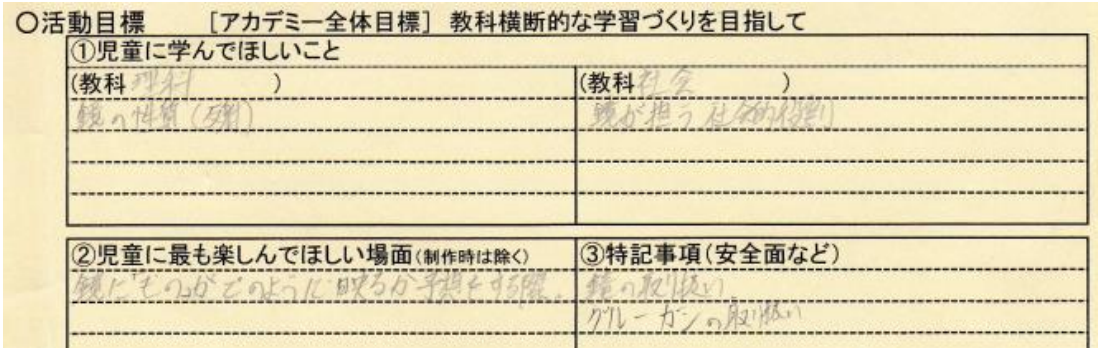
学生の目標	その場に応じた時間調整を行う力を身に着ける。 児童との接し方を学ぶ。
児童の目標	実験や制作を通じて、鏡の性質を学ぶ。 鏡の社会的役割を学ぶ。

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ[萩野]	・起立、礼、着席 ・注意事項を伝える	下敷き、アルミテープ、ビー玉が入ったトレイ

9:30	導入[濱島]　（2分）	・児童の注目を集める ・万華鏡の説明 ・今回制作する万華鏡の紹介	試作品
9:32	説明①[加藤] （3～5分）	・組み立て方を説明（拡大紙）	
9:35	制作①　（10分）	・学生は児童の補助	
9:45	説明②[三島]（3分）	・ビー玉のつけ方、グルーガンの使用上の注意点を説明	説明中に全体補助がグルーガン・画用紙を各班に配布
9:48	制作②　（15分）	・グルーガンを使っている児童から、目を離さない	
10:03	説明③[西村] （2分）	・飾りつけについて説明 ・作り終わったものをトレイに入れてもらうよう説明	シール、マステ、色ペンが入ったトレイと交換(全体補助)
10:05	制作③　（20分）	・ゴミや余ったものを回収	マステの管理(奪い合い)
10:25	休憩[村上] （10分）	・走り回らせないようにする ・立ち入り禁止場所の説明 ・水分補給を促す ・制作物をしまうよう指示 ・学生は次の実験の準備を始める	・実験道具と用紙の準備(トレイ)を全体補助が用意 ・トイレの見張り ・休憩終了後の廊下の確認(児童に教室に入るよう指示)
10:35	副実験導入[森田] (10分)	児童の意見を聞く(身近な鏡)	
	予想　（3～5分）	班で話し合う。学生は時間を気にしながら、児童に考えてもらう。	
	予想発表[星野] （3～5分）	鏡の取り扱いについての注意	
	実験・結果(2分)	児童の前で正解を確認	
11:05	実験の解説[日下部] （5～8分）	・反射について説明	
11:10	まとめ[萩野] 感想用紙記入 認定証贈呈	・名前の裏に感想の記入 ・名札と認定証を交換	・全体補助は副実験で使用した道具をトレイごと回収し、認定証を班付き学生へ渡す。
11:20	見送り 片付け	・班担当学生は児童を昇降口	見送りは班付き学生3人程

		へ案内する。確実に保護者に引き渡す ・班の担当がない学生は片付けをする	度が行う。残りの人は片づけ。
12:00	完全撤収		

活動 1



○活動目標　　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

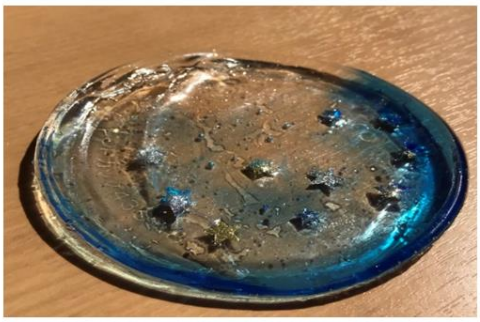
①児童に学んでほしいこと	
(教科 理科　　)	(教科 社会　　)
鏡の性質（反射）	鏡が担う社会的役割

②児童に最も楽しんでほしい場面（制作時は除く）	③特記事項（安全面など）
鏡にものがどのように映るか予想をする際。	鏡の取り扱い
	グルーガンの取り扱い

（２３）クリスマスコースター

土曜チャレンジ・アップ教室

日に当たると、固まる不思議な液体「レジン」。光を当てるとキラキラ輝くラメ入りなど、クリスマスデコレーションをしたコースターを作ろう‼



オリジナルコースターを作って、
すてきなクリスマスを過ごそう‼

クリスマスコースター

12月15日(土)9:30～11:30
松原小学校(家庭科室)

中部大学の学生が指導します。

4～6年生
（３０名程度）

※ 保護者の送り迎えをお願いします。
※ お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
※ お子様に上靴を持たせてください。
※ コースターは持ち帰れます。

タイムスケジュール

学生の目標	児童に理解しやすい授業づくりを心掛ける 常に周囲に気を配った行動を意識する
児童の目標	どんなものが熱を伝えやすいか理解する 楽しんで活動をする

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ[森田]	・起立、礼、着席 ・注意事項を伝える	
9:32 〈3〉	導入[日下部]	・児童の注目を集める ・ ・今回制作するコースターの紹介	
9:35 〈5〉	説明[萩野]	・レジンコースターの作り方説明 ・ラメの扱いについて注意させる ・さじの小さいほうをつかわせる ・ビニールテープの使い方説明 ・気泡をつぶすように伝える ・タイトルについて伝える	材料を各机に配布 (森田)
9:40 〈30〉	制作	・完成した子からUVライトにあてさせる ・時間が余ればタイトルを考える	コースター回収(全体補助)
10:10 〈10〉	休憩[山次]	・休憩時の注意事項を伝える ・休憩終了時間を伝える ・休憩時に問題が起きないように注意する	トイレ(日下部) 雑巾がけ(渡辺、 濱島)
10:20 〈25〉	副実験導入[西村] 予想 予想発表[松下] 実験・結果	・サーモインクに物を挟んで温めたときどうなるか ・実験の説明 ・班ごとに予想させる ・机の下のホワイトボードに書かす ・予想を発表してもらう	前に集めたとき立ち入り禁止区域に入らせないようにする
10:45 〈10〉	実験の解説[濱島]	・結果から身近なものへつなげる ・熱の伝わりやすさ	
10:55 〈15〉	鑑賞説明[三島] 鑑賞	・鑑賞の説明 ・注意事項をつたえる ・鑑賞カードの説明	他の人の作品に触らせないようにする 鑑賞カード、コースターの配布 (松下)
11:10 〈10〉	まとめ[渡辺] 感想記入 認定証贈呈	・本日の学習のまとめ ・名札を回収し、認定証を配布する	認定証配布と同時に はがし方のプリント配布
11:20	あいさつ[森田]	・起立、礼、着席 ・児童の忘れ物がないか確認	
11:20	見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡	

活動１

○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

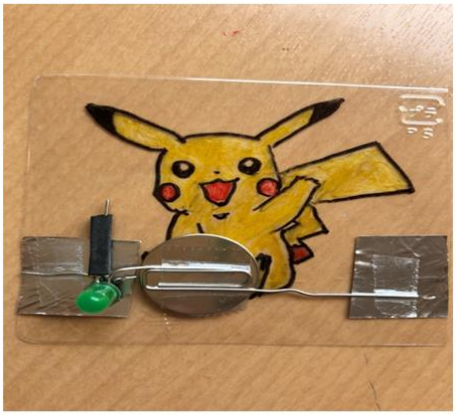
①児童に学んでほしいこと	
（教科　　）	（教科　　）

②児童に最も楽しんでほしい場面（制作時は除く）	③特記事項（安全面など）

（２４）静電気マジック！

土曜チャレンジ・アップ教室

冬のさむーい時期、友達やドアにさわった時にバチ！ってならない？それって静電気のしわざかも！バチ！ってなるしくみを知って、この冬、静電気と友達になろう！！



自分だけの回路を作ろう！

静電気マジック！

12月15日(土)9:30～11:30
東野小学校(家庭科室)

中部大学の学生が指導します。

4～6年生
（３０名程度）

※　保護者の送り迎えをお願いします。
※　お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
※　お子様に上靴を持たせてください。
※　飲み物を各自持参してください。

タイムスケジュール

学生の目標	児童に怪我をさせないよう安全に配慮し、互いに協力し合う中で楽しめるようにする
児童の目標	身近な現象から静電気について興味・関心を持ち、実験を通して静電気を理解する

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9:30 (5分)	あいさつ[川瀬] 導入[川瀬]	・起立、礼、着席 注意事項	
9:35 (15分)	クイズ[木村]	静電気につながるクイズ	各班:WB・WBM 最初に出すよう指示 教卓:塩ビパイプ、服各種 終了時、WB をしまうよう指示
9:50 (10分)	説明1[石田]	静電気がどうして起こるのか。プラスとマイナスで説明する。	教卓:プラスとマイナスのマグネット
10:00 (5分)	材料確認[南部]	過不足なく用意があるか児童とともに確認する。	バットに用意したものを配布する。[川瀬]
10:05 (2分)	説明2[安井]	プラスチック板のところの説明	演示を行う 椅子をしまうよう指示
10:10 (10分)	作業1	児童へ声掛けを行う。	トランジスタや LED には針金があるため注意
10:17 (3分)	説明2[安井]	ライトパーツから完成までの説明	演示を行う 椅子をしまうよう指示
10:20 (10分)	作業2	児童への声掛けを行う	書く絵に迷っている子にはお手本を用意 (時間は伸縮有)
10:30 (10分)	休憩[竹内]	注意事項の伝達 時間を伝える	椅子をしまうよう指示 (10分とあるが時により変更有)
10:40 (15分)	鑑賞1[内山]	定規や下敷きで貯めた静電気でライトをつけられるか	鑑賞は班ごとで行う。 鑑賞シート配布・下敷き、定規、塩ビパイプ、ウール各3こ用意[石田]
10:55 (25分)	副実験 まとめ[南部]	静電気コップでみんなで静電気を体感 班ごとで百人おどし、電気クラゲ、プロペラ、跳ねる魚実験を行う 時間次第で全体で百人おどし	電気が怖い子がいないか注意する 各班バット:帯電コップ、プロペラ、アルミテープをつけたストロー、塩ビパイプ×3、下敷き、風船×3、ウール×3、魚、クラゲ×3を配布[川瀬]
11:20 (5分)	感想記入・認定書配付 [小関]	児童に名札の裏に感想を書いてもらい、認定証と交換する。	認定証配布 [川瀬]
11:25	次回予告 あいさつ[川瀬] 見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班担当がない学生は片付ける。	1班見送り[木村] 2班見送り[南部]
12:00	完全撤収		

活動１

○活動目標　　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科 理科　　)	(教科 社会　　)
静電気がどのような性質を持っているのか、静電気で電気はつくのか、静電気に十ーがあるのか、普段の生活からでは学べないことを学んでほしい	冬の乾燥によって生じる火事について理解を深めてほしい。また、その火事に静電気がどのように関っているのか、クイズを通して知ってほしい

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
帯電コップで実際に静電気を体感するとともに面白いと思ってほしい クイズを通して、様々な知識を付けるとともに楽しんでほしい	静電気を怖がる児童に無理に帯電コップに参加させず、安全に楽く行う 針金のようなパーツがあり、今回は小さいため注意して行う

（２５）ほかほか熱をつくろう！

土曜チャレンジ・アップ教室

この黒いもの、何かわかるかな？
ヒントは冬に使うあのあったかいもの・・・
ポケットにあるだけで、幸せになれるものだよ。寒い冬をのりきる工夫を一緒に考えよう！

12月15日(土)9:30～11:30
八幡小学校(家庭科室)

中部大学の学生が指導します。

※　保護者の送り迎えをお願いします。
※　お子様のみでの参加となりますが、保護者も見学はできます。
※　お子様に上靴を持たせてください。

ほかほか熱をつくろう！

4～6年生
（３０名程度）

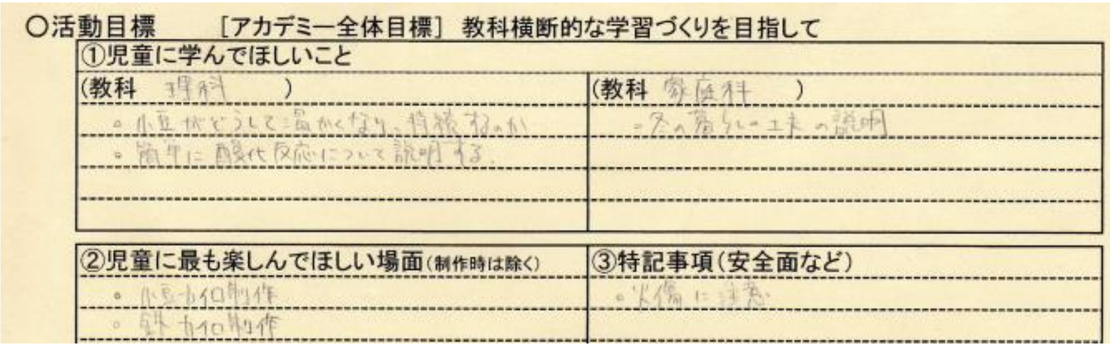
タイムスケジュール

学生の目標	自分の役割、周りに気を配り、臨機応変に対応する。 児童と先生の立場を考えながら接する。
児童の目標	鑑賞することで友達の作品の良さに気づく。

時間	子どもの活動	学生の活動	備品、その他
9：30	あいさつ［大河内］	・起立、礼、着席、約束	
9：35	家庭科［松原］	冬の暮らしの工夫	PPT
9：45	理科１［水谷］	酸化反応	PPT
9：55	制作の説明[榛地]	鉄カイロ	PPT
10：00	制作開始	鉄カイロ作り ＊火傷注意 ＊なるべく空気に触れさせない ＊各班に一つ	
10：10	休憩[河合]		
10：15	理科[亀井]	なぜ小豆が温かくなるのか	
10：22	お豆の比較[市川・梶川]	様々な豆を温めて、最終的に小豆が一番適していることを確認する	大豆，とうもろこし，コーヒー豆，小豆
10：47	制作の説明[榛地]	小豆カイロ	
10：55	制作	小豆カイロ ・児童全員 ・火傷注意	電子レンジ
11：05	まとめ[大河内]	・今日一日の感想を児童に聞く。 ・名札の裏に今日の感想を書いてもらう。(5 分) ・認定証を渡す ・帰り方の説明 ・次回予告 ・起立、礼	
11：15	見送り、片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 →児童を保護者に引き渡すまで対応する。	

		・班の担当がない学生は片付け、清掃をする。 ・忘れ物がないか確認する。 ・施錠をする。	
12：00	完全撤収	片付けがしっかりと行われたか、忘れ物がないかを確認する。	

活動１



○活動目標　［アカデミー全体目標］ 教科横断的な学習づくりを目指して

①児童に学んでほしいこと	
(教科　理科　)	(教科　家庭科　)
・小豆がどうして温かくなり、持続するのか	・冬の暮らしの工夫の説明
・簡単に酸化反応について説明する。	

②児童に最も楽しんでほしい場面(制作時は除く)	③特記事項(安全面など)
・小豆カイロ制作	・火傷に注意
・鉄カイロ制作	

（２６）回って見える！？体の秘密を解き明かそう！

タイムスケジュール

学生の目標	・児童と積極的に関わる。 ・児童をサポートする。
児童の目標	・体の仕組みについて理解する。 ・学生と楽しむ

時間	学生の役割	学生の活動	備品、その他
9:30	あいさつ	・開始のあいさつ、諸連絡	

		・活動についての注意事項を伝える	
9:35	人の体(聴覚)導入	・「人は、なぜ音を聞くことができるのか」を聞き予想を立てさせる。	
9:40	人の体(聴覚)実験	・空気が音を伝えているということに気づかせたのち、オルゴールの実験を行う。 ・実験の意図は、オルゴールと空気を遮断することを目的に行う。	☆タッパ、オルゴール、サンタ帽、ぞうきん、新聞紙、ホワイトボード、ボードマーカー 実験方法 　オルゴールをタオルで包み、タッパの中に入れて封をすると、音を最小に出来る。 　ただし、それが最適解ではなく、色々な方法を試してもらう。
9:50	人の体(聴覚)結果	・各班での工夫点を発表した後、実験を行う。	・発表の苦手な子がいた場合、横で一緒に発表するなどの支援をする。
10:00	人の体(触覚)導入	・触覚についての説明を行う	・わかりやすく
10:10	人の体(触覚)実験	・代表の児童に演示として実験を行う。(MAX2 名) ・皮膚の敏感さの違いを体験するために二点弁別閾の実験を行う ・1cm 未満だと敏感、それより間隔が大きいと鈍感という説明を行う。	☆細い物 2 本、定規、ホワイトボード、ボードマーカー 実験方法 　2 人一組で行い、実施者は、手の甲に細い物 2 本を同時に軽く押しつける。体験者は目を閉じて、押し当てられた点が 1 点か 2 点かを判断する。 　細い物の感覚は2mm 程度で行う。
10:25	人の体(触覚)結果	・全体でどこが一番敏感・鈍感であったかを共有する。 ・二点弁別閾のグラフを見せて自分の結果と比較する。	・発表形式ではなく、自由発言形式で共有を行う。

10:35	休憩	・休憩中の諸連絡を行う	・学生は、トイレ、教室に必ずいる事。児童が危ないことをしないか監督する。
10:45	人の体(視覚)導入	・チラシの画像・色彩残効の錯視を見てもらい錯視についての関心を深める。	・見せる錯視は5種類程度。作品につながる物を見せる
10:55	人の体(視覚)作成	・錯視を起こすことが出来る作品集を作る。	☆テンプレ、はさみ、ポスカのり、穴開けパンチ、リボン、表紙
11:10	感想記入	名札を回収し、認定証を配布する。	☆認定証
11:20	あいさつ	今年度最後の企画に参加してくれてありがとう	
11:25	見送り・片付け	・班担当学生は児童を昇降口へ案内する。確実に保護者に引き渡す。 ・班の担当がない学生は片付けする。 ・班担当学生は見送る際に机に忘れ物がないかどうか確認をする。	→ゴミ、汚れがないようにきっちりと片付けを行う。 →現状復帰
12:00	完全撤収		時間厳守

２－２．活動報告

（１） 八幡小学校

A. ６月企画活動報告（報告者：大河内玲来）

1. 参加者

小学 4～6 年生１６名、大学１・２年生１２名

大学教員１名、小学校関係者２名、運営指導者１名、観覧保護者２名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

児童の数は多くはなかったものの、非常に積極的な児童が多く、全体を通して全員が楽しく活動できていたように見受けられた。また、小学校の先生がおっしゃっていたように見ている側も参加したくなるくらいきらきらとした笑顔で、とても微笑ましかった。

2－2. 企画の内容

白衣の先生のほとんどが、前に立って言葉を発する際、しっかり全体に声が届くように心がけていたなという工夫がみられた。また、児童たちとの受け答えもよく出来ていて良かった。その一方で、時間配分が少し疎かになってしまい、ひとつ計画していたことが出来なかった事が残念に思われた。それと、一年生は今回が初めてということで、やや表情が固いように思えたので、そこも改善点のひとつだと考えた。

3. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

・内容が盛りだくさんで、子どもたちも大人も楽しめる内容だった。
・子どもへの指示も適切で、特に注目させられていたし、普段落ち着きがない子どももしっかり話を聞けていた。
・時間が押してしまい、ブラックライトを使用しての、蛍光塗料を使用した人工いくらを光らせられなかったことだけが少し残念。

（サイン 大野　　）

○活動を終えて（リーダーサイン [illegible]　　）

①準備過程

アルギン酸ナトリウムがなかなか溶けなかったが、事前に作っていくことによって対応可能。
準備自体はスムーズに行えた。

②企画の流れ・企画内容

人工いくらについて知り、
実際に作らせ、人工いくらの大きい版のohoo!を触らせる。
その後今回使用した薬品の使われている食品を作ってビンゴ。蛍光塗料をブラックライトで光らせる。

③学生の活動

終始、あわただしくなってしまいリーダーとしては不甲斐なさがあった。
一年生も、活動の雰囲気を知れたはずだ。次回に生かしてほしい。落ち着いていられていたため、心配はしていない。

④テーマに対する指導の工夫

実演も含め、子どもも大人もびっくりするような内容にできた。
指示も適切。
食べさせたいため、絵の具を使用した。

⑤目標達成度

今回の活動で、作った人工いくらを食べようとする子どもはいなかったため、まず第一目標。
雰囲気も和やかだし、説明も大体適切。10点中9点といったところだと。

⑥総合評価

けがもなく、無事活動を終えることができた。
最初の方で、5～6分のロスがあり、後々に響き、ブラックライトを使用せず終わった。

教員からの意見・評価

・作成の時間を二つに分けずに一つにまとめる。
・一年生も落ち着いて活動ができていた。
・ブラックライトが使えなかったのが残念。
・

（サイン 長尾　　）

B. 10 月企画活動報告（報告者：亀井彩加）

1. 参加者

小学 4～6 年生 9 名、大学 1・2 年生 11 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、運営導者 1 名（大野）、観覧保護者 1 名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

参加してくれた児童は少なかったが、クイズなど生徒が参加できるものが多く、学生と楽しく交流できていた。また、準備の段階でトレイの必要なもののリストが用意されてあったり、リーダーの指示だしが適切だったりとそれぞれが今回の企画をしっかりと理解し、挑めていた。

2－2. 企画の内容

制作物が二つもあり、内容が難しいもの、説明が大変なものがいくつもあったが、上手に解説をしており、児童も楽しく聞いていた。クイズも得点で班ごとに競い合い、勝負するということで、児童たちがよりクイズへの参加意欲が上がり、楽しめていた点はとてもよかった。だが、クイズの問題の中で、難しい単語がいくつかあり、もう少し言葉を崩せたのではないかと思う。

2－3. 活動写真

3. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

出席者が少なかったが 子ども達ひとりひとりにていねいに関わっていただけて よく理解でき楽しかったようで 人数のわりに活気のあった教室になりました。集中できるような声掛けもしていただけたと思います。竜巻・台風のクイズ形式でみんなで考えながら学ぶことができたと思います。理解した時に喜び 説明も比較的落ち着いて聞けたと思います 興味を持って参加でき子ども達の楽しそうな様子をたくさん見ることができました。（サイン 大野裕子）

○活動を終えて（リーダーサイン 北野谷 ）

①準備過程

各自で役割分担をして、効率良く準備をすることができた。
あらかじめトレイに材料を準備する事で活動の時間を有意義に使う事ができた。

②企画の流れ・企画内容

各自で役割を把握して活動する事ができた。
児童が先生の話をしっかりと聞く事ができるような働きかけをすることができた。

③学生の活動

児童の反応を拾い、それに対して受け答えをする事ができた。
児童が作業しやすいように、環境を整えることができた。

④テーマに対する指導の工夫

児童が活動に対しておもしろみを持てるように、クイズをポイント形式にして活動全体でチーム対抗という形にした。

⑤目標達成度

児童とコミュニケーションを活発にとることができた。
児童同士で会話をする時間を多くとることができ、児童に笑顔が見られた。

⑥総合評価

児童と積極的に関わることができたため 活動全体に活気が見られた。
児童同士での会話が多く見られたことは良かったと思う。

教員からの意見・評価

少人数にもかかわらず にぎやかに楽しく活動できていたのがよかったと思います

（サイン [illegible] ）

C. 11 月企画活動報告

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

子ども達への導入がうまく、最後まで集中して取り組めたのがよかったと思います。子ども達のワクワクする気持ちが感じられ、子ども達ひとりひとりへの声掛けもやさしく適切に行なっていただけたと思いました。楽しい時間をありがとうございました。

(サイン 大野)

○活動を終えて(リーダーサイン 稲垣)

①準備過程

目的意識をもって準備を進められておらず、どのレベルまで子どもたちに要求するのか決めて行うことの大切さを友達の意見から学んだ。また、「教師は役者」というように見せ方一つ一つまで考える重要さを学んだ。

②企画の流れ・企画内容

流れ自体はよくできていたと思う。時間が余ることが予想されたが、裏番組を用意しておいたので、子どもを暇にさせることなくやれた。

③学生の活動

全員が個々の活動速度に合わせて支援できていた。また、バットの準備や時間・子どもの様子に合わせた学習展開等の意見を出し合いながらやれた。

④テーマに対する指導の工夫

「密度」という概念を大まかに捉えさせるために、言葉で、「ぎっしり」、「すかすか」というイメージをつけることや、水に石を浮かべる実験で実感を伴って理解させるようにした。

⑤目標達成度

子どもの様子として、じゃがいもを切った際も「ぎっしり」だから沈む。という意見が出たり、最後にポップコーンのタネ明かしの際も「すかすかだから上に上がった。」ということが理解できていたりしていたのでかなり達成できたと考える。

⑥総合評価

木曜日のリハーサルの時点では、全く準備が間に合っておらず、10点くらいだったが、みんなの意見を取り入れつつ、考えを煮つめ、細かい演出なども考え行った結果、子どもの反応もよかったので80点としたい。

教員からの意見・評価

さすが四年生、安心して見ていられました。

リンゴ(でしたか?)をそのまま入れても、切って入れても沈むということで、重さではなく、密度の問題だということが、よくわかりました。

(サイン 高木徹)

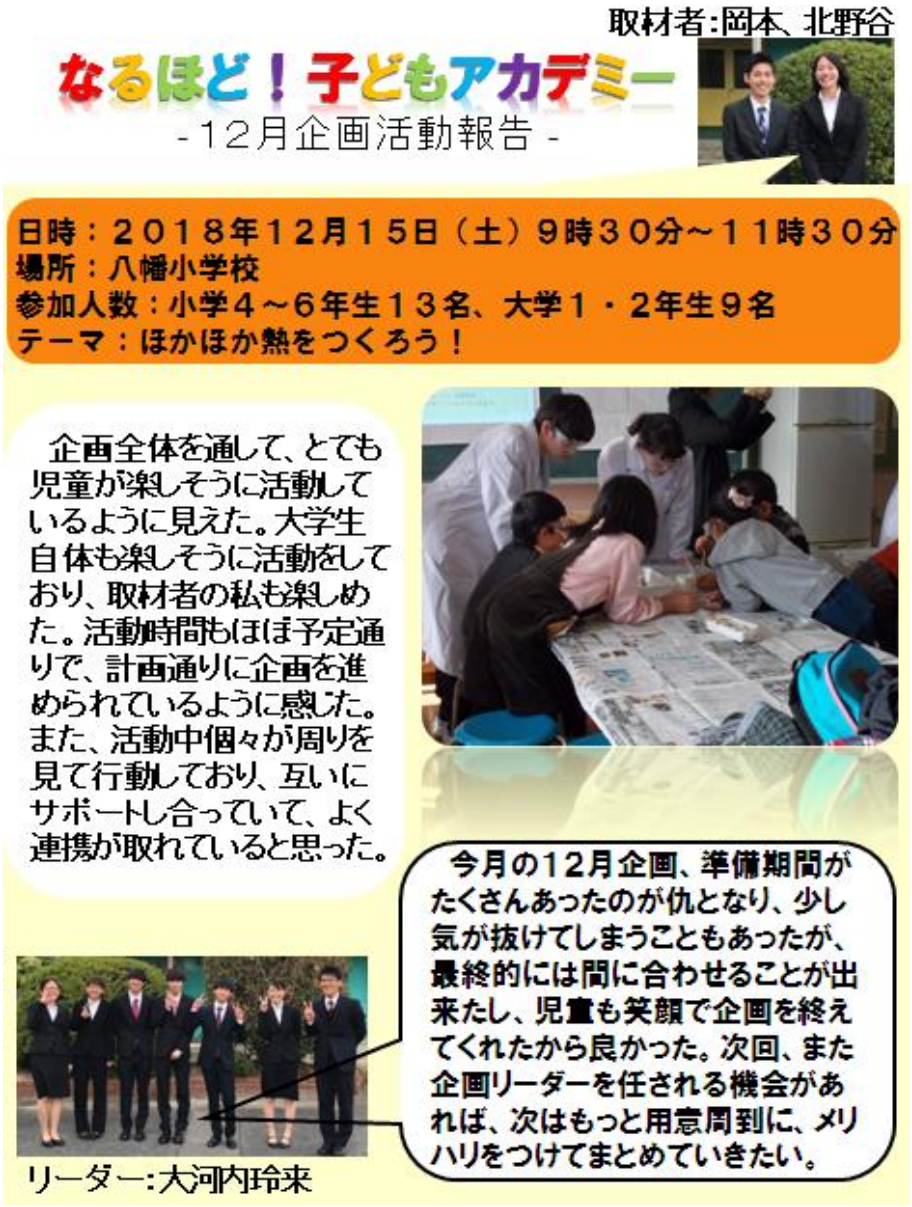
D. 12 月企画活動報告（報告者：北野谷健汰）

1. 参加者

小学 4～6 年生 13 名、大学 1・2 年生 8 名、大学教員 1 名、小学校関係者 1 名（教頭）、運営指導者 1 名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子



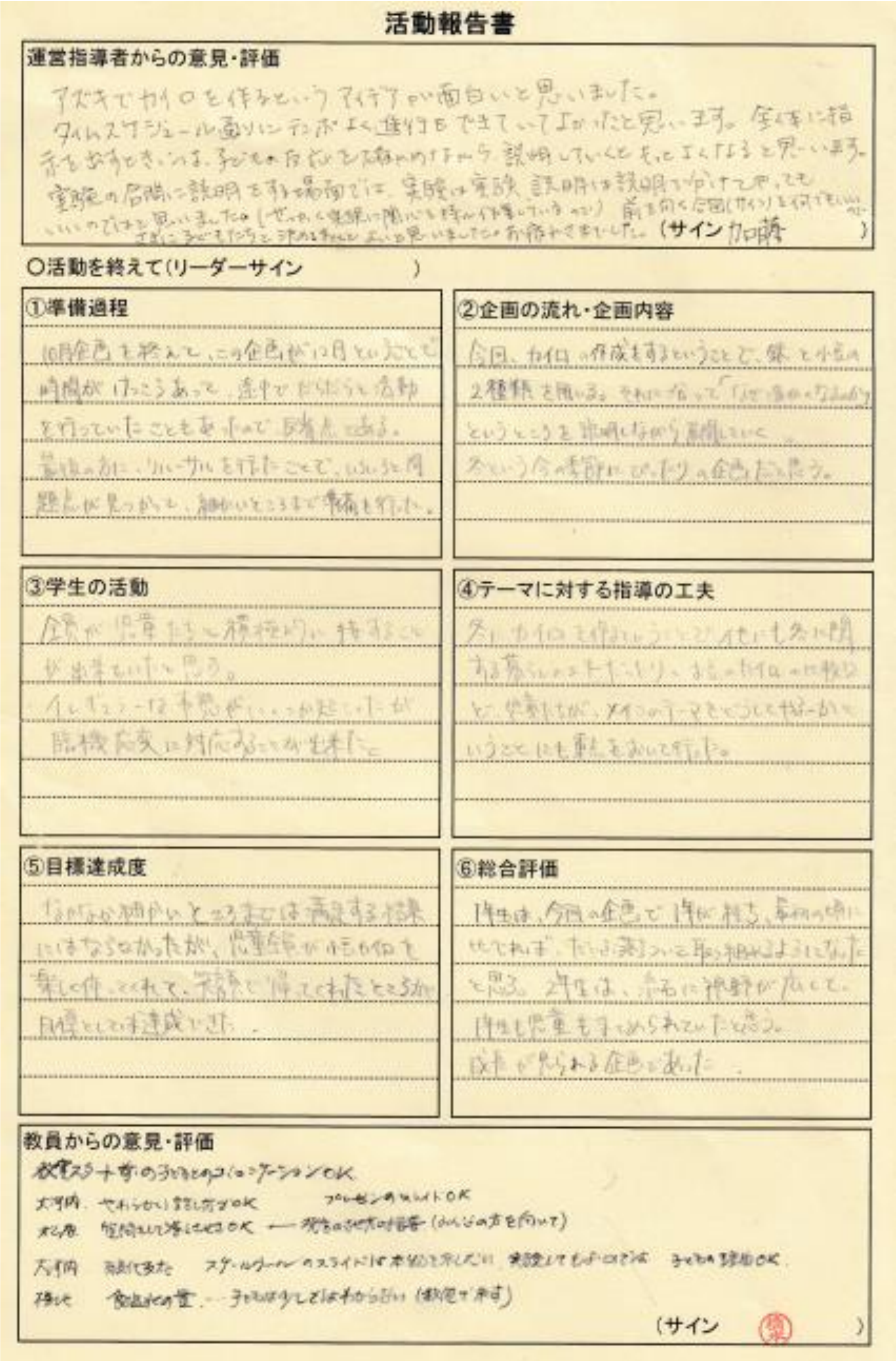
カイロはなぜ温かくなるのかということを、実験や観察を通して明らかにしながら、児童の興味を引いていた。また、カイロの中身にはどんな豆が適しているのかという事を児童自身で解決させて、その豆を使ってカイロを制作した。カイロを制作した後は、実際にカイロを温めて、温かくなることを実感した。

2－2. 企画の内容

普段、使用している使い捨てカイロの中身と同じ物を使って鉄カイロを制作し、カイロの中身は何が入っているのかということを明らかにしていた。しかし、持ち帰る作品は何回も使用することができる小豆カイロを制作していた。また、どんな豆がカイロに適しているのか考える場面では、実際に豆を電子レンジで温めて豆の温度を測り、児童が問題を解決できる場を設けていた。児童の興味を引く活動や、児童自身で考える場を多く設けていた企画だった。

3－3. 活動写真

3. 活動のまとめ



活動報告書

運営指導者からの意見・評価

アイデアでカイロを作るというアイデアが面白いと思いました。
タイムスケジュール通りにテンポよく進行もできていてよかったと思います。全体に指示を出すときには、子どもの反応を確かめながら説明していくともっとよくなると思います。
実験の合間に説明をする場面では、実験は実験、説明は説明で分けてやっても [illegible] 前を向く合図（サイン）を何でもいいのではと思いました。（せっかく実験に関心を持ち作業しているので）[illegible] 子どもたちと決めるとよいと思いました。お疲れさまでした。

（サイン 加藤 ）

○活動を終えて（リーダーサイン　　　）

①準備過程

10月企画を終えて、この企画が12月ということで時間がけっこうあって、途中でだらだらと活動を行っていたこともあったので反省点である。
前日の方に、リハーサルを行ったことで、いろいろと問題点が見つかって、細かいところまで準備を行った。

②企画の流れ・企画内容

今回、カイロの作成をするということで、鉄と小石の2種類を用いる。それに沿って「なぜ温かくなるのか」というところを説明しながら実験していく。
冬という今の季節にぴったりの企画だったと思う。

③学生の活動

全員が児童たちと積極的に接することが出来ていたと思う。
イレギュラーな事態がいくつか起こったが臨機応変に対応することが出来た。

④テーマに対する指導の工夫

冬にカイロを作るということで、他にも冬に関する事をクイズにしたり、お店のカイロとの比較などを交えながら、メインのテーマをどうして指導するかということにも重点をおいて行った。

⑤目標達成度

なかなか細かいところまでは満足する結果にはならなかったが、児童全員がカイロを楽しく作ってくれて、笑顔で帰ってくれたところが目標としては達成できた。

⑥総合評価

1年生は、今回の企画で1年が経ち、最初の頃に比べれば、だいぶ落ちついて取り組めるようになったと思う。2年生は、更に視野が広くて、1年生も児童もまとめられていたと思う。
成長が見られる企画であった。

教員からの意見・評価

教室スタート前の子どもとのコミュニケーションOK
大河内　やわらかい話し方がOK　プレゼンのレイアウトOK
[illegible]　質問された事にはきちんとOK ← 発言の前の指示（みんなの方を向いて）
大河内　説明で [illegible]　スケールゲームのスライドは [illegible]　実験してもよいのでは　子どもへの説明OK
[illegible]　食品中の量……子どもには少しではわからない（数値で示す）

（サイン [illegible] ）

（２） 松原小学校

A. ６月企画活動報告（報告者：夫馬裕斗）

1. 参加者

小学 4～6 年生１４名、大学１・２年生 13 名大学教員１名、小学校関係者１名、運営指導者１名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

・積極的に子どもと会話しようと努めていた。

・準備や片付けなどテキパキ行動でき、時間に余裕をもって動けていた。

2－2. 企画の内容

・子どもたちに見やすいように、字や図を大きくしていたり、前に集合した時に、後ろのほうの子が見えるよう前にいる子にしゃがむように指示したりと配慮ができていた。また、大きな声で伝わりやすく、子どもたちが前を向いて説明を聞いてもらえるように注意を促せていた。

・カレンダーを作っている最中に、画鋲の個数を増やさないとならない状況になってしまった。リハーサルなどで気づくべきミスだったと思う。

2－3. 活動写真

3. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

開始20分ですぐに子どもたちがリラックスして楽しんでいるのが伝わりました。導入がよかったからだと思います。電池の実験はグループごとに協力し合えるし、ゲーム感覚でできたのでよかったと思います。

(サイン しのざき)

○活動を終えて(リーダーサイン)

①準備過程

1・2年生協力して行うことができた。準備する物が多く、時間が足らないのではないかという不安はあったが、逆に時間にゆとりをもって行えたのでよかった。

②企画の流れ・企画内容

3つの力についてやっていったが、1つ1つのつながりが上手くできなかった。内容的にも難しい部分が何ヶ所かあったので、そこの部分を改善するとさらによくなると思った。

③学生の活動

周りの状況を見ながら、臨機応変に動くことができていた。また、自分の役割をしっかりこなしていた。児童とも積極的に話しかけたりなどコミュニケーションをとるようにしていた。

④テーマに対する指導の工夫

ただ説明するだけでなく、質問形式やクイズ形式、実験など子どもが楽しみながら学ぶことのできるようにした。児童の行動に対して、ダメなことはダメとしっかり指導することもできた。

⑤目標達成度

目標は達成できた。特に、理科の導入では、児童の興味をひき、学習意欲を高めることができた。しかし、目標以外の部分で、いくつか気になる部分があったため、次回そこを改善したい。

⑥総合評価

初めての企画にしてはいい出来であったと思うが、まだまだ改善できる点は多くあるため、次回までにしっかり改善したい。準備から片付けまで、協力して行えたのでよかった。

教員からの意見・評価

1 カレンダーのペットボトルキャップ準備OK 2 工作の安全OK 3 豆電球の位置を正確にしたいなら[illegible]を使うとよい 4 子どもに聞かせる技術の習得必要 5 銀紙、金紙の電流が流れるかどうかは予想させたい。→実験 結果 考察させる 6 電流と[illegible]の内容は難しい。(全員との関係をおさえたい)これが[illegible] 7 注意：質問後正答が出た時、すぐ"ソー"と言わないこと 7 全体としてはよく準備、練習できていた。カレンダーづくりが[illegible]よかったので面白かった。

(サイン [illegible])

B. 7月企画活動報告（報告者：松下　凪）

1. 参加者

小学 4～6 年生 23 名、欠席者 1 名、大学 1・2 年生 10 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、運営指導者 1 名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

・児童は時間の限り、一生懸命自分の作品を作っていた。

・1 回目よりも積極的に子どもと会話しようと努めていた。

・準備や片付けなどテキパキ行動でき、時間に余裕をもって動けていた。

また、そのおかげで時間より少し早く来た児童にもしっかり対応できていた。

・自分で作ったランプシェードを児童がとても喜んでいた。

2－2. 企画の内容

・はさみは使ったらしまわせたり、ボンドの筆の使用にあたる注意点など、細かい部分の注意がしっかりとできていたので、とてもよかった。副実験も、多くの児童から「すごい」、「予想と違って面白い、驚いた」などの言葉を聞いたので、大成功だったと思う。

・パワーポイントが、先生の立ち位置のよって児童が見ずらい場面が多かったので、朝の準備段階で確認するといいと思った。

2－3. 活動写真

3. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

今回は参加人数も今までより多く「ランプシェード」の企画が良かったからだと思いました。作品作りも楽しそうでした。実験をして、結果を発表させ、なぜその結果になったかと、順を追っての説明だったのでよく分かり、構成がよかったと思いました。

（サイン 篠崎 ）

○活動を終えて（リーダーサイン 　　　　）

①準備過程

前の企画が終わって2週間しかなく、活動の日にちが少なかったけれど、その日にやることをしっかり決めてちゃんとやれた。

②企画の流れ・企画内容

前回の企画に、製作時間が短い、製作の時の手ぶくろが邪魔、ボンドが少なく違いところがおいてある、予想発表の時の様子などの問題点が出た。それらをすべて改善し、スムーズにいったのでよかった。

③学生の活動

説明などは、言い間違いなどはあったけれど、みんな伝えることはしっかり伝えられた。児童が思ったより早く来て、室内指導の人が教室にいて誘導しないといけなかったので準備がある程度終わったら行くことを決めておく。

④テーマに対する指導の工夫

何が光を通って何が光を通さないかということので全員で予想し、班での意見を比べたり、理由をしっかり述べていった。実験、解説もしっかりできていたし、図などを使って説明できた。

⑤目標達成度

今回の目標達成度は95%ぐらい。周りを見れる人が増えてきたと感じた。しかし、まだ児童と友達みたいになっている人がいるのでしっかり切り換えをできるとよい。

⑥総合評価

大きな怪我、失敗なく終わることができたのはよかった。また、前回の反省で出てきたものが改善され、製作時間が長くなり、満足する作品がつくれたと思う。

教員からの意見・評価

前回とくらべても非常におちついてできていたと思います

全体的によくまとまっていてよく動けていたのですばらしいと思いました

（サイン [illegible] ）

C. 11 月企画活動報告（取材班：村上・萩野）

1. 参加者

小学 4～6 年生 22 名、大学 1・2 年生 8 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、教育委員会 0 名、運営指導者 1 名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

・学生も児童も積極的にコミュニケーションをとっていたため、児童全員が企画に参加できていた。

・制作についての注意が的確であった。

・制作説明に劇を取り入れるなどの工夫が施されていたため、楽しく学べて、尚且つ分かりやすかった。

2－2. 企画内容

・企画に劇を取り入れ、また、児童を前に集めるなどし、企画内容は理解しやすいものになっていた。

・石鹸スクイーズは石鹸ということで実用的であり、さらに、鑑賞用としても楽しむことができるものだった。

・アクシデントを未然に防ぐためにも、色素の容器の中身を事前にチェックしておくべきだった。

・副実験では、児童に予想を立てさせながら表面張力について説明できていた。

・制作、副実験、共に児童が楽しめる内容だった。

3. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価（子ども達に）

申し込みの時から大人気で期待感がありました。企画がとても良かったと思います。子ども達の期待にしっかり応えられたと思います。注意点・表面張力の原理・実験の説明もすべて完ぺきでした。先生方も落ち着いた口調で伝わり易かったです。（サイン 篠山勇）

○活動を終えて（リーダーサイン 伊藤 ）

①準備過程

児童に危険が無いようにするためにはどうしたらよいか、より楽しんで参加するためにはどうしたらよいかなど、それぞれに積極的に意見を出し意欲的に活動した。ただしリハーサルをもう少し取るべきだったと感じた。

②企画の流れ・企画内容

前回の企画では製作物の準備が足りない、時間をオーバーした、などの課題が出たが、今回はそれを改善し製作物の失敗時にも対応できた。また時間を見ながらたびたび臨機応変に対応できていた。

③学生の活動

基本的に学生達が全体の流れを理解し個々で動けていた。また本番当日に変更した点もあったが考えて動けていた。ただし活動の朝の準備段階で動けている人とそうでない人の差が目立ったので改善点である。

④テーマに対する指導の工夫

表面張力、界面活性剤という内容が児童にとって馴染みが無くまた難しい内容だったが、身近なもので例を挙げ実際に見せてみることで理解していた。また先生方が劇などをしてできるだけ噛み砕いて説明する工夫をした。

⑤目標達成度

今回の目標達成度は90％ぐらいだと感じた。みんなが内容を理解し動けていたのは良かったが、当日の準備での確認不足が大きな課題となった。ただ、前期の最後の活動としては良かった。

⑥総合評価

大きな怪我、失敗なく終えることができたので良かった。また前回の反省で出てきたものが改善され、臨機応変に動けたので良かった。児童も楽しんで製作し、喜んでくれていたのはとても大きかった。

教員からの意見・評価

概ね良好でした。粉に水分を加え過ぎてしまった児童がおり粉をもう一度加えたりしているうちにラップが破れ……という光景を2、3見ました。少しずつ水分（洗剤？）を加えていくとよい、という指示があったのかどうか。それから、粉でスカートをよごしている児童がいた（払えば済むことですが）ので、そうしたことも（サイン 高木徹）想定して企画を考えるとよいでしょう。

D. 12 月企画活動報告（取材班：伊藤・平澤）

1. 参加者

小学 4～6 年生 18 名、大学 1・2 年生 8 名
大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、運営指導者 1 名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

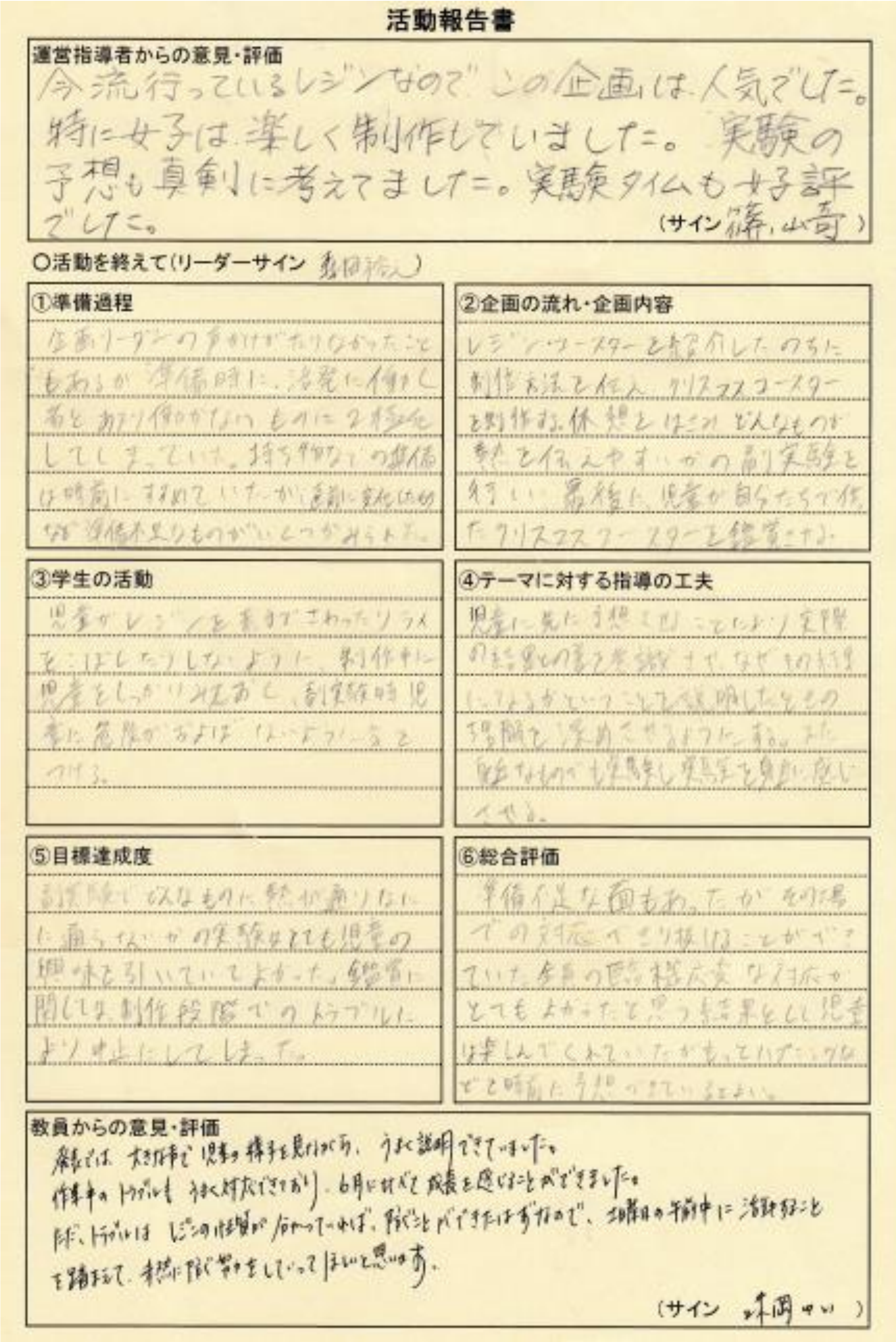
・学生も児童も積極的にコミュニケーションをとっていたため、児童全員が企画に参加できていた。
・製作の際に、日光が当たる窓側の席の児童は、レジンが固まってしまうというハプニング
があったが、そこは柔軟に対応していた。
・導入から実験の解説まで児童にわかりやすいように説明されていて、勉強になるものとなっていた。

2－2. 企画内容

・筆箱などといった、身近なものの熱の通りやすさを前で実験していて、児童の興味を引くことができていた。
・クリスマスコースターはコースターということで実用的であり、さらに、鑑賞用としても楽しむことができるものだった。
・副実験では、児童に予想を立てさせながら熱の伝わり方について説明できていた。
・制作、副実験、共に児童が楽しめる内容だった。

2—3. 活動写真

3. 活動のまとめ



活動報告書

運営指導者からの意見・評価

今流行っているレジンなのでこの企画は人気でした。特に女子は楽しく制作していました。実験の予想も真剣に考えてました。実験タイムも好評でした。

（サイン 篠、山崎）

○活動を終えて（リーダーサイン 森田 [illegible]）

①準備過程

企画リーダーの声かけが足りなかったこともあるが、準備時に、活発に働く者とあまり働かない者に2極化してしまっていた。持ち物などの準備は事前にすすめていたが、直前に変化したためなど準備不足なものがいくつかみられた。

②企画の流れ・企画内容

レジン・コースターを紹介したのちに制作方法を伝え、クリスマスコースターを制作する。休憩をはさみ、どんなものが熱を伝えやすいかの副実験を行い、最後に児童が自分たちで作ったクリスマスコースターを鑑賞させる。

③学生の活動

児童がレジンを素手でさわったりラメをこぼしたりしないように、制作中に児童をしっかりみておく。副実験時児童に危険がおよばないように気をつける。

④テーマに対する指導の工夫

児童に先に予想させることにより実際の結果との違いを意識させ、なぜその結果になるかということを説明したうえでの理解を深めさせるようにする。また、身近なものでも実験し、実験を身近に感じさせる。

⑤目標達成度

副実験でどんなものに熱が通りやすいか通らないかの実験はとても児童の興味を引いていてよかった。鑑賞に関しては制作段階でのトラブルにより中止にしてしまった。

⑥総合評価

準備不足な面もあったが、その場での対応や切り抜けることができていた。全員の臨機応変な対応がとてもよかったと思う。結果として児童は楽しんでくれていたが、もっとわかりやすいなどと明確な予想の [illegible] とよい。

教員からの意見・評価

本番では大きな声で児童の様子を見ながら、うまく説明できていました。
作業中のトラブルもうまく対応できており、6月に比べて成長を感じることができました。
ただ、トラブルはレジンの性質が分かっていれば、防ぐことができたはずなので、準備の段階中に活動することを踏まえて、未然に防ぐ努力をしていってほしいと思います。

（サイン 味岡ゆい）

（３） 東野小学校

A. 6 月企画活動報告（報告者：志野瑞季　川瀬雄大　安井太成）

1. 参加者

小学 4～6 年生 11 名、大学 1・2 年生 10 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、運営指導者 1 名、観覧保護者 1 名、

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

・リーダーの中島千尋さんを中心として、皆が積極的に児童と話していたので、児童は困った時に白衣の先生に質問をすることができるとてもよい関係であった。児童も楽しそうに作品作りをしていたのでとてもよい企画だなと思った。

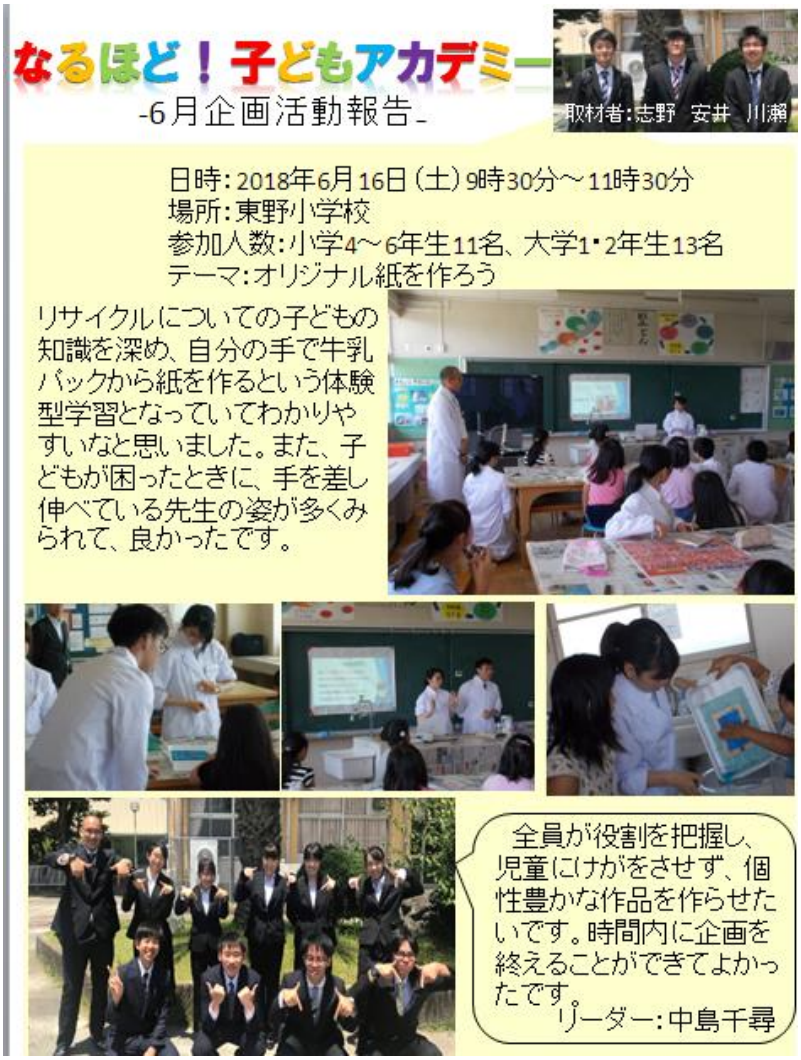
2－2. 企画の内容

・最後のお見送りがちゃんと親への引き渡しができていなかったので、児童が全員帰ったのを確認してから見送りの学生は教室に戻ったほうが良いのではないだろうかと思った。

・オリジナル紙を作る説明で、オリジナル紙の準備は大変であるのにも関わらず実物を使って説明したことがとても考えられているなと思った。

・1,2 年生間のコミュニケーションがうまくとれていない点が多く見られたのでそこが残念だった。

2－3. 活動写真



活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

テキパキと準備を進め、自分の役割をしっかり行っているように見受けられた。児童に積極的に話しかけて笑顔で接していてよかった。作業の指示をするときもわかりやすく時間も伝えていて子供たちがとまどうこともなかった。クイズなど児童が楽しくすごせるように工夫していてよかったです

（サイン 金子美奈子）

○活動を終えて（リーダーサイン 中島）

①準備過程

テキパキと準備を進め、自分の役割をしっかり行っているように見受けられた。紙を何回も作ってはいたが、乾かないことが問題。指示が出来ていなくて一年生が理解しないまま最後りハになってしまった。

②企画の流れ・企画内容

牛乳パックをちぎっただけで回収してしまって何をやりたかったのかが伝わらない。ドライヤーでブレーカーが落ちてしまい、上手く乾かせなくてクイズの時間を延ばしたら、鑑賞の時間がなくなってしまった。

③学生の活動

児童と1対1ではよくコミュニケーションがとれていたと思う。しかし、企画について私が一年生に上手く伝えれなかったこともあり、直前になって焦ってしまう場面が多かった。

④テーマに対する指導の工夫

紙の作り方は把握してほしかったため、何回も作り、乾かし方やどのくらいドライヤーをかけるのか考えた。しかし、企画の流れを私だけが理解している形で上手く伝達できていないことも知った。

⑤目標達成度

一年生に児童の前で立たせて人前に立つことに慣れてもらおうとした点については達成出来た。紙が出来あがった時に児童に最も喜んでほしかったが、クイズが一番盛り上がっていた。

⑥総合評価

問題が多く出てくる企画だった。準備の段階で問題が解決しないまま次の活動をしてしまった。効率的な時間の使い方をしなければならなかった。総合評価としては、全然上手くいったとは言えない企画。

教員からの意見・評価

子供たちが、全体像を理解しながら、今、どの部分の作業をしているかわかるような説明が求められる。子供たちも先の見通しがわかる方が作業に取り組みやすいはずだ。それから、子供たちが細かくちぎった牛乳パックの紙はどうなったのか。

（サイン 高木徹）

B. ７月企画活動報告（報告者：木村駿介）

1. 参加者

小学 4～6 年生８名、大学１・２年生１２名
大学教員１名、小学校関係者１名、運営指導者１名、観覧保護者２名、その他（参加者兄弟１名）

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

参加者が非常に少なかったが、学生が上手く児童同士の橋渡しをしていて、班ごとに仲良く、とても楽しそうに活動していた。時間もほぼ予定通りに進み、スムーズに進行していた。参加者の兄弟が来て、いっしょに活動した。最初はとても緊張していたが、終わり頃にはとても楽しそうに活動していた。

2－2. 企画の内容

前半のクイズでは、学生が児童の考えを上手く手助けできていた。糸電話の制作の際、ハサミや針金の注意喚起はもう少ししっかり行うべきだと思った。鑑賞の時間が長く、時間が余ってしまうのではないかと少し不安だったが、リーダーの案で糸電話を全員で交差して会話をするということをしていた。児童も学生もとても楽しそうだったし、いい感じで時間を使えていたのでリーダーの機転が利いていてよかったと思う。

2－3. 活動写真

3. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

みんなでやる糸電話が楽しそうでした。
スムーズに企画も進んでいて、とてもよかったです。
（サイン　　）

○活動を終えて（リーダーサイン　志野　）

①準備過程

準備段階では
スムーズに事が運び、
特に苦労もなく準備が
終わりました。
8人ということもあるかも
しれませんが。

②企画の流れ・企画内容

企画内容として、音とは何か
について、次に糸電話作り。
そして鑑賞をして、副実験
という流れになっています。

③学生の活動

1年生と2年生もきちんと
動けていた。心配だった1年生
もきちんと児童対応ができ
ていたし、自分の仕事もこなして
いた。

④テーマに対する指導の工夫

水のはいったおけと、おんさ
を使って振動を目に見える
形で見せることによって音とは
なにかについて分かりやすくす
ることを工夫した。

⑤目標達成度

児童には音に興味を持ってもらい、音について学んでもらった。
また、鑑賞時には作品の良さやおもしろさに気づいてくれたと思う。
達成度としては、とても良かった。
達成できたと思う。

⑥総合評価

今回は大成功と言っても良いぐらい良かった。全て
スムーズに進み、学生の活動も
児童の活動もとても良かった。
自分たちも楽しく終われた
のでよかった。

教員からの意見・評価

児童の人数が想定外でしたが、企画自体はうまく進めることができていました。
糸電話の糸を変えて音の伝わり方の違いを調べさせるなら、個人で実験して終わりではなく、
全体で結果を共有しましょう。学習につながりません。
2回分の反省を踏まえて、10月企画から[illegible]にしたいと思います。

（サイン　大岡　）

C. １０月企画活動報告（報告者：石田楓花）

1. 参加者

小学 4～6 年生７名、大学１・２年生１２名

大学教員１名、小学校関係者１名、運営指導者１名、観覧保護者１名

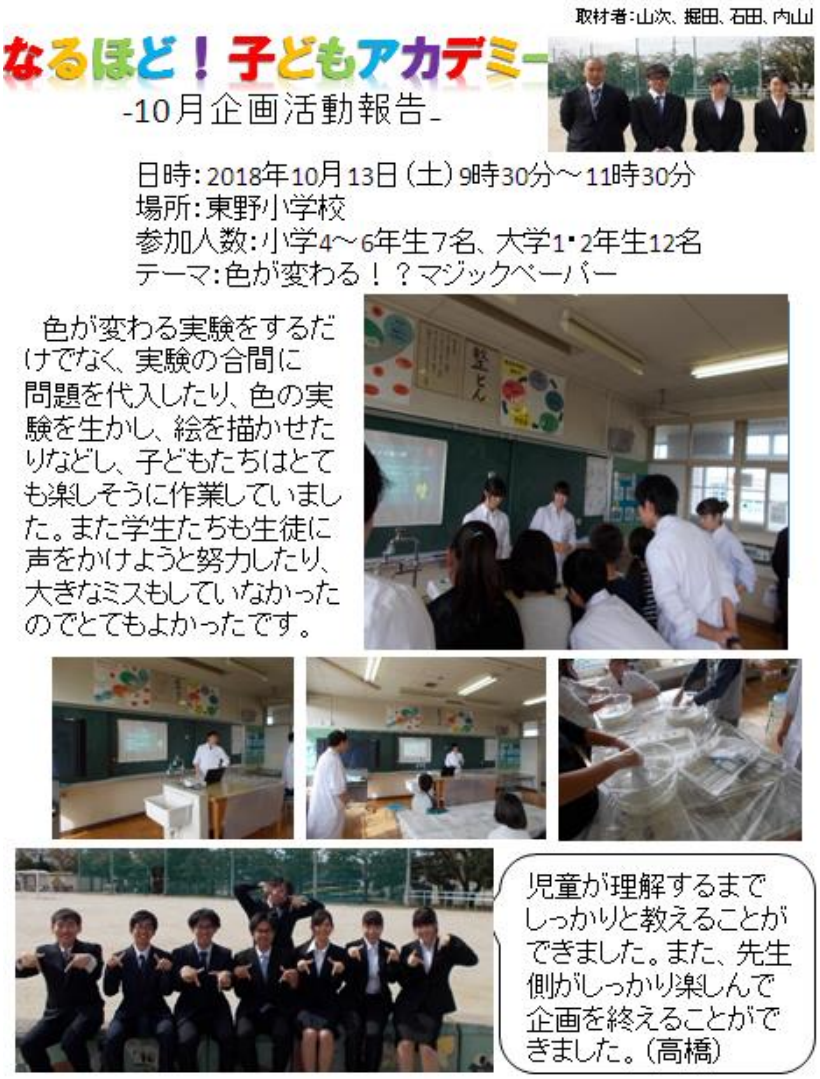
2. 活動報告

2－1. 活動の様子

学生は自分の役割をきちんと理解しており、会場準備がスムーズにできていた。時間調節もスムーズにできていて良かった。児童にも積極的に話しかけていて児童も楽しそうだった。石けん水とレモン水で絵を描いているとき色の変化を感じながら楽しんでいる様子が見られた。

2－2. 企画の内容

児童の数が少ないこともあり、クイズの児童への問いかけや受け答えに時間を使うことができ、作業中も１人１人の指導が丁寧にできていて良かった。酸・アルカリの説明がわかりやすく、児童が実際に絵を描くことで酸・アルカリの性質を体験できてより理解が深まった。汚れた雑巾を洗う作業でどのくらい汚しておくのか、どのくらい時間がかかるのかを事前に行い、時間配分や枚数を考えた方が良かった。



3. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

授業開始前の待っている時間に子供と簡単な遊びや話をしてコミュニケーションをとっていてよかった。大きな声で説明をして子供達に意見を求めている点もよかったと思います。実験の注意点をきちんと伝えてから取りかかりユーモアを交えて実験中も子供達とコミュニケーションをとっていて楽しくできていました。

（サイン 金子　）

○活動を終えて（リーダーサイン 高橋　）

①準備過程

事前に企画を把握しているのがグループリーダーのみで準備の段階で企画をしっかり理解して動ける人が少なかった。リーダーがしっかり全員に伝えるべきであった。

②企画の流れ・企画内容

初めに酸性・アルカリ性とは何か身の周りにあるものを使って説明し、クイズを通して酸・アルカリの理解を深め、リトマス紙において酸→赤 アルカリ→青ということを知ることができたら、ブドウジュースで染めた紙に児童の個性を生かして絵を描いてもらう。

③学生の活動

学生の目標であった児童間の橋渡しが少しできていない場面も見られたが自分自身で積極的に児童に話しかけに近づいたりして（子ども達が）児童を1人にすることがなかった。また各自が自分の役割を把握して動けていた。

④テーマに対する指導の工夫

児童の身の周りにある酸性・アルカリ性のものを答えさせたりすることで興味関心を引きつけたりクイズで出したリトマス紙の変色について児童と一緒に復習したりすることで理解を深めてもらえるように工夫した。

⑤目標達成度

学生の目標であった酸とアルカリについて児童に分かりやすく説明することができた。児童の目標であった理解については少し微妙な点もあったが事前に考えた目標は概ね達成することができた。

⑥総合評価

テーマに対する児童の理解度は低いように感じたが児童の記憶に残るように先生たちが楽しそうに説明したりしてくれたおかげで児童の充実度の高い企画をすることができた。企画のテーマは不完全な点が多かったが表現力のあるメンバーのおかげで企画は成功したと考えられる。

教員からの意見・評価

少ない人数（子ども）でおちついてできていたと思います

最後額ぶちに入れてあげたのがよかったです。

「おえかき」という言いには小学生には失礼かと…。

（サイン 古市　）

D. 12 月企画活動報告

（報告者：中村優太）

1. 参加者

小学 4～6 年生 9 名、大学 1・2 年生 11 名

大学教員 1 名、運営指導者 1 名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

活動全体を通して、児童の笑顔が溢れた活動になっていた。活動開始時は学生、児童ともに緊張した姿が見られた。しかし、活動を行うにつれて会話が弾み笑顔が出始めた。先生が笑顔であることにより児童にも伝染して楽しい活動になり成功と言える結果になった。

2－2. 企画の内容

企画に関して、今回のテーマが「静電気」であったため静電気をいかに分かりやすく児童に教えるのかという工夫が多く見られた。初めに、静電気と身近な素材との関係について学ばせるクイズを取り入れていた。しかし、このクイズは児童にとって難しい内容のものであったため、ハッキリとした理由をもって解答できていなかった。そのため、小学生というレベルに合ったクイズを提示すべきだろう。次に、静電気の+と－の関係についてオリジナルキャラクターを用いて説明していた。キャラクターにして提示することで児童に興味をもたせる効果があったと見られた。

指導に関しては、児童一人一人に目が行き届いており手厚い指導を行っていた。しかし、机の片付けを学生が行う場面があり、児童に行わせるべきだろう。

2－3. 活動写真

3. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

早く到着した子供をたいくつさせないようにコミュニケーションをとっていてよかったです。教室での注意事項をきちんと伝えていたこと、子供達に質問した後しっかーり考える時間をつくっていたこと、また、絵をなかなか描けないこどもにアイデアを出していてよかったです。時々、ゆっくりと話した方がいいなと思うことがあり早口にならないように気をつけて下さい。子供たちは皆な楽しそうでした。（サイン 金子）

○活動を終えて（リーダーサイン 石田）

①準備過程

人数分の下敷きと定規を用意できていなかった。その他の静電気ライトや副実験で使用する物は早めに準備できたので良かったです。

②企画の流れ・企画内容

導入で家庭科の重な着についてのクイズを行い、それから、静電気について意味を知ってもらい、その原理について説明し理解してもらう。電気クラゲやライティングコップで児童に実際に静電気の性質を使い楽しんでもらう。

③学生の活動

児童と積極的に話している様子が見られた。作業中も児童の作業がスムーズに進むようにアドバイスしていて良かったです。自分の仕事を理解していたため準備がスムーズに行えました。

④テーマに対する指導の工夫

前で静電気について説明するだけでなく、児童に実際に静電気の性質を使って遊んでもらうことで、静電気の力について学んでもらえるように工夫しました。

⑤目標達成度

児童に普段学ぶことのできない静電気の性質や静電気を実際に体験してもらうことができたが、副教科についての学びが少なかったと感じました。

⑥総合評価

副教科の学習内容が明確ではなかったので、学習内容を意識した企画づくりをしていきたいです。

児童の静電気の遊びを楽しそうに見ていたり、学生も楽しんでいる様子が見られたので良かったです。

教員からの意見・評価

終了時に述べたように、児童の前での説明が少しわかりにくい学生がいました。何ごとにつけ、わかりやすい説明を心掛けましょう。また、静電気を実感するための様々な小道具を用意したのは興味深かったですが、児童に指示する前に（サイン 高木）学生が実演をして見せると良かったと思います。

（４）勝川小学校

A. ６月企画活動報告（報告者：山次智也　高橋匠　石田安民）

1. 参加者

小学 4～6 年生１９名、大学１・２年生７名

大学教員１名、小学校関係者１名、運営指導者名、観覧保護者２名

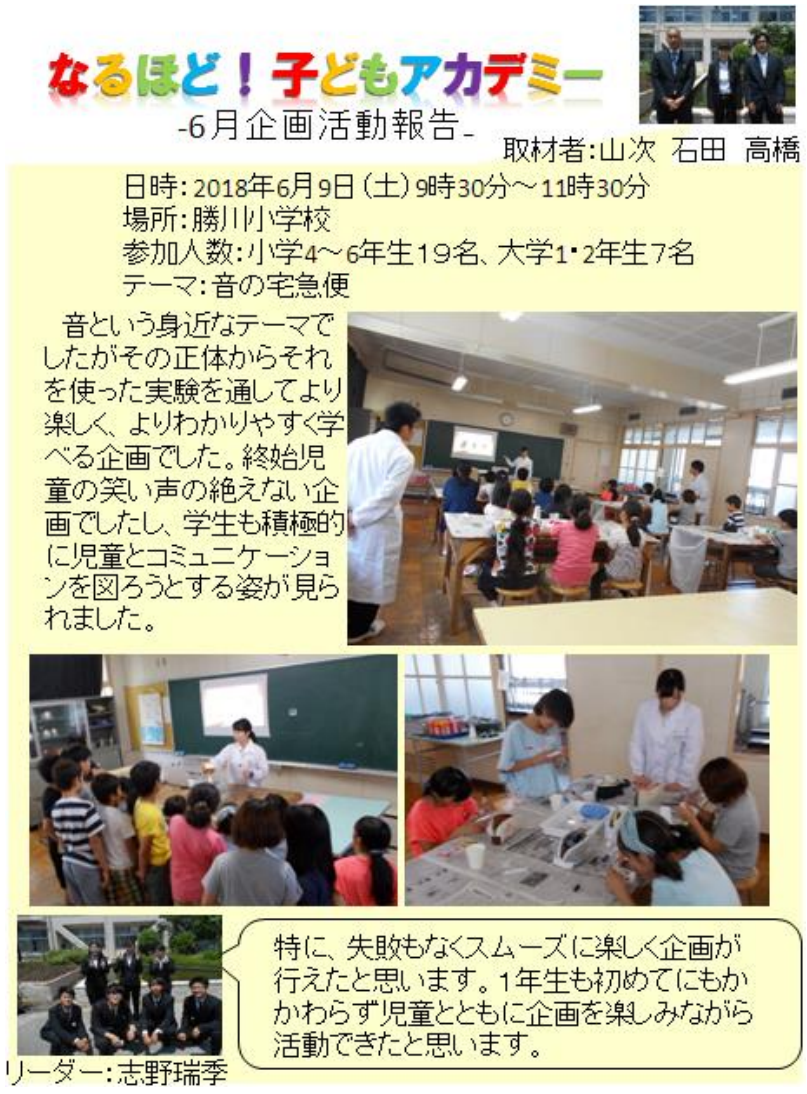
2. 活動報告

2－1. 活動の様子

今回の活動は一年生にとっても、二年生にとっても初めてばかりだったと思います。一年生は準備の段階から何をすべきか把握できておらず、取材班や二年生の指示を待つ姿が見られました。事前の企画書の説明ではわからないような問題点や当日の動き方については一年生にしっかり教えていく必要性があると感じました。二年生は先輩として積極的に児童とコミュニケーションを取ったり一年生に指示を出していたりと、一年生のお手本となる姿だったと思います。

2－2. 企画の内容

今回の企画は面白みのある場面が多かったと思います。特に、音叉を使った実験では、児童が興味を持って聞いていたのが見ていてよく伝わりました。また、クイズの際にも、問題と解説だけでなく、実物を使って、解説をしていたので児童にとってすごくわかりやすかったと思います。児童の反応も良く終始笑顔が見られました。改善点は、エコーマイクの解説をもっと的確でわかりやすいものにできたら良いと思います。



3. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

前半は、クイズ形式でグループ毎に楽しみながら学習できてよかったと思います。作品製作もとても楽しそうでした。材料を選べるのはいいですね。後半集中力がとぎれて落ちつきのない児童には名前を呼んでから注意するといいと思います。

（サイン [illegible]）

○活動を終えて（リーダーサイン 志野 ）

①準備過程

バネが届かなかったり、そのせいでエコーマイクが作れなかったり、児童が決定していなく名札が作れなかったり認定証が作れなかったり、最後の週は忙しかったが、なんとか乗りこえられてよかった。

②企画の流れ・企画内容

企画の流れとしては、クイズを出し、その説明、その後糸電話を作り鑑賞をして、副実験のエコーマイクを考えさせ、次回予告、あいさつ終了。内容は糸電話です。

③学生の活動

1年生は全員とはいわないが自分のやるべきことを分かっていなかったり、できていなかったり改善すべき点が多く見られた。2年生も特に良い所はなかったので、良い所を増やし胸を張れるようにしたい。

④テーマに対する指導の工夫

音の宅急便というテーマで企画を行ってきましたが、指導の工夫としては「音は波」ということを目で分かるようにしたり、エコーマイクを使って指導したり、様々な工夫を行いました。

⑤目標達成度

学生の目標として、「楽しく明るく無事に終える」は、よくできていたと思う。また、児童の目標として、「音に興味をもつ」というものだったが、おそらく興味をもってくれていたと思う。

⑥総合評価

総合的に見て、企画は成功したと思うが、もっと改善すべき所が多く見られたので、よりよくしていきたい。そのため、総合評価としては、まあまあよかった。といった所だ。

教員からの意見・評価

1年生にとって第1回目の子どもアカデミーの活動でしたが、1年と2年が協力し合い、しっかりと準備を行った授業になっていました。ただ、アルミ線を使用する場合、アルミ線の先を丸めるように指導するなど安全面にも気をつける事を忘れずにしてほしいと思います

（サイン [illegible]）

B. ７月企画活動報告（報告者：渡辺来夢音　中村未来）

1. 参加者

小学 4～6 年生１９名、大学１・２年生８名

大学教員１名、小学校関係者１名、運営指導者名、観覧保護者２名

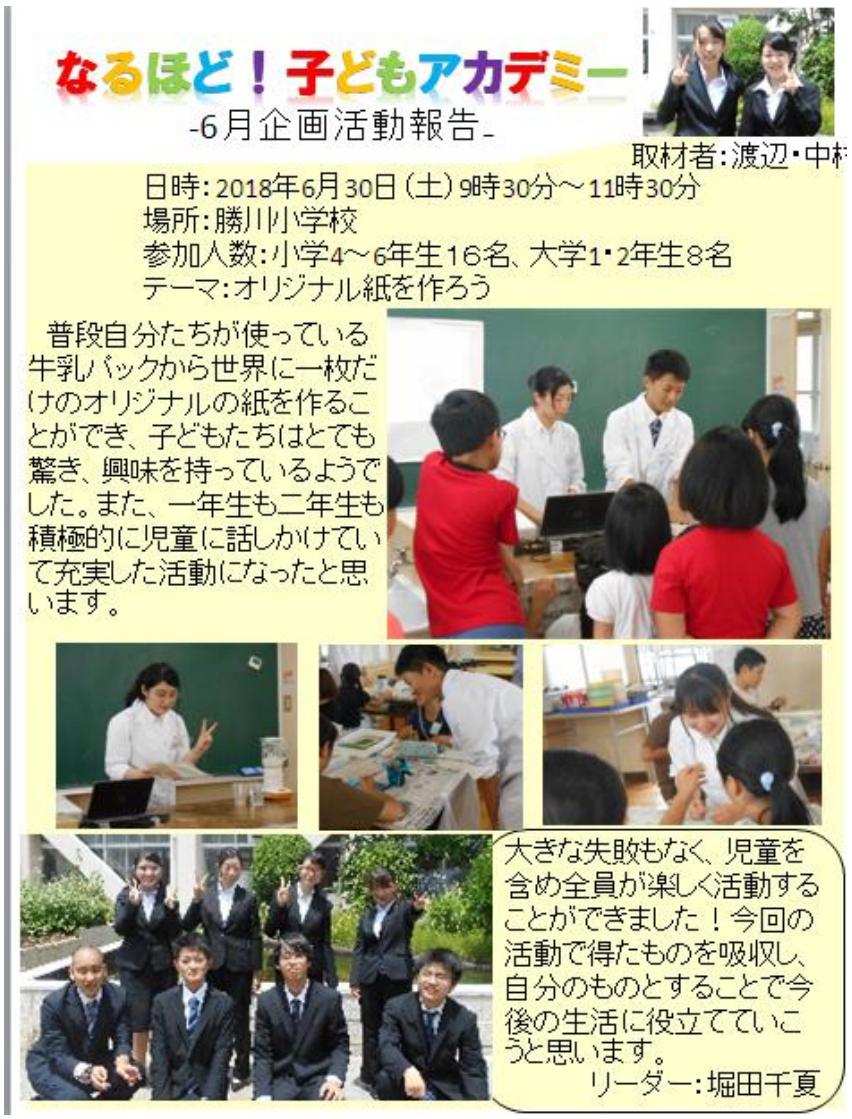
2. 活動報告

2－1. 活動の様子

今回の活動は、１年生も２回目ということか前回より良い動きができていた。前回の活動では準備の時間おろおろする１年生が多かったが、今回は自分から動き出すことができていた。学生が楽しい話題を提示することで、児童も楽しそうに話すことができていた。大きな問題もなく活動を終えることができたが、細かい点を言うと前日までの準備をしっかりする、取材班に児童のフォローをさせすぎないという２点を修正できたらもっといい活動になっただろうと思う。

2－2. 企画の内容

今回の企画は、牛乳パックの再利用に着目した新しい企画だったと思われる。児童自身の身近にある牛乳パックを利用してオリジナルの紙を作ることで思い出に残るものができたかと思う。クイズで紙のこと、リサイクルのことを深く学べていた。最後の鑑賞の時間に児童自身に発表をさせていたことが自分の作品の魅力を伝える機会があって、とてもよかった。企画内容としての改善点は特にない。面白い企画だったと思う。



3. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

最初にくらべて、最後、帰る頃には、笑顔になっている児童が多かったので楽しみながら活動できていたと思います。
ハサミを使う時は、左きき用のハサミも準備した方がいいと思いました。

（サイン 川端 ）

○活動を終えて（リーダーサイン 堀田 ）

①準備過程

短い期間しかなかったが前回の反省点は概ね改善できた。本番になってから決めていた点が多くあり細部まで気が回っていなかった。前回に比べ準備を早めに行い、本番直前での準備量を抑えられた。予備を十分用意していたため、漢字が違う、飛び入り参加などの対応がしやすかった。

②企画の流れ・企画内容

作業の関係で休憩が後ろのほうになってしまい、児童も少し疲れが見られた。改善以外も向上を目指し概ね成功。情報共有の不足による問題・トラブルがあった。流れとしては基本スムーズだったが途中予定時間をオーバーした箇所があり、フォローしきれず引きずってしまい、終了が11:25頃となってしまった。

③学生の活動

1年生には前回からの大幅な成長が見られた。よく全体を見て、フォローに回ることができていた。全体としては、事前の情報・当日の時々の情報の共有があまりできていなかった。準備の際からややのんびり気味だが、それを本番児童と接した行くことができていた。班によっては学生対グループの1対1ではない会話ができていた。

④テーマに対する指導の工夫

前回に比べ「リサイクル」について強化した。小学校で児童らが実際に行っている活動を話に出して身近であることや「リサイクル」がどういうことなのかを説明した。また、紙すきの材料にも触れ、リサイクル品との違い、またリサイクルを行う意義についても理解できるように解説した。鑑賞を発表形式にした。

⑤目標達成度

70%。：結果だけを見れば概ね成功した。細部のトラブルやミスは起きたものの、各人の対応が素早く大事にはならなかった。ミスのフォローで不要な時間ができてしまい、児童がこの間に早く次に行きたいと不満が出たこと、また時間配分や情報共有の不足がマイナスポイントである。

⑥総合評価

企画全体としては、前回に比べ大きく改善・向上できたと感じる。学生では特に1年生の成長が顕著で、意識・技術が向上していた。事前の情報共有や細部の未決定などのミスが目立ったが本番でフォローできた。学生全員が全体を見て行動できていたと感じた。

教員からの意見・評価

クイズをとり入れるなど工夫が生きていたと思います
細かい部分ではもっといろいろと改善できるのでは、と
思うところがありましたので、意見を出し合ってさらに高めていって下さい。

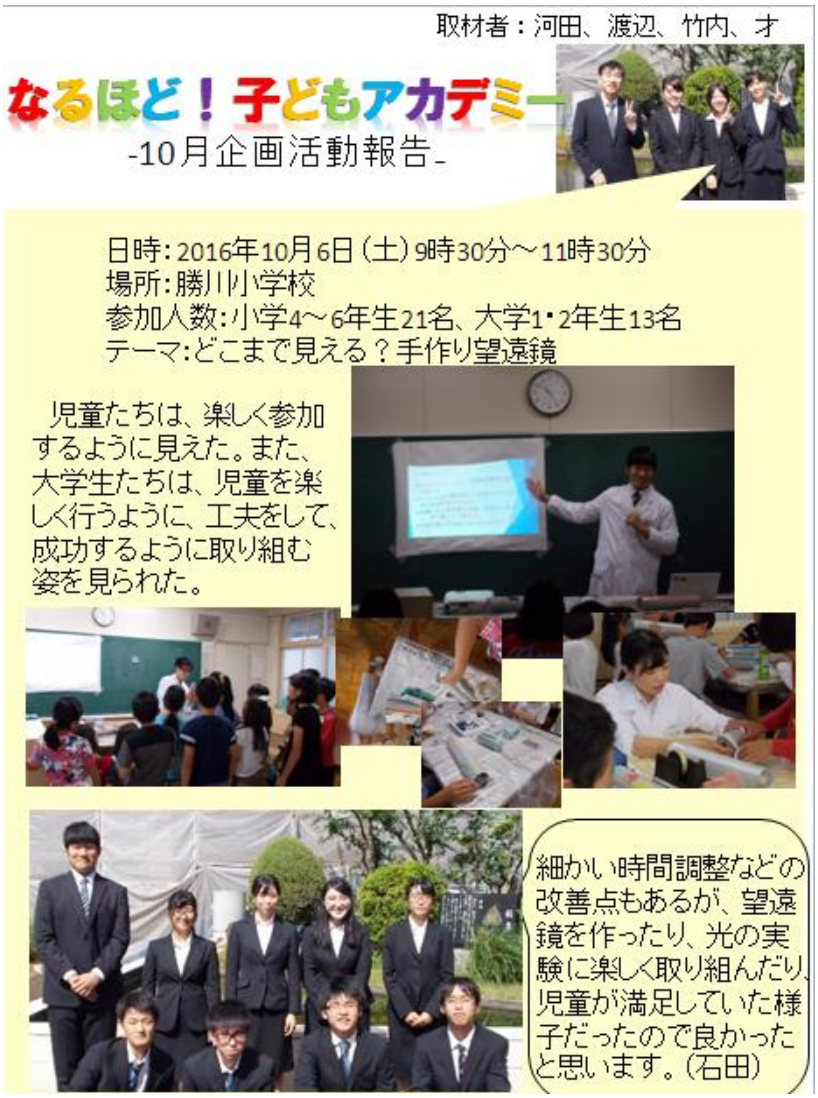
（サイン 古[illegible] ）

C．１０月企画活動報告（報告者：渡辺来夢音　竹内麻衣　河田愛生　才丰）

1．参加者

小学 4～6 年生２１名、大学１・２年生１３名

大学教員１名、小学校関係者１名、運営指導者１名、観覧保護者８名



2．活動報告

2－1．活動の様子

今回の活動は、１年生が主体となり、活発に活動できていた。前回の活動では、子どもたちの前で緊張してしまう学生が多かったが、今回の活動では、子どもたちに積極的に声をかけ、楽しい雰囲気作りができていた。子どもたちと学生が、いきいきと楽しそうに活動出来ていてとても良かった。大きな問題もなく活動を終えることができたが、細かい点を言うと学生間の情報の共有やアイコンタクトをもっと積極的にすれば、よりスムーズに活動を進めることができただろうと思う。

2－2．企画の内容

今回の企画は、望遠鏡という、普段作る機会の少ないものを児童に体験させる良い企画だった。光の屈折に関する実験を含め、子どもたちが驚くようなものばかりで子どもたちにとってとても印象深い企画になったと考える。学生が魔法使いになりきって実験を行っていた点もとてもよかった。鑑賞の時間を通して、子どもたち同士が関わる時間も多くあり、子どもたち同士の橋渡しができていた。企画内容としての改善点は特にない。とても面白い企画だったと思う。子どもたちはもちろん学生も楽しむことができていた。とても活気のある明るく楽しく笑顔であふれる企画だった。

3. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

望遠鏡を自分で作るというのは、なかなかできない体験だと思うので、とても楽しそうにしていて良かったと思います。
ただ絵をかく時に、すぐには思いつかない子もいるので今の季節ならハロウィンなどの素材をコピーしてそれを参考にかかせるのもよかったかなと思いました。

（サイン 川端 ）

○活動を終えて（リーダーサイン 石田 ）

①準備過程

今回の企画は準備するものが多く結構大変だったが、班の学生や手伝いに班の先輩が助けてくれたので間に合わせることができた。

②企画の流れ・企画内容

望遠鏡が遠くのものが見える原理である「光」を使った実験をして、光のおもしろさに気づいてもらい、その後望遠鏡を作る。逆さに見えることも発見してもらい、鑑賞、次回予告、[illegible]で終了。

③学生の活動

多くの学生は児童と積極的にコミュニケーションを取っていたし、光の実験での盛り上げも良かった。
前に出て話すことが先輩はもちろんだが1年生も少し慣れてきていると感じた。

④テーマに対する指導の工夫

光の説明が難しいものだったので、水、油などを使った光の実験をすることで、光の不思議を実際に見てもらい、光の性質に興味をもってもらうようにした。

⑤目標達成度

望遠鏡という普段作れないものが作れて児童も満足してくれたと思う。そして、光の性質をどう伝えるか工夫して、副実験を行って盛り上がっていたので目標は達成できたと思う。

⑥総合評価

作業時間の差異があったり、遅れてきた子の対応だったり、細い気をつける部分があったが、企画を通して児童も、学生も楽しんでいたし、大きな失敗もなかったので成功したと思う。

教員からの意見・評価

心理学的な観点からも、物が逆さに見えるという認知的葛藤から知的好奇心を喚起するのは非常に有効な方法だと思いました。
「どうすれば逆さに見えなくなるのか」という疑問を書いてる子もいたので、それに答えられるよう発展的な活動があってもおもしろいかなと思いました。
活動中の子どもへの働きかけは、もう少し積極的でもいいかなと思う場面もありました。川瀬君が上手でしたね。

（サイン 伊藤 ㊞ ）

D. 12月企画活動報告

1. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

実験や工作などを通して楽しく理科の勉強ができたのは、とても良かったと思う。ただ、せっかく使ったバンデグラフで静電気をおこそうとしても、なかなか成功しなかったのは少し残念でした。でも、その後の風船の実験は、とても盛り上がって楽しそうでした。今年度もありがとうございました。おつかれさまでした。（サイン 川端 由香里）

○活動を終えて（リーダーサイン 中村優太）

①準備過程

バンデグラフを制作するにあたってパーツの準備時間が足りず、リハーサルの時間をしっかりとれなかった。事前に想定した人数より多くの児童が来た為直前に不足が見つかった。副実験に変化が起こり企画全体が定まらなかった。

②企画の流れ・企画内容

最初に静電気の性質、生活の中でどのように使用されているのか興味をもたせる。班のメンバーと協力してバンデグラフを制作する。バンデグラフを使い電気クラゲが静電気に反応するのか確認させる。最後にクイズを行い理解しているのか考えてもらう。

③学生の活動

各自に与えられた役割を果たし企画に取り組む事ができた。班の学生がいなくなっても全体補助など他の学生がその穴をうめるよう視野が広くもてていた。リハーサルで挙げられた課題を改善しより良い発表にしていた。

④テーマに対する指導の工夫

静電気の性質が少しでも分かってもらえるように演技を入れた。パワポに写真を入れ制作の段階ごとの結果を明確にした。各班にプリントで制作手順が手元でも見えるようにした。

⑤目標達成度

バンデグラフのペットボトル・ハンドルが破損する事があり静電気の発生を児童自身のもので確認できなかった。最後のクイズで静電気について理解が少しでも確認できた事は良かった。

⑥総合評価

準備から本番を通して成功とは言えない結果になった。企画の欠陥をすぐに見つけ対応ができていれば少しは良い結果になったはずだ。特に今回は準備に多くの時間を費やしすぎた為にリハーサルの時間が足りなかった。余裕をもった計画をつくる。

教員からの意見・評価

1 保護者への対応（良）

2 開始前の子どもへの対応（良）（5人×4列，3人×1列）（2名遅刻）

3 子どもの引きつけ方は？（河田）

4 身の回りの静電気は？→静電気の説明は？→静電気がどうして起こるのか，説明 マイナスとプラスちゃんて何？（発問の仕方×）

（河田）話し方が早い（もっとゆっくり）

バンデグラフのしくみ 回転 まさつ（＋ −電気）→ためる

5 1つずつ確認○ 班担当学生○（岩田）

6 (★) バンデグラフの作り方 すべて説明して子どもは聞いてるか 1つずつ作りながら 班担当学生が補助

（サイン　　）

電気が流れにくいもの？（むずかしい） 流れるもの（金属）

3年まで学習（4年以上 初めて）

OK 手順 発表の仕方→板書すべき

正しくは電気が流れる 流れない

・乾燥　コピー機○ 空気清浄機○ ガスコンロ ライター

→☆ 下敷で→実際に体験させて静電気について考えさせる

（５）鳥居松小学校

A．６月企画活動報告（取材班：河合・西村・萩野）報告者：萩野優二

1．参加者

小学 4～6 年生 23 名、大学 1・2 年生 9 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、運営指導者 1 名、観覧保護者 1 名

2．活動報告

2－1．活動の様子

・学生も児童も積極的にコミュニケーションをとっていたため、時間が経つにつれて学生、児童共に笑顔が絶えない楽しい時間になった。

・児童への注意が的確で、進行がスムーズに行えていた。

・作業説明に工夫が施されていたため、児童が困ることなく作業に取りかかれていた。

2－2．企画内容

・企画にクイズなどを取り入れることで、児童が授業内容を理解しやすいものになっていた。

・ランプシェードはサイズが小さく持ち運びが簡単で、家にも飾りやすいものだった。

・児童が書いた鑑賞カードはそれぞれ児童に持ち帰らせるべきだった。

・鑑賞では、ランプシェードの美しさが分かりやすいものになっていた。

・制作、鑑賞、それぞれ児童が楽しめる内容だった。

3. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

工作：制作時間、短い時間だったが手際よくできていた（準備がよかった）
クイズ・検証実験・解説：わかりやすくていねいに説明されていた（図などを用いて）
鑑賞：友達が作ったものを見て（いろいろな作品を見ることによって）目が育つ（美的感覚こそ養う）同じ材料とは思えないできばえ
サイン　豊沢

全体的にうまく時間配分されていたし、楽しく勉強できた。

○活動を終えて（リーダーサイン　　　　）

①準備過程

副実験を決定するのが遅かったのもひびき、準備が前日の夜遅くまでかかってしまった。水曜日が休みなのもあったが、それまでに無駄な時間が多すぎた。しっかり計画を立てるべきだった。

②企画の流れ・企画内容

企画は、時間がオーバーすることなく終わったのでよかった。製作時間が短かったり、副実験を長くとっていたので、次回のタイムスケジュールの作成に生かしたい。

③学生の活動

自分の担当のところは、忘れている部分もあったがほぼ完ぺきにこなせていたのでよかった。最初子どもが来た時、あまり対応できていなかった。先生になりきれていなかった。

④テーマに対する指導の工夫

今回考えたことは、光が何を通し、何を通さないかだった。副実験によりそれを深めることができたが、班ごとに発表する際に他の班が[illegible]ていないことが目立ったので、改善が必要である。

⑤目標達成度

今回の目標達成度は60%だと思う。企画の進め方の仕方はよくわかったと思うが、子どもとの接し方に問題があると感じた。友達やお兄さんのようだったので、先生としての接し方を学ばなければならない。

⑥総合評価

今回の企画は子どもも楽しんでいたし、大きな失敗はなかったのでよかったと思う。しかし、細かなミス、[illegible]、子どもとの接し方など、まだまだ課題が残った。

教員からの意見・評価

・制限時間が短めに設定されていたところがあったので再考して下さい。
・板を持つ役の子も光があたるのを見られるように横向きになるなどと指示して下さい。
・言葉づかいは基本「～しましょう」「して下さい」などのていねい語を用いた方がよいと思います。
（サイン　古市　　）
＊全体的によく準備されおちついてできていたと思います。いいかんじです。

B. 7月企画活動報告（取材者：加藤　森田　三島）

1. 参加者

小学4～6年生19名、大学1・2年生8名

大学教員1名、小学校関係者1名、運営指導者1名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

・学生と児童とのコミュニケーションを積極的に取っており、児童・学生共に笑顔もあり、とても楽しい活動になった。

・準備が完全になされていなかった。ファイルの忘れなど

・その中でも臨機応変な行動ができており、授業を進行できていた。

2－2. 企画の内容

・質問やグループの代表者に発言をしてもらう、といった児童が考える場を多く取ることで授業の内容をより理解できるものとなっていた。

・電気が流れるものを探す際、グループのお友達と協力して探すことが出来ていた。

・画鋲をコルクボードに差し込んだり、ペットボトルキャップに番号を書くなど細かい作業も楽しんで取り組めていた。

・持ち帰りの際、児童の喜んだ表情が印象的であった。

2－3. 活動写真

3. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

前で説明する人、どの人も声にハリ、話し方のテンポよく 笑顔・手ぶり・身ぶり
子供たちの注意を向けさせることができていた
3Rの勉強・回路の勉強・カレンダー制作
いずれも子どもたちは楽しそうにやっていた（上手にアドバイスも入って）
PBCカレンダー：見事に変身して、ステキなリサイクルのおみやげになりました♪
次回も楽しみです。

（サイン 豊沢 ）

○活動を終えて（リーダーサイン 峪田 ）

①準備過程

準備量がとても多く、3回しか準備日がない事も相俟って、とても苦労したが、1年生のやる気や、2年生が家に準備物を持ち帰り、製作した事により、3回の準備日で無事終える事が出来た。

②企画の流れ・企画内容

PBCカレンダーの製作を通して、3R（リユース、リデュース、リサイクル）について学ぶ事と、電気が、どのようにして流れるのか、流れやすい物と流れ難い物は何かについて学ぶ事の二つである。

③学生の活動

学生は、企画の準備から、企画当日の動きまで、とても良く活動していた。企画の準備では、企画に間に合う様に最善を尽くして貰い、企画当日も、児童を楽しませようとしていた。

④テーマに対する指導の工夫

PBCカレンダーは、3Rが大切である事を児童に知って貰える様に、3Rに関するOX問題を出題し、児童が楽しみながら覚えさせる様にした。電気についても、流れる理由を、人を使い表していた。

⑤目標達成度

100点満点で言うならば、70点程である。理由としては、準備物の忘れ物が多くあった事が大きく減点した要因である。だが、多くの忘れ物があったにも関わらず、学生全員が臨機応変に対応し、企画が無事終わったため、大きな減点にはならなかった。

⑥総合評価

全体的に、とても切羽詰まった企画であったが、無事に終わりとても良かったと思う。3回の準備日しかなかったにも関わらず、これ程までの完成度が出来たのは、1,2年生の努力のお陰であると私は思います。

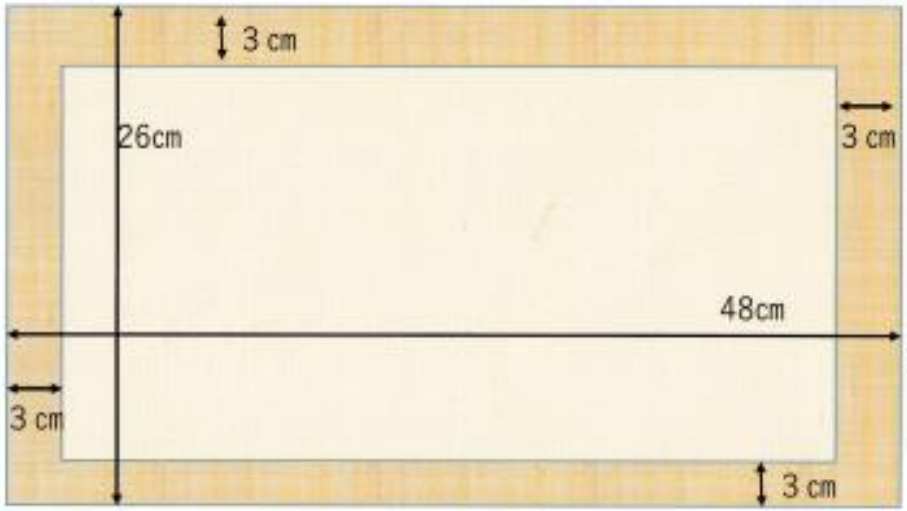
教員からの意見・評価

子どもたちの活力をうまくひき出していたと思います。

別紙ご参照下さい

（サイン 三島 岩終 ）

電気のお話しもおもしろかった
けれども
活動の連続性を考えると、
こんな「算数」の問題を
子どもたちに考えさせるのも
一つの方法かなと思いました。



1　「1週間」は何日？（→７日）

2　横一列を「1週間」として、
7個のキャップを等間隔で
両端のピンから枠までそれぞれ
３cm空けて横一列に並べた場合、
ピントとピントとの間隔は最大何cm？

3　1ヶ月は最大何日（→31日）
31日を７日（1週間一列）ごとに
並べると、何列必要？（→５列）

4　上下端のピンから枠まで
それぞれ3cm空けて、
縦に五列をつくろうとした場合
ピントとピントとの間隔は最大cm？

横の間隔は最大（４８－３×２）÷６＝７　7cm

縦の間隔は最大（２６－３×２）÷４＝５　5cm

C．10 月企画活動報告（報告者：濱島悠佑　日下部耀太）

1．参加者

小学 4～6 年生 21 名、大学 1・2 年生 7 名

大学教員 1 名、小学校関係者 2 名、教育委員会 1 名、運営指導者 1 名、観覧保護者 1 名

2．活動報告

2－1．活動の様子

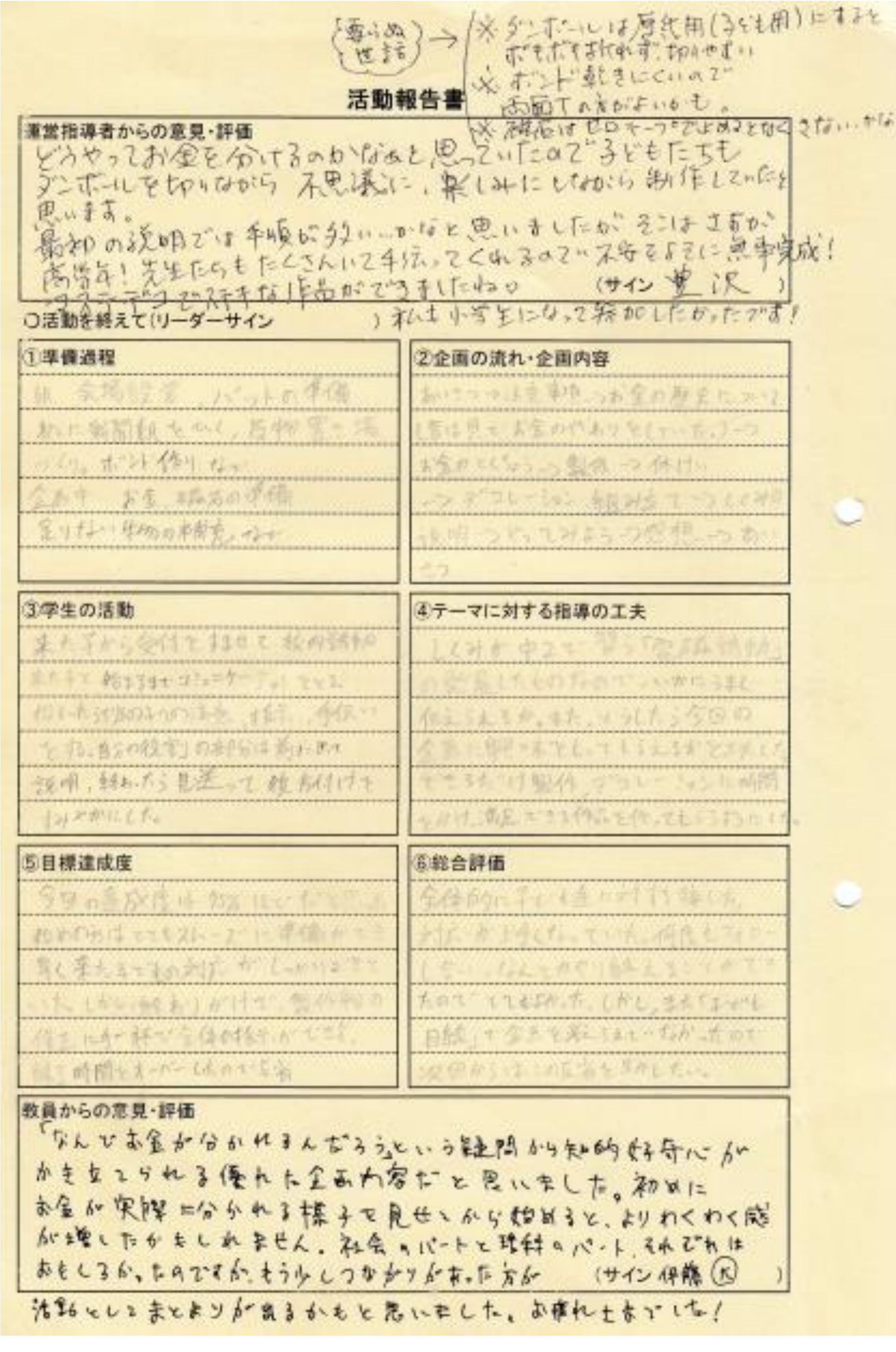
子供たちが大変活発な生徒が多い中しっかりとまとめられていたと思いました。ただ、企画の準備の段階で、早く来た生徒への対処が間に合っていないところも見受け、人数が少なくても改善策はあったのではないかと思った。

2－2．企画の内容

前に立って生徒たちに作り方を示す時には、左右どちらの生徒にも見えるようにしっかりと動かしていた。完成した時にいざ硬貨を入れる段階で、失敗して転がっていかない生徒がいた。一部の生徒が、のりは手が汚れるからいやだと言ってマスキングテープを多量に使ってすべて使い切ってしまい、残念がっていた生徒がいた。立ち入り禁止エリアにずかずか生徒が入って行っていた。

2－3．活動写真

3. 活動のまとめ



(要らぬ世話) → ※ダンボールは厚紙用（子ども用）にするとボキボキ折れず、切りやすい
※ボンド乾きにくいので両面テープの方がよいかも。
※補強はセロテープでとめるとなくさないかな

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

どうやってお金を分けるのかなぁと思っていたので子どもたちもダンボールを切りながら不思議に、楽しみにしながら制作していたと思います。
最初の説明では手順が多い…かなと思いましたが、そこはさすが高学年！先生たちもたくさんいて手伝ってくれるので不安をよそに無事完成！
オリジナルデコで素敵な作品ができましたね♡ （サイン 豊沢 ）

○活動を終えて（リーダーサイン ） 私も小学生になって参加したかったです！

①準備過程

[illegible]

②企画の流れ・企画内容

[illegible]

③学生の活動

[illegible]

④テーマに対する指導の工夫

[illegible]

⑤目標達成度

[illegible]

⑥総合評価

[illegible]

教員からの意見・評価

「なんでお金が分かれるんだろう」という疑問から知的好奇心がかき立てられる優れた企画内容だと思いました。初めにお金が実際に分かれる様子を見せてから始めると、よりわくわく感が増したかもしれません。社会のパートと理科のパート、それぞれはおもしろかったのですが、もう少しつながりがあった方が （サイン 伊藤 ㊞ ）
活動としてまとまりが出るかもと思いました。お疲れさまでした！

D. １１月企画活動報告（報告者：夫馬裕斗）

1. 参加者

小学 4～6 年生１０名、大学１・２年生１１名

大学教員１名、小学校関係者１名、運営指導者１名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

・笑顔で子どもと会話しようと努めていた。

・グルーガンの使用に注意していた。

・準備も素早く、スムーズに動けていた。

・遅刻や忘れ物には注意したい。

2－2. 企画の内容

・万華鏡の制作を行っていた。説明もゆっくりかつ、皆に見えるようにしていた。

・実験の解説が難しく、いろいろな方法でわかるように工夫していた。

・制作時、児童主体の活動になり学生は補助として動けていた。楽しそうだった。

2－3. 活動写真

3．活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

制作工程が簡単(?)だったのでデコタイムがたっぷりあって楽しそうだった。
今日は「勉強タイム」が「工作タイム」のあとになっていたので
テンション上がったまま勉強タイム？と思ったが [illegible] をはさんでいたので
何ら問題はなかった。(これもありかな)
子どもたちを集中させるのも上手でした。いい感じな挙手(質問)に苦労はしてたようですが…
「もっと勉強したいです」と話に [illegible] GOOD! [illegible] 引き下 (サイン 豊沢 [illegible])

○活動を終えて（リーダーサイン　がってく ([illegible]) よかったです。

①準備過程

それぞれ、学生たちが進んで準備を行っていたが、リーダーからの全体指示が足りなかった。企画で使う道具が表に出してあったため、児童が遊びはじめてしまった。全体的に準備不足だった。

②企画の流れ・企画内容

導入で、制作する万華鏡について説明。40分ほど、万華鏡を制作した後、後半から副実験などを通し鏡の反射について勉強する。

③学生の活動

各作業の注意事項を児童に伝える。児童が困っていたりケガをしそうな場合には声をかける。児童が主体的に授業を受けられるよう発問を適度に取り入れる。

④テーマに対する指導の工夫

鏡の性質についての説明が難しいため、図やパワーポイントを使い児童が理解しやすいように工夫。児童は万華鏡を制作するにあたって、飾りつけに時間をかけると予想したため時間を多くとった。

⑤目標達成度

学生の目標は「その場に応じた時間調整をする能力を身につける」だったが、目標通り、適宜時間調整を行い、円滑に企画をすすめることができた。児童は鏡の性質や反射について理解できたため、児童、学生、共に達成することができた。

⑥総合評価

児童を楽しませるという点では、企画は大成功だったと思う。ただ、鏡の性質についての学習は、あまり満足のいく結果とはならなかった。全体的には学生と児童共に実りのある一日となり、良かったと思う。

教員からの意見・評価

[illegible] 各班 [illegible] [illegible] [illegible] 5点 [illegible]。
[illegible] 鏡の使い方と注意が必要 ([illegible])
鏡に [illegible] 子どもは [illegible] と思う。(アンパンマン、サザエさん一家、ドラえもんなど)
解説では中学1年生の全反射の内容で難しい内容だった。この説明には工夫が必要だった。
アカデミーの先生全員によく準備しよく活動していた。成長していると感じた。
(サイン [illegible])

[illegible] 横からずらして見ると [illegible] 入射角と反射角が等しい

（６） 松山小学校

A. ６月企画活動報告（取材者：星野　井口　杉浦　北野谷）

1. 参加者

小学 4～6 年生 29 名、大学 1・2 年生 13 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、運営指導者 1 名、観覧保護者 2 名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

・学生と児童とのコミュニケーションを積極的に取っており、児童・学生共に笑顔を見せ、とても楽しい活動になった。

・準備、片付け、進行がとてもスムーズだった。

・説明に工夫がされており、印象に残りやすいものだった。

2－2. 企画の内容

・質問やグループの代表者に発言をしてもらう、といった児童が考える場を多く取ること

で授業の内容をより理解できるものとなっていた。

・My 顕微鏡は使用方法が簡単で持ち運びやすいものとなっているため、家庭でも簡単に

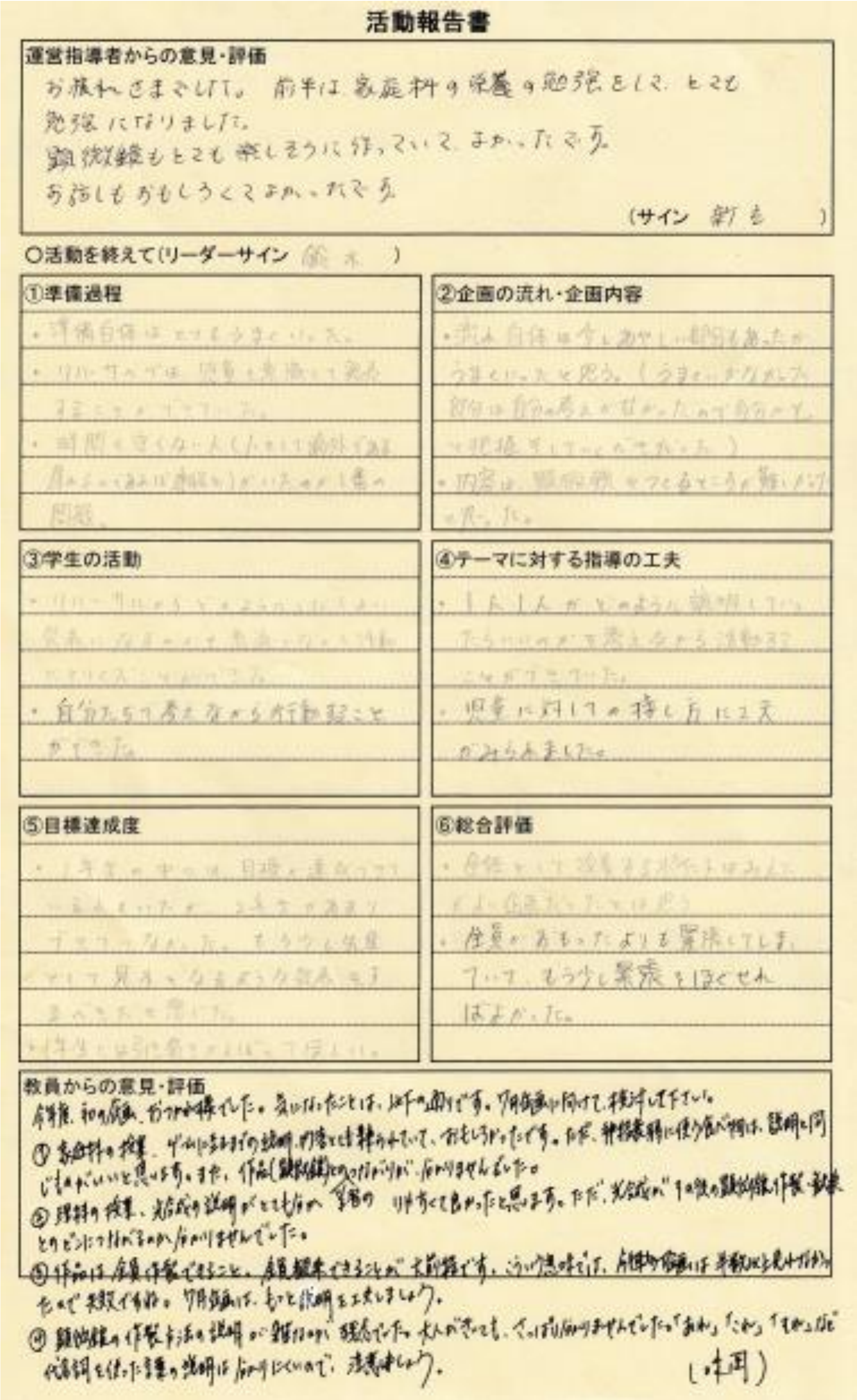
扱えるものとなっていた。

・My 顕微鏡でタマネギの皮を観察したときにどのようなものが見えるのか、スライドで

答え合わせをする必要があるのではないかと感じた。

・児童が楽しめる内容となっていた。

3. 活動のまとめ



活動報告書

運営指導者からの意見・評価

お疲れさまでした。前半は家庭科の栄養の勉強をして、とても勉強になりました。
顕微鏡もとても楽しそうに作っていてよかったです。
お話もおもしろくてよかったです。

(サイン　　)

○活動を終えて(リーダーサイン　　)

①準備過程

②企画の流れ・企画内容

③学生の活動

・自分たちで考えながら行動することができた。

④テーマに対する指導の工夫

・1人1人がどのような説明していたらいいのかを考えながら活動することができていた。
・児童に対しての接し方に工夫がみられました。

⑤目標達成度

⑥総合評価

・全員が思ったよりも緊張してしまっていて、もう少し緊張をほぐせればよかった。

教員からの意見・評価

B. 7月企画活動報告（取材者：柴田　野村　余吾）

1. 参加者

小学 4～6 年生 40 名、大学 1・2・3 年生 14 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、運営指導者 1 名、観覧保護者 3 名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

・児童に対して積極的に話しかけ、とても楽しそうにしていた。

・子どもたちが参加できる内容が多くて、より印象に残りやすかった。

・説明が丁寧で、子どもたちも制作に夢中になっていた。

2－2. 企画の内容

・蛍光色で人工いくらを作り、光る様子を見ることができたことで、子どもたちの興味を引き付けられていた。

・食べ物ビンゴゲームでは、どちらも含まれていない食べ物まで答えにあり、より理解が深まった。

・大きい人工いくらを触らせるときに、1班ずつ並ばせていたため予定より時間が押していたから、もっと作って2班で1つにするなどの工夫がいると思った。

2－3. 活動写真

3. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

お疲れさまでした。
人工イクラのできるところがとてもきれいでした。
ビンゴゲームも楽しそうでよかったです。

（サイン　新七　）

○活動を終えて（リーダーサイン　井口　）

①準備過程

班員で協力しながら景品や絵具などの準備をすることができた。

②企画の流れ・企画内容

前半に座学、後半に制作をしてきたことでメリハリをつけやすくすることができたかなと思う。

③学生の活動

企画内容を上手く把握できていない学生がいたが、互いに助け合いながら進めることができたのでよかったのではないかと思う。

④テーマに対する指導の工夫

案外に知られていない人工いくらについて行う。いくらを作るといってしまうと食べられるのではと間違えてもう手がいるかもしれないため楽しく進めていく一方で、注意喚起をしっかりと行うことを何とか工夫した。

⑤目標達成度

学生一人一人の説明の行い方は最初のときよりもかなり成長できていたただ、自分が担当する場所だけだったため、全体からは全体を見れるといいかなと思う。

⑥総合評価

各自負だけでいくと成功した感じにはなっているが、細かいところまで見ていくと制作や時間配分ができていないところがあったため、完璧なものではない。

教員からの意見・評価

準備の段階ではスムーズにいっているなと思ったけど
企画ではオンレ時間内では終われていない部分があり残念だった。

（サイン　　）

C. １０月企画活動報告（報告者：河合恵里伽）

1. 参加者

小学 4～6 年生９名、大学１・２年生８名
大学教員１名、運営指導者：大野さん、観覧保護者１名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

松山小学校の企画に参加した児童は、元気な子が多いと感じた。しかし、元気が良すぎて先生役の学生が話しているのにも関わらず、隣の子と話してしまう子や作業に飽きて床に寝っ転がってしまう子がいた。その児童に対して、学生がしっかり注意ができていたと思った。クイズの時には、積極的に意見を述べており楽しそうに参加していたのが印象的であった。ケガなどもなく、無事に企画がやり切れていた。

2－2. 企画の内容

今回の企画では、「異なる色の絵の具を混ぜたら何色ができるのか」や「信号反応」などの児童が実験を経て学ぶ活動が多かったため、より児童が理解しやすいような工夫がなされていた。他にも、小学生には難しい内容を理解できるように、わかりやすく簡単に例を入れながら説明する工夫もなされていた。改善したほうがよいと思う点は２つあった。１つ目は、制作時間の長さだ。制作時間が長く、終わった子同士が遊び始めたりじゃれ合ったりし始めていたため、制作時間を検討し直す必要があると感じた。２つ目は、演示実験の仕方だ。児童を前に集めて実験を行うのはよいと思うが、後ろの子や端の子が見えなくて残念がっていた。

2－3. 活動写真

3. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

絵の具やリトマス紙で色の変化の実験が分かりやすくよかったです。
また、コーヒーフィルターで花を作って色が変わるところは、本当にきれいな花になったようでした。
お疲れさまでした。

（サイン 新$\!$え ）

○活動を終えて（リーダーサイン 松原 ）

①準備過程

鈴木さんがリーダーだった時は、いつも17時くらいに終わっていたけど、自分がリーダーの時はいつも18時を回っていてとてもバタバタしていた。
前の日からこの日はこの活動をするということを決めてから行うべき。

②企画の流れ・企画内容

企画の内容は酸やアルカリといった難しい内容だった。
流れとしては初めに、図工の分野として楽しむことを目的とし後半に理科をやるということになっていて、理科のところで少しぐたぐたになった。

③学生の活動

子どもとの接し方がみんななれてきていて良かった。
危険な薬品を使うということを強調して、子どもたちにしっかりと伝え、注意をして企画を行った。

④テーマに対する指導の工夫

リハの時に、理科の内容が難しすぎて、絶対に理解できないということになっていたけど、分かりやすい単語ばっかでたいぶ分かりやすくなっていた。
子どもたちが楽しめるように、質問を多くして成功した。

⑤目標達成度

色を混ぜるとこうなるということを復習をしたりと、分かってもらった上で楽しく活動ができた。
酸やアルカリをつけるとどうなるかということを実際に見せて、頭に残るように発表することができた。

⑥総合評価

企画としては、何とか成功したという感じだった。グループの共有することがあまり伝わってなかったりといった反省もたくさんあった。
特に今回の企画はリーダーの力不足なのかなと強く思った。

教員からの意見・評価

参加した子どもたちが，笑顔で作品を持ち帰る様子が印象的でした。
落ち着きがない子どももおり，作業がうまく進行するのか心配な場面もありましたが，チームメンバーが協力し合い，うまく対応できたと思います。
活動の途中，教室全体を見渡す場所（黒板の前で全体の進行を把握する）に，だれもいない時間がありました。安全上の必要性からも，リーダーの立場となった人は，常に全体の進行が確認できる場所にいるように心掛けたいものですね。
素敵な企画をありがとうございました。

三島浩路 ）

D. 11 月企画活動報告（報告者：松原、市川）

1. 参加者

小学 4～6 年生 16 名、大学 1・2 年生 7 名

大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、運営指導者 1 名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

・2 年生だけでなく 1 年生もだいぶ落ち着いていて、学生全員で助け合いながら大きなアクシデントもなく無事企画を成功させることができていた。

・先生が明るく楽しく企画を行うことで、児童も明るく企画を楽しんでいた。

・行き詰まることもなく、とてもスムーズに企画を行うことができていた。

2－2. 企画の内容

・風呂敷の使い方を学んで、組紐を作成し、最後に風呂敷のストラップを作成するといった流れで、最後にまた風呂敷を出すことにより最初に行った風呂敷の復習ができるという工夫がされていた。

・全員で児童が静かになるまで企画を進めないというのを徹底していた。

・10 分使う予定のところが 3 分ほどで終わってしまったり、逆に 5 分のところが 15 分かかってしまったりと時間を意識するべき。

・休憩時間にパソコンを触ろうとする児童がいるので、パソコンの周りに立ち入り禁止カードを設置するか、常に先生がいるようにする。

3. 活動のまとめ

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

お疲れさまでした。
昔の言葉と今の言葉が違ってきていることは、分からないことがありびっくりしました。
またふうりきでペットボトルを包む方法は思いもよらずためになりました。
ストラップは組みひもとふうりきの二種類がとてもかわいらしく素敵でした。
ありがとうございました。
（サイン 新田 由賀子）

○活動を終えて（リーダーサイン 木浦）

①準備過程

パワポの台本、企画準備等、本番に向けて日程は予定通りに行えた。途中、教員採用試験の説明会が重なり、パワポの進行が予定に間に合わなかったこともあり、戸惑ってしまったこともあるが、班員の方々の支えのお陰で本番に向けて着実に行えた。

②企画の流れ・企画内容

企画の流れはとてもスムーズに行え、良かったと思う。古文中心の内容であったため、国語が苦手な子は困っていたが、クイズを行うことで、児童の関心を引き出すことができたので良かったと思う。ただ、時間配分が適切でない箇所があったのは残念。

③学生の活動

班員全員が企画に対して協力的であり、自分の担当する内容の班、役割を十分に果たすために、積極的に取り組んできた。そのおかげで、パワポ作成も企画準備も特に困ることがなく、企画の内容について深く考えることができ、良かった。

④テーマに対する指導の工夫

昔の内容と言葉の道具を通して学ぶ企画だった。言葉は説明しにくかったが、クイズを行うことで児童の関心を引き出せた。道具は班の子と協力して風呂敷、何かを作ってもらい組みひも作りを通じて楽しく学べた。内容面でも大学の先生に行っていただいたので、児童に優しい企画にできた。

⑤目標達成度

班員全員が自分の担当する役割を把握し、当日ではスムーズに取り組めたと思う。説明も真剣に行えたので良かった。
児童は日頃使わない言葉や道具に触れ、とても楽しそうな雰囲気であったので良かった。

⑥総合評価

全体的に班員の協力もあり、企画をスムーズに行うことができた。児童と共に大学生も楽しめた活動にできたと思う。
一方で、時間配分の甘いところがあった。時間調整が行えるよう、もう少し余裕のある時間設定をしていなかったため、予定終了時間を過ぎてしまう形だった。

教員からの意見・評価

組みひもを作るのに集中しすぎて、みなさんの様子を見るのがおろそかになってしまいましたが、楽しい企画で、きれいなおみやげもできて、子どもたちの記憶に残る授業になったと思います。
おつかれさまでした。
（サイン 伊藤 大）

（7） 春日井小学校

A. 10 月企画活動報告

活動報告書

運営指導者からの意見・評価

一方的な話し方ではなく、子供とのキャッチボールで話し方、話のスピードもわかりやすく、良かったと思います。

（サイン 石志成子）

○活動を終えて（リーダーサイン 中野弘貴）

①準備過程

準備期間が３週間と少し短かったがなんとか企画当日を迎えた。前日金曜日の夜まで準備をしたため班員には負担をかけたが、班員の協力もあり準備ができた。

②企画の流れ・企画内容

過冷却については説明が単調になってしまったが、実験のインパクトとしては良かった。マローブルーも色が変わるというわかりやすい変化がよかった。しおり作りも楽しんで行っていたように見えた。

③学生の活動

準備、企画、片付けを円滑に進めることができた。企画中は児童に積極的に話かけ、コミュニケーションをとっていた。臨機応変な対応ができていた。

④テーマに対する指導の工夫

過冷却の実験では児童自身が動き体験させることで理解を深めようとした。マローブルーの色水実験ではしおり作りやシミュレーションを行うことでより理解を深めようとした。

⑤目標達成度

過冷却の原理を知ってもらうことは難しかったが、各水溶液の有用性について理解してもらうことはできたのではないかと考える。クイズや課題をこなすことで楽しみながら学習してもらえたのではないかと考え、達成度は高いと思った。

⑥総合評価

難しい内容であったが、インパクトのある実験を用いた企画であった。準備や企画中の学生の動きは円滑で無事に企画を終えることができた。難しい企画だが班員の協力もありうまく終えることができたのではないかと考える。

（８） 小野小学校

A. ７月企画活動報告（報告者：梶川、松原、水谷）

1. 参加者

小学 4～6 年生 17 名、大学 1・2 年生 7 名

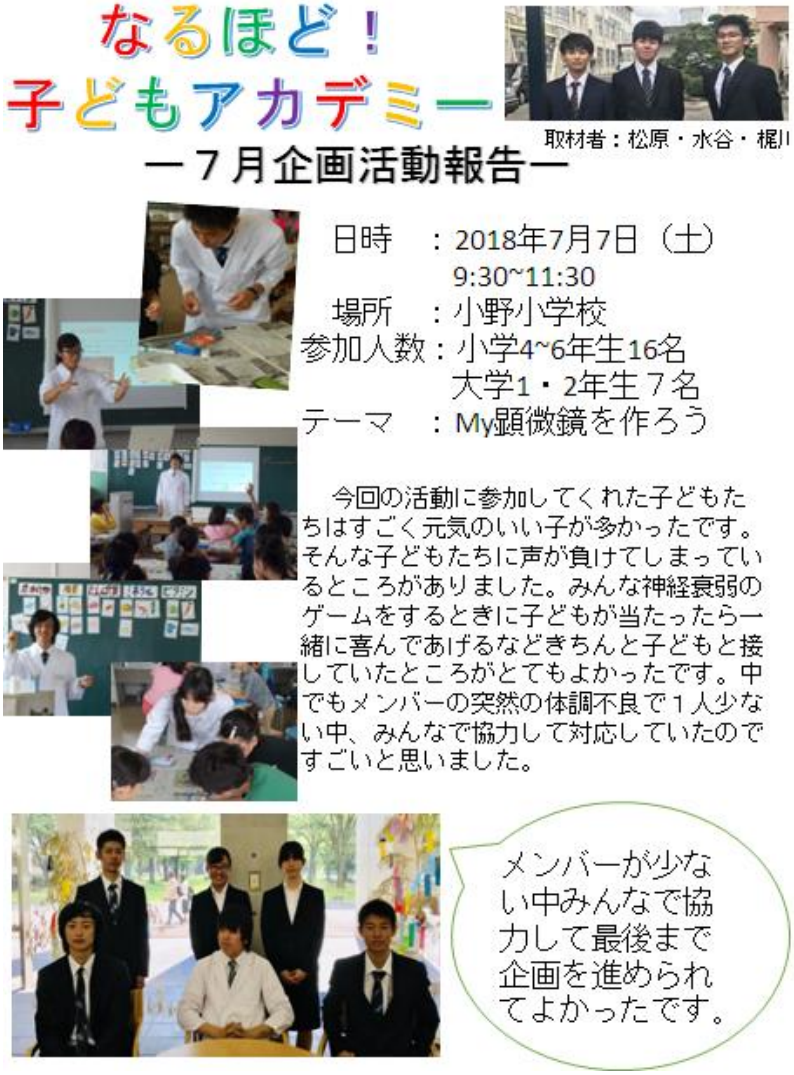
大学教員 1 名、小学校関係者 1 名、教育委員会 1 名、運営指導者 1 名、観覧保護者 4 名

2. 活動報告

2－1. 活動の様子

・企画者側の人数が減ってしまうというアクシデントがあり、企画が成功するのかと見ていて不安になったが、2 年生を中心に互いにカバーし合って企画を成功させることができた。

またいつこのようなことが起こるかもしれないので他の人が担当するところでもしっかりと理解して、説明できるようにすることは大切。



・企画者側が明るく楽しく行うことで、児童も楽しく授業を受けることができていていた。

2－2. 企画の内容

・児童の発言にうまく答えることができ、説明がわかりやすかった。

・ペットボトルを切っていく時、カッターを使わないといけないが児童にはカッターは危険ということで最初の切り口を企画者側がカッターで切り、残りは児童にはさみで切ってもらうという工夫をしていた。

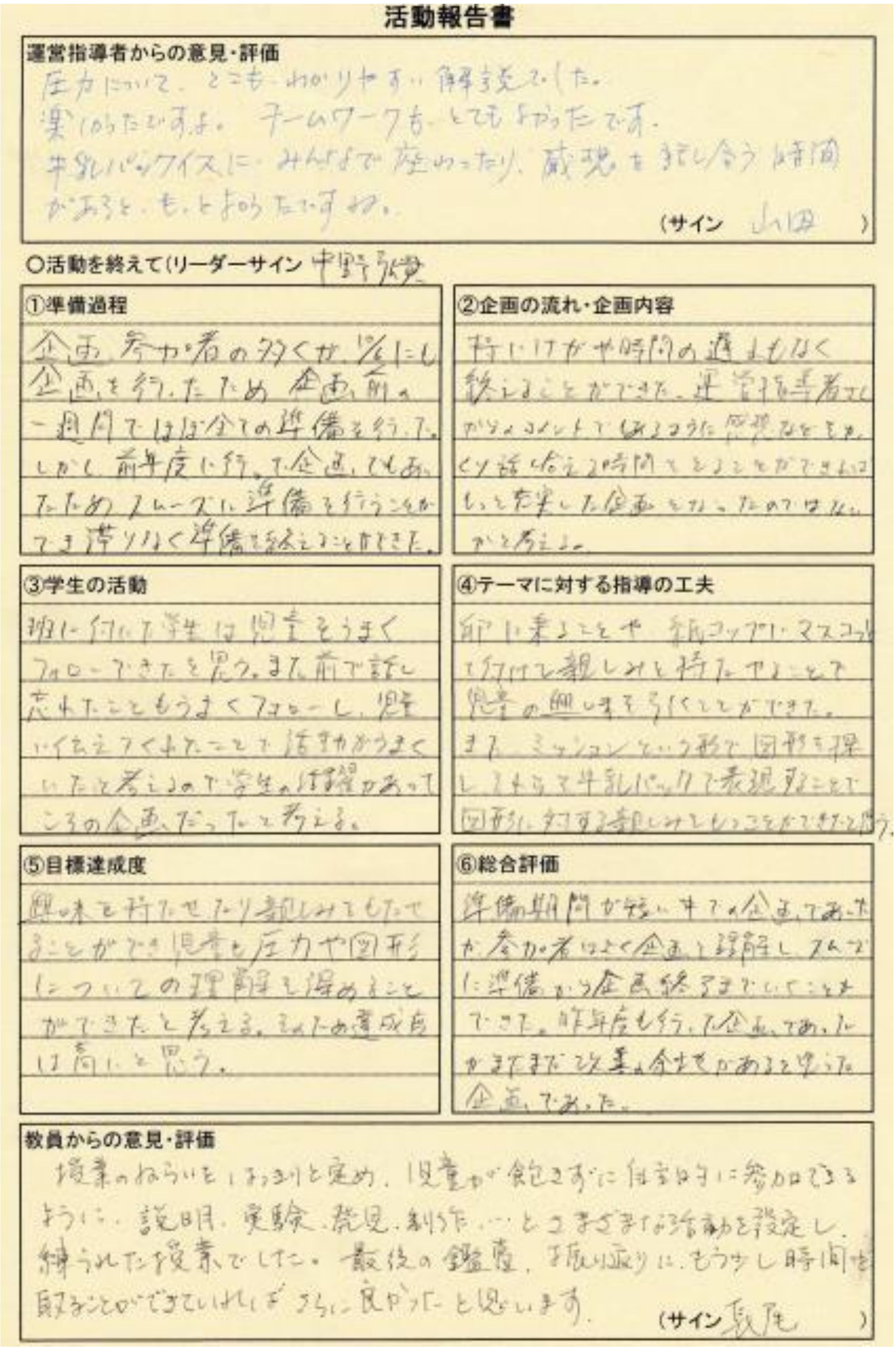
・休憩時間の時、児童が走り回っていて優しく注意するだけではなく、時には少し厳しく注意するべき。

・児童には難しい言葉があったので、工夫して話をするべき。

・ホワイトボードを使って楽しく授業を行うことができていたが、ホワイトボードで遊んでしまう子もいたので、使い終わったらすぐに片付けることを徹底した方が良い。

（９）北城小学校

A. 10 月企画活動報告



活動報告書

運営指導者からの意見・評価

圧力について、とてもわかりやすい解説でした。楽しかったですよ。チームワークもとてもよかったです。牛乳パッククイズに、みんなで確かめったり、感想を話し合う時間があると、もっとよかったですね。

（サイン 山田 ）

○活動を終えて（リーダーサイン 中野弘貴

①準備過程

企画参加者の多くが10/6にも企画を行ったため企画前の一週間ではほぼ全ての準備を行った。しかし前年度に行った企画でもあったためスムーズに準備を行うことができ滞りなく準備を終えることができた。

②企画の流れ・企画内容

特にけがや時間の遅れもなく終えることができた。運営指導者さんからのコメントにあるような感想などをもっとより話し合える時間をとることができればもっと充実した企画となったのではないかと考える。

③学生の活動

班に付いた学生は児童をうまくフォローできたと思う。また前で話し忘れたこともうまくフォローし、児童に伝えてくれたことで活動がうまくいったと考えるので学生の活躍があってこその企画だったと考える。

④テーマに対する指導の工夫

卵に乗ることや、紙コップにマスコットを付けて親しみを持たせることで児童の興味を引くことができた。また、ミッションという形で図形を探し、それらを牛乳パックで表現することで図形に対する親しみをもつことができたと思う。

⑤目標達成度

興味を持たせたり親しみをもたせることができ児童も圧力や図形についての理解を深めることができたと考える。そのため達成度は高いと思う。

⑥総合評価

準備期間が短い中での企画であったが参加者はよく企画を理解しスムーズに準備から企画終了まで行うことができた。昨年度も行った企画であったがまだまだ改善の余地があると思った企画であった。

教員からの意見・評価

授業のねらいをはっきりと定め、児童が飽きずに自主的に参加できるように、説明、実験、発見、制作…とさまざまな活動を設定し、練られた授業でした。最後の鑑賞、振り返りに、もう少し時間を取ることができていれば、さらに良かったと思います。

（サイン 長尾 ）

３．活動を振り返って

（１）学生からの意見

土曜チャレンジ・アップ教室に参加する学生を対象に 4 月上旬と 12 月下旬の 2 回、アンケートを実施した。アンケート回答者は 40 名。アンケートの結果は以下の通りである。

ア．回答者の学年と性別

	1年生	2年生	総計
男性	21	6	27
女性	7	6	13
総計	28	12	40

イ．アンケート結果

40 項目の回答については、「最も当てはまる」「当てはまる」「どちらも当てはまらない」「やや当てはまらない」「当てはまらない」の順に 5、4、3、2、1 点と得点化した。

No.	質問項目	事前調査				事後調査			
		全体（S.D.）		2年生（S.D.）		全体（S.D.）		2年生（S.D.）	
				1年生（S.D.）				1年生（S.D.）	
1	児童への指示は１回で通じる	2.5	(0.9)	2.9	(0.9)	2.6	(0.8)	2.8	(1.0)
				2.3	(0.9)			2.5	(0.7)
2	児童は学生の説明中におとなしく話を聞ける	3.1	(0.7)	3.2	(0.7)	3.7	(0.9)	3.8	(1.0)
				3.1	(0.7)			3.7	(0.8)
3	児童には道具の使い方をある程度説明しなくてはならない	4.1	(1.0)	3.8	(1.1)	3.9	(0.9)	3.8	(1.1)
				4.2	(1.0)			3.9	(0.9)
4	児童は制作に必要な道具を問題なく扱うことが出来る	3.3	(0.7)	3.8	(0.6)	3.9	(0.7)	3.9	(0.5)
				3.1	(0.7)			3.9	(0.8)
5	全体で言った指示は児童に通じる	2.9	(0.8)	3.0	(0.8)	3.2	(0.9)	3.7	(0.8)
				2.8	(0.7)			3.0	(0.8)
6	児童への指示は個人対応の方が良い	3.0	(0.7)	2.8	(0.4)	2.8	(0.8)	2.5	(0.9)
				3.0	(0.8)			2.9	(0.7)
7	児童に目線を合わせるべきである	4.5	(0.7)	4.8	(0.4)	4.6	(0.7)	4.8	(0.6)
				4.4	(0.8)			4.6	(0.7)
8	学生は児童話すとき目線を合わせなくても良い	1.6	(0.7)	1.5	(0.6)	1.5	(0.8)	1.3	(0.5)
				1.6	(0.7)			1.6	(0.9)
9	学生は児童を意識して言葉を選ばなくてはいけない	4.7	(0.6)	4.8	(0.4)	4.5	(0.6)	4.7	(0.5)
				4.6	(0.6)			4.4	(0.6)
10	児童は学生が言ったことをすぐに理解出来る	2.8	(0.8)	3.3	(0.8)	3.2	(0.9)	3.5	(0.9)
				2.6	(0.6)			3.0	(0.9)
11	児童への指示は何回かする必要がある	3.7	(1.0)	4.1	(0.9)	3.4	(0.8)	3.5	(1.0)
				3.5	(0.9)			3.4	(0.7)
12	児童は色々な物に興味を示す	4.3	(0.8)	4.5	(0.6)	4.3	(0.7)	4.5	(0.5)
				4.1	(0.8)			4.3	(0.7)
13	一生懸命活動している児童に支援は必要ない	1.9	(0.8)	2.0	(0.9)	2.2	(1.0)	2.3	(1.2)
				1.8	(0.7)			2.1	(0.9)
14	企画中は学生も企画を楽しんで親しく接するべきだ	4.6	(0.6)	4.8	(0.4)	4.5	(0.6)	4.8	(0.4)
				4.5	(0.7)			4.4	(0.6)
15	他学年としっかりコミュニケーションをとれる（学生間の交流）	3.4	(1.0)	3.3	(0.8)	3.7	(1.0)	3.5	(1.2)
				3.4	(1.0)			3.7	(0.9)

16	きちんと挨拶をすることが出来る（活動参加者との交流）	4.6	(0.5)	4.8	(0.4)	4.7	(0.4)	4.8	(0.4)
				4.5	(0.6)			4.7	(0.5)
17	活動中の児童に適切な支援ができる	3.5	(0.8)	3.5	(1.0)	3.9	(0.6)	4.1	(0.8)
				3.5	(0.8)			3.9	(0.5)
18	企画前後と企画中で児童の接し方を変える事が出来る	3.5	(0.8)	3.3	(0.7)	3.6	(0.9)	3.5	(1.2)
				3.5	(0.8)			3.6	(0.8)
19	児童から話を振ってもらわないと会話が出来ない	2.2	(1.0)	2.1	(1.1)	1.9	(0.7)	1.7	(0.6)
				2.3	(0.9)			2.0	(0.7)
20	児童の反応を見ながら話すことが出来る	3.6	(1.0)	3.6	(1.0)	3.9	(1.0)	4.2	(0.9)
				3.6	(1.0)			3.8	(1.0)
21	児童と話をした時、長く会話が続かない	3.1	(1.1)	3.2	(1.3)	2.5	(1.0)	2.2	(1.2)
				3.1	(1.1)			2.6	(0.9)
22	児童と話をするときに話題に困らない	2.9	(1.1)	2.8	(1.1)	3.5	(1.0)	4.0	(1.0)
				2.9	(1.1)			3.2	(0.9)
23	教壇で大きな声で話すことが出来る	3.7	(1.0)	4.4	(0.9)	4.4	(0.7)	4.5	(0.6)
				3.4	(0.9)			4.4	(0.7)
24	自分の任された仕事以外でもそれなりの働きが出来る	3.3	(0.8)	3.3	(0.9)	3.7	(0.8)	4.2	(0.7)
				3.3	(0.7)			3.4	(0.7)
25	自分の任された仕事をこなすことが出来る	4.0	(0.8)	3.7	(0.8)	4.3	(0.7)	4.4	(0.6)
				4.1	(0.7)			4.2	(0.7)
26	班の児童を前に注目させる声かけが出来る	3.6	(0.9)	3.9	(0.8)	4.3	(0.6)	4.4	(0.5)
				3.5	(0.9)			4.2	(0.7)
27	児童をまとめることができる	3.3	(0.7)	3.4	(0.9)	3.6	(0.7)	3.8	(0.9)
				3.2	(0.7)			3.5	(0.6)
28	児童の顔を見ながら話すことが出来る	4.1	(0.9)	3.9	(0.9)	4.3	(0.8)	4.4	(0.5)
				4.1	(1.0)			4.2	(0.9)
29	カンペを見ずに話すことが出来る	3.3	(1.0)	3.8	(1.1)	4.2	(0.9)	4.5	(0.6)
				3.1	(0.9)			4.0	(0.9)
30	教壇で大きな声で話す自信がある	3.5	(1.1)	4.0	(1.1)	4.1	(0.9)	4.3	(0.8)
				3.3	(1.1)			4.0	(0.9)
31	教員になりたい	4.8	(0.4)	4.8	(0.6)	4.6	(0.6)	4.8	(0.4)
				4.9	(0.3)			4.5	(0.7)
32	教員になるには座学が１番必要である	2.4	(0.8)	2.3	(0.8)	2.4	(0.8)	2.5	(1.0)
				2.4	(0.7)			2.3	(0.7)
33	教育実習は完璧にこなせる	2.0	(0.9)	1.6	(0.8)	1.9	(0.9)	1.8	(1.0)
				2.1	(0.9)			1.9	(0.9)
34	教材作成は不安である	4.0	(0.9)	4.3	(0.8)	3.6	(1.1)	3.5	(1.0)
				3.8	(0.9)			3.7	(1.2)
35	指導案を書くのには自信がある	2.2	(1.0)	1.8	(1.0)	2.3	(0.9)	2.5	(1.0)
				2.3	(0.9)			2.3	(0.8)
36	教員になるには実践が必要である	4.8	(0.5)	4.9	(0.3)	4.7	(0.5)	4.8	(0.4)
				4.7	(0.5)			4.6	(0.6)
37	教材を作るのには自信がある	2.6	(1.0)	2.5	(1.3)	2.9	(0.8)	2.8	(0.8)
				2.6	(0.8)			2.9	(0.8)
38	指導案を書くのは不安である	4.1	(1.0)	4.1	(1.2)	3.9	(1.1)	3.6	(1.3)
				4.1	(0.9)			4.0	(0.9)
39	児童が好きである	4.3	(0.8)	4.7	(0.6)	4.6	(0.6)	4.8	(0.6)
				4.2	(0.8)			4.5	(0.6)
40	教育実習が不安である	4.2	(1.0)	4.2	(1.0)	3.9	(1.0)	3.9	(1.3)
				4.1	(1.0)			3.9	(0.8)

（２）土曜チャレンジ・アップ教室を振り返って（教員から）

春日井市教育委員会から中部大学あてに、土曜チャレンジ・アップ教室に関する依頼連絡をいただいた。4 月に入り、春日井市教育委員会のご支援のもと、年間スケジュールと土曜チャレンジ・アップ教室を実施する春日井市立小学校 9 校が決定し、今年度の活動が始まった。事前準備として、春日井市教育委員会のご支援のもと、土曜チャレンジ・アップ教室を実施する各小学校の家庭科室の下見を各小学校の校長先生、教頭先生、教務主任の先生方によるご協力を得て、5 月下旬に行った。下見では各小学校へ代表学生 3～4 名が参加し、土曜チャレンジ・アップ教室を開催する教室の場所や室内の配置、備品の個数、さらには大学生や児童の動線を確認した。また学内では、教科指導教員による企画内容や小学生への指導方法についての研修会のほか、小学校における活動への心構えや身だしなみなどの助言を行った。

6 月に入り、土曜チャレンジ・アップ教室が始動した。2018 年 12 月までに、のべ 608 名の児童が参加してくれ、複数回にわたり継続して参加する児童もいた。土曜チャレンジ・アップ教室の最後には児童らの感想を簡単にまとめて提出してもらった。児童らの素直な反応は、企画内容の構成や学生の説明方法に加え、土曜チャレンジ・アップ教室を見直すきっかけとなり、次の企画を考える際の学生らの励みになった。また、土曜チャレンジ・アップ教室を終えた学生からは上記のような感想が得られ、小学校現場での体験が学生自身の成長とともに、個人の課題を得たことが伺える。

最後に、春日井市教育委員会と学校長に貴重な機会をいただいたこと、そして、指導運営委員の方々には、土曜チャレンジ・アップ教室における安全面の配慮や児童への接し方についてご指導ことに深く感謝したい。

活動情報の公開

なるほど!子どもアカデミーホームページ

中部大学＞現代教育学部＞なるほど！子どもアカデミー＞今年度の活動

随時、活動の様子を公開している。https://www3.chubu.ac.jp/kodomo_academy/（2019 年 2 月 4 日確認）

付記

本活動は、**中部大学現代教育学研究所**「教育的人間力育成プロジェクトなるほど！子どもアカデミー]、春日井市教育委員会より研究及び活動に対する経費支援を受けた。

あとがきにかえて

「子どもアカデミー」には春日井市内外から子どもたちが多数参加され、熱心に講座に取り組んでいただきました。知的な活気にあふれる講座となったことをこの場を借りてお礼申し上げます。

本活動全体は、9 名の教員がそれぞれの専門性を生かしながら協同して推進しており、今後も継続していく予定です。主な役割分担として、全体統括、渉外を高木、概念、理論研究を三島、学生への教科指導を高木・小笠原・橋本・小池・長尾・味岡、成果に関する調査研究を三島・古市・伊藤、運営事務を伊藤・味岡が担当していますが、適宜全員で協議しながら進めました。本報告書もほぼ全員が何らかの形で執筆に関わっており、編集作業は主に味岡が行いました。

私たち教員の願いは、「子どもアカデミー」という地域に根ざした課外活動において、教師を目指す学生たちが教職に関する実践力をさらに高め、人間的な成長を遂げていくことです。そのような仕組みとして「子どもアカデミー」そのものも成長していければと願っています。

これからも地域や関係のみなさまのご支援をお願い致します。

2018 年度　「子どもアカデミー」活動報告書

発行日　2019 年 3 月 31 日
編集・発行　中部大学現代教育学部現代教育学科
「子どもアカデミー」
〒487-8501　愛知県春日井市松本町 1200
中部大学現代教育学部現代教育学科
TEL　0568-51-1111（代表）
代表　高木　徹